



TAMA UNIVERSITY  
多摩大学

2017年度

多摩大アクティブ・ラーニング発表祭レジューメ集



日時：2017年12月9日（土） 13:00～17:00

会場：多摩大学多摩キャンパス 101教室,201教室,112教室,211教室,212教室

主催：多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター

# 2017 多摩大



TAMA UNIVERSITY  
多摩大学

# A・L 発表祭



～脱・サイレント マジョリティ～

## 「走れ！」多摩大式 アクティブ・ラーニング

日時 2017年12月9日(土)  
13:00～17:30 (12:00 受付開始)

場所 多摩大学 多摩キャンパス

- 内容
- ・プロジェクト型学習、研究、A・Lプログラムの成果発表
  - ・帝塚山大学様、東京経済大学様、明治大学様の招待発表
  - ・多摩大学目黒中・高 高大接続 A・Lプログラムの成果発表

詳細及び発表プログラムは多摩大学ホームページをご覧ください。(→QRコード)  
[http://www.tama.ac.jp/cooperation/managementcenter/2017\\_ActiveLearning.html](http://www.tama.ac.jp/cooperation/managementcenter/2017_ActiveLearning.html)  
〈お問い合わせ〉TEL:042-337-7529 (多摩大学経営情報学部教務課)



# 目次

主催者挨拶	P2
プログラム	P3
2017多摩大A・L発表祭配置図	P4
A会場（101教室）レジュメ	P7
B会場（201教室）レジュメ	P28
C会場（112教室）レジュメ	P45
D会場（211教室）レジュメ	P69
E会場（212教室）レジュメ	P88
アクセス・スクールバス	P106

※各レジュメの右上に、発表部門及び分野カテゴリーを記載しています。

多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター長  
金 美徳

### 開催のご挨拶

初冬の候、皆様ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度はご多用のところを多くの方々にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

多摩大学では開学以来、大学内の机上の学修にとどまらず、学生が地域をはじめとする学外のフィールドに出て自らの手と足を動かして活動し、行政・企業・NPO・地域団体・地域住民などのさまざまな関係主体と連携しながら、問題発見と課題解決を目指すゼミ活動を行ってまいりました。

一般的に“学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法”と定義されるアクティブ・ラーニングですが、本学が取り組んできた学習体系はまさにその先鞭をつけるものであったと自負いたしております。

そして 2016 年度から、開学以来実践してきたアクティブ・ラーニングをさらに活性化すべく、「アクティブ・ラーニング支援センター」を設置し、学生の学修を支援しています。2017 年度も多種多様なプロジェクト、研究、アクティブ・ラーニングプログラムが展開されました。本活動の成果を広く共有する機会として『2017 年度 多摩大アクティブ・ラーニング発表祭』を開催させていただきます。

地域の皆様はじめ、行政、企業、NPO、教育機関の皆様と交流を深めるとともに、新しいプロジェクト等が生まれるきっかけづくりになれば幸いです。  
どうかお時間の許す限りごゆっくりとお過ごしください。

# 2017多摩大A・L発表祭 プログラム

招待発表  
: 多摩大学目黒中・高発表  
: 多摩大学目黒プロジェクト型学習<●>、ALPプログラム<◇>、研究<■>  
凡例: 部門<四角>: プロジェクト型学習<●>、ALPプログラム<◇>、研究<■>  
分野カテゴリー<丸>: 地域<●>、グローバル<◇>、ビジネス<○><△>

12:00 受付開始		第1部			第2部		
		C会場:112教室			C会場:211教室		
時刻	発表者	発表タイトル	発表者	発表者	発表タイトル	発表者	発表者
時刻	発表者	発表タイトル	発表者	発表者	発表タイトル	発表者	発表者
13:00	開会の挨拶 多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター長 金美穂		補佐: 飯田	補佐: 栢原		補佐: 下井	補佐: 小林
13:10 ~13:20							
13:20	東大和市ひがしやまの食の今昔物語 〜多摩の文化を味わい、知ろう!〜 ①	B-1 ● オフサイ志明ーティング B-2 ● 多摩市世代交流プログラム 〜学生がつながり、未来のまちづくり〜 B-3 ● 会議特化型インターンシップ B-4 ● 多摩大学・上海東海学院双方向サ マープログラム B-5 ● 多摩未来奨学金プロジェクト「教育・文化ガ ループ」多摩のいいね!を奏進しよう SNSを 用いた多摩地域連携企画の提案	眞山謙一朗ゼミ ① 眞山謙一朗ゼミ ② 眞山謙一朗ゼミ ③	高木博樹ALP研 究室 多摩大 学目黒高校 高木博樹ALP研 究室 多摩大 学目黒高校	D-1 ● 若者のバイク離れ D-2 『日本一人口の少ない島の観光開発と その可能性』 D-3 ◆ 虫よけ薬の開発コンサルタント D-4 「ハワースポット」の魅力を調査計測に よる生理学的指標の観点から分析す る読み D-5 リップクリームの開発	ハートルゼミ 杉田文章ゼミ (青ヶ島班) 多摩大学目黒 高校 良基徳和ゼミ 高木博樹ALP研 究室 多摩大 学目黒高校	良基徳和ゼミ ALPプログラム 地域観光研 究の発展高 山多加音
13:35	東村山市村山×寺×御朱印〜御朱 印で地域に愛着を〜			栢原伸也ゼミ		多摩大学目黒 高校	
13:50	A-1 ● 若者にとって魅力ある多摩地域の創 生〜地域内高齢者活躍による若者 呼び込みの可能性と提案〜 A-2 ● 多摩未来奨学金プロジェクト「健康・福 祉・環境グループ」地域の多様な資源 と多様な人でつくる新しいチャレンジ」 招待発表 ②			経営情報学部 川内平夏		石川晴子ゼミ 野塚美穂ゼミ	中庭光彦ゼミ 松本祐一ゼミ
14:05							
14:20	生産業集積「フーンパレ」から」の特 質と今後の方向性						
14:35 ~15:00							
休憩・教室移動(25分)							
		B会場:201教室			D会場:212教室		
時刻	発表者	発表タイトル	発表者	発表者	発表タイトル	発表者	発表者
時刻	発表者	発表タイトル	発表者	発表者	発表タイトル	発表者	発表者

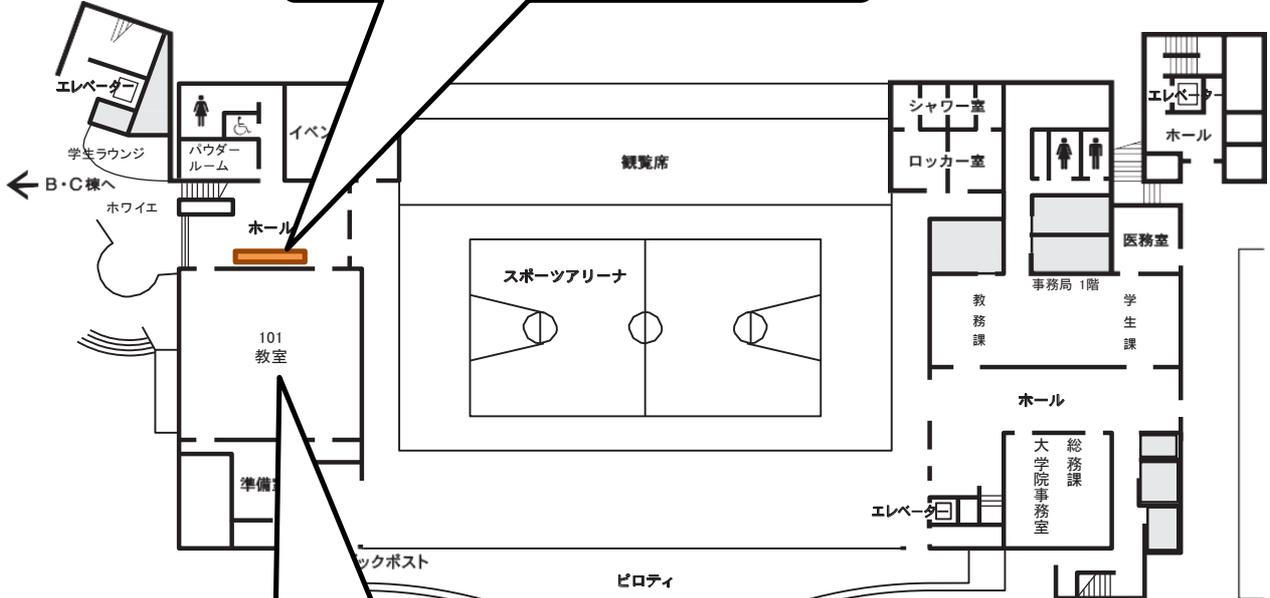
・発表を聞いた際の脳波反応の測定・分析(実演) 良基徳和ゼミ  
・「志プロジェクト」会社案内ポスター展示 「志プロジェクト」参加学生作成

A・D棟

1F

受付(フレミ生以外)

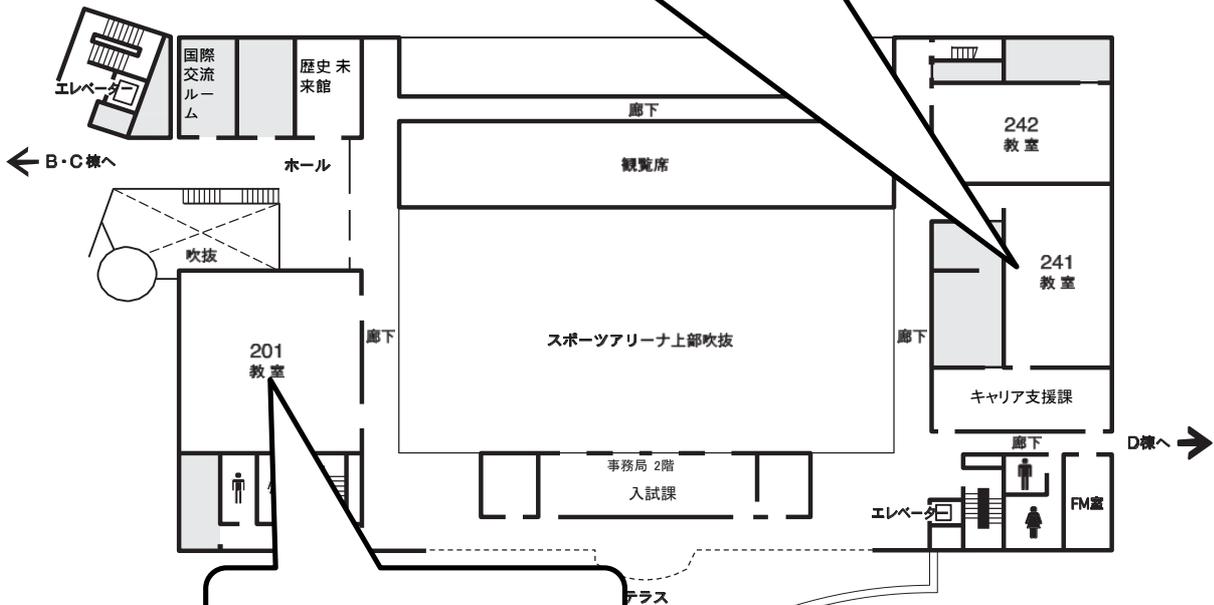
D棟



101教室(A会場)

2F

241教室  
(多摩大目黒中・高控え室)



201教室(B会場)

B棟

1F

プレミ生用受付

112教室(C会場)

111教室  
(ポスター展示等)

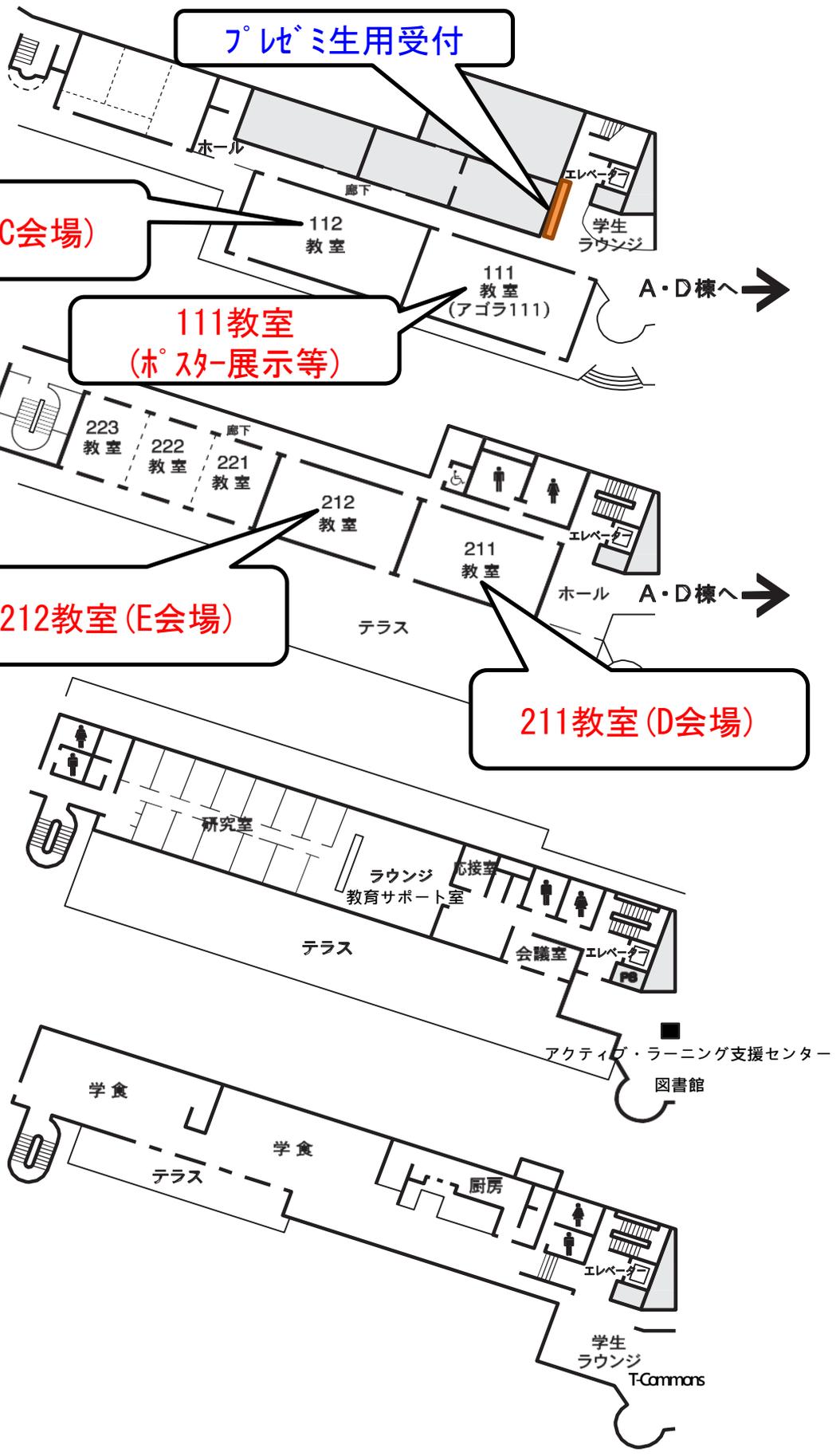
2F

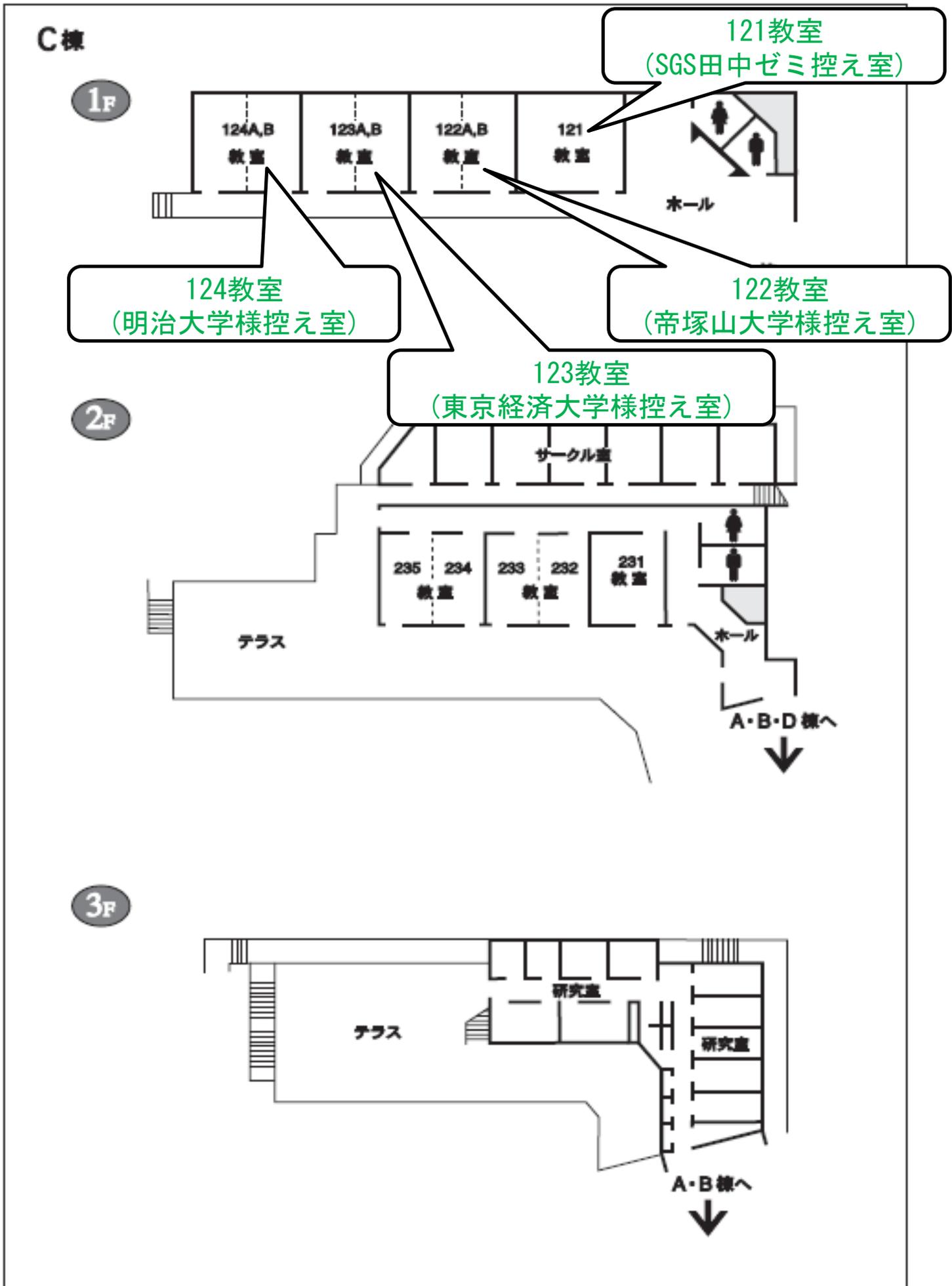
212教室(E会場)

211教室(D会場)

3F

4F





# ひがしやまとの食の今昔物語

～多摩の文化を味わい、知ろう！～

東京経済大学 山本聡ゼミナール 東大和市班

## 【目的・概要】

多摩地域北部の多摩湖周辺地域は、村山地域と呼ばれ、独自の生活文化・郷土料理が多数存在する。そんな村山地域のひとつ、東大和市をフィールドとして設定し、市の郷土食である「さつまだんご」から現代の特産品である「ひがしやまと茶うどん」に至る『昔』の食文化を、『今』再発掘し、子供から大人まで楽しめるイベントを提案し開催する。そして、食文化の魅力を発信することで、東大和市の粉食文化を知らない地域内の人々に、東大和市への愛着を形成してもらおう。

## 【効果の見通し】

東大和市民に対して、市で昔から食べられてきた粉食料理を用いて、地元の魅力を改めて認識してもらおう。粉食文化を知らない人に、東大和市の郷土食を文化や歴史と共に味わってもらうことで、「ひがしやまと茶うどん」などを地域活性化の基盤として受け入れられるようにする。東大和市商工会や東大和市役所、市民団体とも連携し、東大和市の歴史・文化の魅力を地域内に広めるきっかけにする。

## 【継続性の見通し】

連携団体と複数回の協議を行い、9月に東大和市中心公民館でイベントを実施した。東村山市役所産業振興課、観光ガイドの会とも協力関係を築いた。市民団体の方からも声をかけていただき、第二弾のイベントでは人が多く通行する玉川上水駅近くの「ふれあい広場」でもイベントに関する情報を発信した。来年度もこの活動をさらに発展させ継続する予定である。また、東京経済大学のバックアップもあり、必要経費を賄うこともできている。

## 【先行研究・連携団体】

『食旅と観光のまちづくり』安田亘宏（2010）、『地域の物語との協和性認知と住民協働事業への参考に関する研究』窪田愛実・羽鳥剛史（2015）によれば、場所の記憶を地域で共有することによって、地域への愛着が高まると言われている。

また、連携団体は東大和市商工会、東大和市役所、東大和観光ガイドの会、ワーカーズコープである。企画や集客、歴史、東大和市のキャラクターの参加などのご協力をいただいた。

#### 【アピールポイント】

多摩地域の中でも大学がなく、今まであまり着目されてこなかった東大和市の歴史や文化を、今と昔の郷土料理という切り口からアピールする独創的な取り組みである。郷土料理を活用し、食の歴史・文化という東大和市の魅力を発信し愛着向上を目指す。東大和市商工会、東大和市役所、観光ガイドの会、ワーカーズコープと連携し、施設の利用や市のキャラクターの参加など全面的な支援も得ている。東京経済大学のバックアップから設備など必要経費も賄っている。

## 村山×寺×御朱印

東京経済大学 山本 聡ゼミナール 御朱印班

### 【研究概要（目的・狙いなど）】

日本全体で人口減少という問題が生じており、多摩地域においても年々人口が減少しているという現状がある。人口減少は、地域内の消費活動の縮小・生産活動の低下につながってしまう。地域経済を活性化させるには、定住人口を増加させる必要があるが、費用や時間の点から難しいため、本研究では、「交流人口の増加」に着目する。交流人口の増加を図ることで、地域経済が活性化する。交流人口を増加するためには、各地域それぞれの工夫や知恵を活かした独自の取り組みを進めることにより地域の魅力を打ち出していく必要がある。

観光資源の無い郊外地域での交流人口の増加は必要であるのに、既存研究で取り上げられていない。そこで我々は、東京郊外の多摩地域、その中でも東村山市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町といった狭山丘陵周辺の「村山地域」をケーススタディの対象として研究を行う。一昨年度から、交流人口の増加を図ってきたが、「再訪性」をどのように構築するかという課題に直面した。そこで、今年度は交流人口を増加させるための重要な地域資源として寺院に着目する。

本研究では、「再訪性」「回遊性」をキーワードとして、昨今若い女性に注目されている「御朱印」を軸に「再訪性が付帯する交流人口の増加」を実証する。

### 【効果の見通し】

「御朱印」には、様々な魅力がある。魅力の一つである「同じ御朱印を二度と手に入れることが出来ない」ということから、同じ寺院への「再訪」が見込める。そして、地域内の寺院の数だけ「再訪」を考えることができるので、御朱印には「二重の再訪性」があるといえる。さらに、集めたいという欲求が働き、地域の寺院を「回遊」させる力があるともいえる。以上のことから、寺院と特に女性を「御朱印」で効果的に繋ぐことによって、「再訪性」の高い交流人口の増加を図ることが出来ると思う。

また、地域に人を呼ぶ力を考えるにあたり、原田・三浦（2013）『地域ブランドのコンテキストデザイン』をもとに研究を行っていく。当該研究では、来訪者の「エピソード記憶」を高めるために「体験・記憶・再生」の要素が重要とされている。寺院での特別な体験を通して思い出を深めた上で、御朱印を頂くといったイベントの企画・開催を行うことで、上記の要素を満たすことができ、課題である「再訪性」の強化につながると考える。

### 【継続性の見通し】

東村山市の地域活性化研究を始めてから、すでに3年が経過している。一昨年度では、多摩地域の知られていなかった魅力として、「酒」をメインにイベントを行い、昨年度は、地域の「水」の文化を体感するツアーを行うことで、交流人口の増加を図ってきた。

東村山市役所産業振興課、東村山市郷土研究会、豊島屋酒造、多摩信用金庫、富士ゼロックスの担当者と定期的に企画を開催し、緊密な関係を構築している。さらに今年度は、地域の歴史や文化をよく知る寺院の住職に全面的に賛同、協力を頂き、8月26日と11月19日に、東村山市の著名な寺院である大善院にて、イベントの企画・開催をすることができた。イベントの事後アンケートでの満足度が高く、第一回目、第二回目のイベントともに参加して頂けた参加者がいることから、「再訪性」を確認することができた。また、第一回、第二回のイベントともに収益の黒字をだした。

東村山市の協力や東京経済大学のバックアップにより、必要経費も賄えていることから、今後も「村山地域」の寺院全体を視野に入れた活動を継続していくことができるといえる。

### 【先行研究・連携団体】

原田・三浦(2013)『地域ブランドのコンテクストデザイン』、河野まゆ子(2016)『地域社会における神社・仏寺が目指す方向性』JTB総合研究所を参考に研究をしている。

連携団体は、東村山市役所、東村山市郷土研究会、大善院、豊島屋酒造、多摩信用金庫、梅岩寺、雲性寺、富士ゼロックスであり、研究を進めていく上で御協力頂いている。

### 【アピールポイント】

過年度の研究を通して、培ってきた外部連携のネットワークを活用できる。

市役所や市議会議員との連携により、市役所の観光案内コーナーや市議会議員のFacebookにイベントのチラシを掲載して頂くなど、集客力を高めることができた。

また、女性を主なターゲットにすることで、情報発信力の強化が見込まれる。

以上のことから、村山地域の寺院、歴史、文化の魅力を発信し、イベントにて地域内外の交流人口を増やすことで、まちを活性化させることができる。

東村山市との連携により、8月、11月のイベントの開催を成功させた。

このイベントは、独自アンケート調査にて、若者の寺院・御朱印に関する意識調査を踏まえたうえで計画されている。

### 若者にとって魅力ある多摩地域の創生 ～地域内高齢者活躍による若者呼び込みの可能性と提案～

(メンバー)  
 学生: 和泉 遠藤 川上 二宮 中島 武藤 松井  
 教員: 丹下、荻野、野坂

### 多摩市の子育て支援の現状

多摩市待機児童数推移

多摩市の対策(平成27年度)

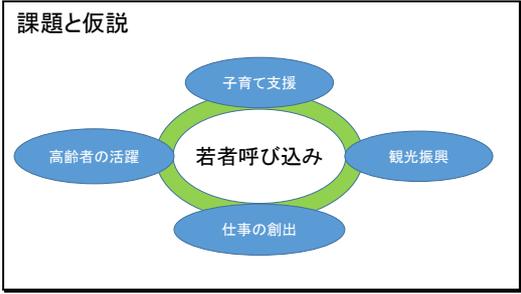
- ・小規模保育事業の新設
- ・許認可保育所の定員増と認証保育所の活用
- ・家庭的保育業者(保育ママ)に保育補助員を配置
- ・定額利用保育や幼稚園の預かり保育を実施
- ・病児保育の新設

多摩市の認可保育所 21ヶ所(市立2ヶ所、私立19ヶ所)  
 東京学芸大学保育所 9ヶ所  
 多摩クラブ 27ヶ所  
 緊急保育施設 0ヶ所

高齢者の活躍

### 年間タイムスケジュール

- 9月~12月 現在取り組み中
  - 若者アンケート実施
  - ヒアリング調査
  - 論文作成
- 4月~8月
  - 先行研究 現状調査
  - 仮説づくり
- 大まかな方針
- 夏合宿発表
  - シェアリングサービス 対象者 若者、高齢者
  - 世代間交流 住居の創出 子育て支援

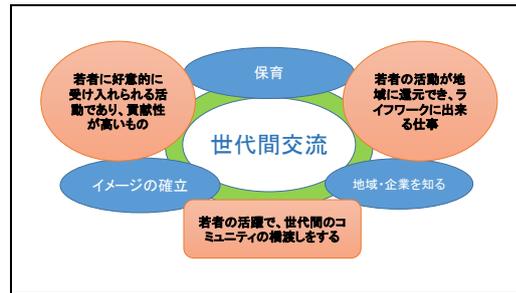


### コレクティブハウス聖蹟とは

- ・20戸の住戸と豊かなコモンスペースをもつ、賃貸コレクティブハウス
- ・地域の人と交流がもてるような賃貸住宅を」という思いで完成。
- ・0才~70代の幅広い年齢層の方々が暮らしている

インタビューから浮かび上がった課題

- 空き家の有効活用
- 保育施設へのアクセスの向上



**京王電鉄インタビュー**

【仕事の創出】	ママスクエア	
【シェアリングサービス】	民泊サービス	
【子育て支援】	京王キッズプラッツの展開	
【観光振興】	おでかけマップの作成	

ママスクエア  
京王キッズプラッツ

若者呼び込み策

- 魅力発信 → 「まちあそび型」アニメツーリズムなど
- 子育て形態の多様化 → 保育施設へのアクセスの向上など
- 仕事における考え方の拡張 → モザイク型就労
- シェアリング → 世代間交流を実現させる場所やモノの共有

↓  
アンケート集計・分析  
論文の執筆

アニメツーリズムとは

- 2007年、らき☆すた聖地巡礼ブームによりアニメ作品の舞台を巡ることが大衆化
- アニメ作品と地域がコンテンツを共有することで生まれる観光
- 製作者、地域、旅行者、三者の関係性
- 地域と訪問者、両方にとって楽しい事

参考文献

「NPOコレクティブハウジング社HP」(<http://www.chc.or.jp/chcproject/seiseki/about.html>)  
 「京王子育てネットHP」(<http://www.keiokosodate.net/company.html>)  
 「感謝の心を育むには」(<http://web.keio.co.jp/net/000/2014/11/29/17.html>)  
 「事業構想オンライン」(<https://www.projectdesign.jp/2015/11/chid-care-support/002513.php>)  
 「多摩市HP」(<http://www.city.tama.lg.jp/>)  
 「多摩市の健康まちづくり」健康福祉部健康まちづくり推進室長 伊藤 重夫  
 ([http://www.city.tama.lg.jp/omofiles/content/0000003/0000/00170512\\_1st.pdf](http://www.city.tama.lg.jp/omofiles/content/0000003/0000/00170512_1st.pdf))  
 「株式会社ママスクエアHP」(<http://mamasquare.co.jp/>)

## 地域の多様な資源と多様な人でつくる新しいチャレンジ

多摩未来奨学金プロジェクト健康・福祉・環境グループ

山村 香織

### 1. プロジェクトの概要

私たちは、公益社団法人 学術・文化・産業 ネットワーク多摩の「多摩未来奨学金制度」の支援を受けて地域社会の問題を学んでいる、多摩地域の大学に通っている大学生である。

それぞれ別々の大学で、学んでいる専攻も違うのが、多摩のまちに住む者として、このまちの豊かさに少しでも貢献したいという思いを共通にして、実際に問題が起きていそうなところを訪ね、現場から発想することをしてきた。

また、定期的集まり、何が問題で、どうすればいいと考えるのか、それぞれの立場の違いや見方の違いも確かめ合いながら、自分の目から見た地域課題について語り合うことも行った。

近年日本中で、少子高齢化や地域社会の希薄化、自治体の消滅などが問題にされるようになった。この多摩も例外ではない。今後さらに難しくなる地域社会の問題について、考え、解決の道を探り、より豊かな社会をつくってゆくためには、地域に生きる人たちが自分の手で、それを担ってゆくことが必要だと考えた。

私たちは、ビジネスの仕組みを使って地域問題の解決をはかることも、そのひとつの道ではないかと考えた。

### 2. プロジェクト活動・目的

それはソーシャル・ビジネス（社会起業）と呼ばれるものである。私たちが学ぶ大学で、会社を起し学ぶ授業がある。この起業プログラムを使って、シニアの方々と共に、ソーシャル・ビジネス起業の可能性を構想する機会を企画した。

これは、私たちが学生としてできることは何だろうか。地域の問題に本当に向かい合える、またそのための力もある人たちは誰だろうか。グループディスカッション形式で、様々な学部/部の学生、地域の方との生の声を、少しでもより良い生活に近づけるための話し合いを行った。

シニアの方々への期待は、地域の課題を一緒に考え、私たちに教えていただき、そしてともに課題に向かい合える、そんな関係をシニアの方々と築けたらと思い、私たちにできること、できないことを考えてゆく過程からうまれたものである考えたものである。

# 食産業集積「フードバレーとかち」の特質と今後の方向性

明治大学 奥山雅之・地域産業論ゼミナール・3年共同

要約

## 1. 目的と背景

### 1.1 論文の目的

現在、我が国の食産業は大きな岐路に立っている。TPP などによる関税削減・撤廃に代表される、グローバルな潮流は、食糧確保を標榜しながら農林水産業者の保護を主体とした「守り」の産業から、品質の良さや食の「安心・安全」というグローバルにも通用する消費者のニーズに適応して、輸入品に対する競争優位だけでなく輸出をも拡大しようとする「攻め」の産業への変貌を後押ししている。それは、全国レベルでみたときだけでなく、各地域の農林水産業、食産業においても、重要な局面といえる。

特に、食産業を地域産業の柱に据える地域においては、雇用と税収を含めた地域経済の循環を確保・拡大するためには、競争激化に対応しながら、グローバルな視点での戦略構築が求められている。

本研究は、こうした問題意識を背景として、我が国において食産業の一大拠点である北海道十勝地域の産業クラスターである「フードバレーとかち」を採り上げ、その特質と今後の方向性について明らかにしていく。

### 1.2 先行研究と本論文の位置づけ

クラスター論として地域産業集積を新たに理論化したのは Porter である。Porter (1999) では、「クラスターとは、特定分野における関連企業、専門性の高い供給業者、サービス提供者、関連業界に属する企業、関連機関（大学、規格団体、業界団体など）が地理的に集中し、競争しつつ同時に協力している状態」と定義している。また、クラスターを形成する要素として、「最終製品あるいはサービスを生み出す企業、専門的な投入資源・部品・機器・サービスの供給業者、金融機関、関連産業に属する企業」を挙げ、①要素条件、②需要条件、③企業戦略・競合関係、④関連産業・支援産業、の4つがその構成要素であり、「クラスターに大きな影響を与える行政機関もその一部と考えてよい」としている。

すなわち、産業クラスターとは、相互に関連した産業・機関が、競争・協力をしながら、技術革新を重ね、新たな商品やサービスを生み出すことで産業育成と地域振興をめざす概念である。

こうした理論は政策としても活用され、日本でも2001年度開始の産業クラスター計画など、産業クラスター政策が断続的に実施されている。

本稿は、食産業のクラスターである「フードバレーとかち」において、こうした Porter のいうクラスター理論が、どのように実践され、あるいはどのような課題が内在しているのかを検討していきたい。

## 2. 実態調査

### 2.1 広域連携の核となる公的機関～帯広市役所

### 2.2 原料の新鮮さで競争力を高める乳製品製造業

### 2.3 地産地消から地域ブランドへ～池田ワイン

### 2.4 地域の農業協同組合が設立した乳業～よつ葉乳業

### 2.5 フードバレーのショーケースとしての役割を担う地域の飲食コミュニティ～北の屋台

## 3. 結論

本稿では、我が国の一大食産業集積である「フードバレーとかち」を対象とし、統計分析と現地調査を踏まえた実証的研究に基づき、その実態を分析した。その結果、本稿のテーマである集積としての特質と課題について、いくつかの示唆が得られたと考える。これを、Porter が示した①要素条件、②需要条件、③企業戦略・競合関係、④関連産業・支援産業、それぞれに分けてみていくことにしたい。

第一に要素条件である。要素条件として本クラスターの優れている点は、日本国内では有数の広大な土地において、機械化や技術集約の進んだ比較的生産性の高い農業が営まれているところである。大規模化、機械化、輪作技術などによって生産性を高め、国内において競争力のある農業を構築してきたので

ある。気候や立地環境により水稻が困難であったことが他の作物の創意工夫を促進させ、多様な農作物を生産するようになった。開拓使ではなく晩成社という民間企業が入植した DNA も、官に頼らない民間としての自主性を持った産業振興のエンジンとなっている。一方で、第一次産業は強力な需要条件も有しているが、第二次、第三次産業を成立させる加工技術やサービスノウハウは集積として十分ではない。例えば、小麦は全国の約1割を生産しているが、十勝産小麦の90%以上が玄麦のまま道外へ出荷されている。地場の小麦を地場で加工し、付加価値の高い製品を生み出すことで地域経済への波及効果が期待できる。第三次産業では、北の屋台など地元では地域農産品のサービス産業化が推進されているが、地域外でのより一層の展開が望まれる。

第二に、需要条件である。池田ワインのように、町民にもワインの普及を積極的に推進するなど独自の需要条件構築もみられるものの、地域内だけでは発展に向けた新たな需要情報を入手することは困難である。この点は、東京など大都市、さらには海外主要都市などに存在する洗練された消費者の声をくみ取るような仕組み、具体的にはアンテナショップやテストマーケティングがそれを補完するのに有効である。

第三に、企業戦略・競合関係である。いくつかの実態調査の結果でもみられるように、十勝地域内の企業は、競争よりも協力を重視する傾向にある。生乳のような国の規制の下にある製品をはじめ、農作物全体が農協を中心とした共存共栄体制のもとに展開されていることが背景にある。協力関係重視のメリットは大きい。協力関係の重視は、地域内の過当競争を抑制し、平均利益を高めるだけでなく、情報のスピルオーバーによる集積効果も生まれやすい。

第四に関連産業・支援産業である。研究機関や大学の役割は大きいですが、ここでは、行政機関の役割を強調したい。実態調査でみたように、十勝地域唯一の市である帯広市の役所は「フードバレーとかち」での行政としての中心的な役割を担っている。市役所の部署の一部に産業連携室が設置され「フードバレーとかち」の事務局を担当している。一般に広域連携は同等な力を持つ地方公共団体同士の主導権争いとなり、なかなかうまくいかないケースが少なくないが、この地では、帯広市を中心とした広域連携が成功していることは、帯広市と拮抗した自治体が

存在せず、リーダーとしての力が発揮しやすい点を指摘できる。さらには、前述した歴史的経緯からも、地域の住民に協力を社会規範とする社会関係が存在しているといえる。

しかし、今後「フードバレーとかち」が食産業集積としてさらなる発展を遂げるためには課題も少なくないを考える。主な課題は次の二つである。

ひとつは加工企業のさらなる誘致や創業の促進である。一次産品としての出荷ではなく、加工度を上げて付加価値を高めることが、地域資源を有効に活用して域内所得を向上させるだけでなく、農業者と加工業者間の連携によるイノベーションの創出も期待できる。

もうひとつは海外需要の取り込みである。国内市場の成熟化に対応し、経済発展するアジアなどグローバルな市場を取り込むことが重要である。そのためには十勝としてのブランド力の強化も欠かせない。現在「北海道ブランド」は国内だけでなく海外にも広く知られているが、「十勝ブランド」の認知は十分には進んでいない。ブランド認知度を高めるために、ニセコやトママなど、海外旅行客に人気となっている近隣の観光地との連携によるインバウンドの強化も有効ではないかと考えられる。

十勝地域は恵まれた自然環境のなかで、開拓使ではなく晩成社という民間企業が入植したアイデンティティによって、それぞれの時代にあった食産業を開発しながら産業集積を形成させてきた。十勝の人々は、十勝のブランドに誇りを持っている。

人口減少やそれに伴う担い手減少は大きな問題であるが、付加価値向上による担い手の吸引や、さらなる機械化や大規模化によりその問題を克服できるポテンシャルがある。「フードバレーとかち」は国内では抜群の環境と圧倒的なブランド力を武器に発展していくことが、TPPなどで揺れ動く日本の食産業の未来を切り開くパイオニアとなっていくことを期待する。

#### 主要参考文献

- ・Porter, M.E.(1999) 竹内弘高訳『競争戦略論Ⅱ』ダイヤモンド社、70頁。
- ・帯広市(2003)『帯広市史』。
- ・帯広市産業連携室資料(2017)「FOOD BALLEY TOKACHI」

## 目黒プロジェクトの活動内容及び増上寺イベントについて

発表者

多摩大学目黒高等学校

伊藤 潤 佐々木賢斗 五島小春 渡邊野乃花

### ①目黒プロジェクトの活動内容について

私たちは、『高大接続目黒プロジェクト』の紹介をし、組織図を示しながら、活動内容を伝える。日本の代表的伝統文化である、和紙漉きの方法を実際のデモンストレーションを見せながら、分かりやすく説明する。その後、和紙漉き活動を通して何を学んだかを伝える。

### ②増上寺イベントについて

7月7日に行われた『増上寺七夕祭り 和紙キャンドルナイト』の活動内容や活動意義を伝え、その裏に隠された「和紙文化の大切さ」を「天の川和紙キャンドル」を紹介しながら説明する。

①・②を通じて学んだことや来年度に向けて活動したい内容も合わせて発表し、今後の活動をより良くしたいと考えている。

2017/12/9

多摩大学アクティブラーニング発表祭  
多摩大学 グローバルスタディーズ学部田中孝枝ゼミ  
(高大接続ALいちょう団地プロジェクト)

## いちょう団地住民から見た団地環境の実態

### 1. いちょう団地の概要

いちょう団地は、神奈川県の大和市と横浜市にまたがる団地であり、1970年代に建設され、1980年から外国人の居住が認められた。1980年に日本に本格的な難民の受け入れが始まり、日本語や日本の文化の学習を支援する大和定住促進センターが近くにできた。これによりいちょう団地への外国人入居者が増え、現在では約3500世帯のうち2割を外国人が占めている。

### 2. 研究目的

いちょう団地住民が生活で困っていることを調査し、日本人と外国人がそれぞれ抱えている問題を明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究方法

#### ① 参与観察、聞き取り調査

レンゲ祭り(大和市側)★

いちょう団地(大和市側)神輿祭

いちょう団地祭り(横浜市側)

(日本人2人、中国人2人、カンボジア人2人、ベトナム人3人)★

#### ② インタビュー調査

横浜第7自治会 堀江会長★

大和市役所文化スポーツ部国際・男女共同参画課 船越課長★

大和市下和田社会福祉協議会 遠藤会長★

いちょう団地住民(大和市側)

(公園:日本4人、スーパー前:ベトナム1人、ペルー1人)

#### ③ アンケート調査

ミニミニサロン:大和市側の公益社団法人かながわ福祉サービス振興会による、地域包括ケア支援システムの一つ。月に2回、参加者はみな女性、年齢層は70~80代。

(ミニミニサロンへの参加は4回。1回目は19人、2回目は24人に実施)

※★は多摩大目黒中学高等学校メンバーと合同で実施した

### 4. 調査結果

テレビなどでいちょう団地について取り上げられていることと、実際に現地で聞く話には差がある。ミニミニサロンの参加者に協力してもらい、日本人住民が外国人に対して困っていること、団地の中で改善してほしいこと等アンケートを通して聞いた。また、ベト

ナム人男性（50歳）、ペルー人男性（45歳）にいちよう団地付近のスーパー前にて、いちよう団地での暮らしについてインタビュー調査を行った。

#### ①外国人に対する日本人の不満

日本人住民は、毎週1回程度の当番制の清掃活動に参加して欲しいやゴミの分別が出来ていない、団地に住む上での規則を教える場所を設けてほしいという意見が多かった。清掃活動は回覧板のような書面だけではなく、直接話して伝えているにもかかわらず、外国人は参加しないそう。ゴミの分別が出来ないことも、清掃活動に参加していないからではないかという意見もある。日本人住民は外国人住民に日本で生活する上でのルールに従ってほしいや、外国人ともっとコミュニケーションをとりたいという考えもある。

#### ②日本人の不満に対する外国人の主張

外国人は日本語がわからないにも関わらず、ゴミの分別が出来ていないと厳しく注意され、そもそも外国人は何に対して注意されているのかわからない。しかし、ゴミの分別などは、長年住んでいれば外国人でも出来るようになる。また、日本語に関しても同様にわかるようになる。「私は母国よりも日本での生活が長く、会社勤めで日本の社会に触れている為、日本人と同じくらい馴染んでいる為、生活のうえで困ることは特に無いと思っている」という言葉もある。日本人と同じ様に日本に馴染んでおり、そのため、生活する上で問題は無いと考えている。

### 5. 考察

日本人は、外国人が団地を一時滞在の場として認識していると考えている。一方外国人は、既に日本に馴染んでいると認識している。互いの主張をすり合わせるには、回覧板などの多言語化や外国人に日本語を教える取り組みだけでは十分ではなかった。たとえ互いに言葉が通じなくとも、直接的なコミュニケーションの場が重要になるが、そういった場を設ける事は簡単ではない。例えば日本人が外国人とコミュニケーションの場を設けることを目的とし、お茶会を企画した事があった。しかし、互いに出し合ったお茶が口に合わず、その場が盛り上がりず継続的に場を設けることが出来なかった。

個々で設けたコミュニケーションの場は継続が難しい為、外国人、日本人がそれぞれ持つ既存のコミュニティー同士の交流をこれからは目指す。そうすることにより、お互いを認知しあい理解が深まり、現在抱えている問題を解決するきっかけになるだろう。

#### 参考文献

垣野義典・初見学、2010、「外国籍住民の郊外団地居住の実態—神奈川県いちよう団地を事例として」『日本建築学会計画系論文集』第75巻、第652号、1355頁～1363頁。

土井澄香、2004、「外国籍住民が集住する公営住宅の生活上の魅力と問題に関する研究—神奈川県営上飯田いちよう団地を対象として」『住総研「住まい・まち学習」実践報告』論文集5、133頁～138頁。

多摩大アクティブラーニング発表祭（高大接続 AL いちよう団地プロジェクト）  
多摩大学グローバルスタディーズ学部田中孝枝ゼミ

多文化共生の中で置いていかれる日本人  
～住民が語るいちよう団地の過去と現在～

## 1. 研究目的

いちよう団地の日本人高齢居住者にライフストーリーを聞き、いちよう団地の外国籍居住者が住みだしてからと現在の近隣関係の変化を調査する。長年多文化共生を行っている団地として、いちよう団地をゼミで知ったことをきっかけに興味を持った。この研究を通して日本人高齢居住者に重点を置き、メディアなどでは知られていない本当のいちよう団地を知る。

## 2. 研究方法

いちよう団地についての論文資料調査

主要参考文献

小林誠（2016）『共に生み出す』ものとしての共生：神奈川県営いちよう団地の多文化生徒 NGO による連帯の形成『武蔵社会学論集』18（1）pp19-35。

早川秀樹、グエン・ファン・ティ・ホアン・ハー（2015）『AJ ワークショップ』多文化は町づくりのための実践——いちよう団地の場合——『Asia Japan Journal』10. pp103-108。

4/29 第1回合同フィールドワーク第7自治会長（横浜市側いちよう団地）へインタビュー

5/29 第2回合同フィールドワーク大和市役所国際・男女共同参画課でインタビュー

6/11 第3回合同フィールドワーク下和田（大和市側）社会福祉協議会大和市自治会長へインタビュー

8/6 大和市側神輿祭り

8/11 多摩大目黒中学高等学校にて研究計画の発表

9/6 ミニミニサロン1回目参加 参加者にインタビュー

9/21 ミニミニサロン2回目参加 参加者にインタビュー

10/7 いちよう団地祭り（横浜市側）参加 1日目参加型調査

10/8 いちよう団地祭り（横浜市側）参加 2日目参加型調査 関係者にインタビュー

11/1 ミニミニサロン3回目参加 参加者にインタビュー

11/12 大和市側いちよう団地在住の方といちようショッピングセンターにある店主たちにもインタビュー

11/20 大和市側いちよう団地の高齢居住者主催のカラオケ大会の参加者にインタビュー

## 3. 研究内容 ライフストーリー調査9人（うち3人を紹介）

遠藤さん：81歳の男性。17年前からいちよう団地（大和市側）で自治会長を務めている。

伊藤さん：84歳の男性。43年間いちよう団地に住んでいる。ガラス加工の仕事をしていた。

奥さんと娘2人の計4人で住んでいた。現在は一人暮らし。

菅谷さん：84歳の女性。40年以上いちよう団地に住んでいる。空き家募集を見つけて、いちよう団地に引っ越す。旦那さんと子供の計7人で住んでいた。現在は旦那さんと2人暮らし。

名前（性別）	遠藤さん（男性）	伊藤さん（男性）	菅谷さん（女性）
年齢/居住年	81歳/47年	84歳/43年	84歳/40年以上
外国籍の人々に対する印象	国籍は違っても心は通じる。コミュニケーションを取るようになっている。	乱暴な人も優しい人もいる。最初のころは、外国籍居住者はいなかった。	外国籍居住者と交流を行うのは、言語の壁と文化の違いによって難しい。
団地問題（過去）	東南アジア人の家の匂いがキツイこと、ベランダで生肉を叩くこと。	暴力団が多かった。誰も自治会をやる人がいなかった。	夜、棟のそばで外国籍居住者が中庭に穴を掘って火を焚いていた。
団地問題（現在）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書類の書き方や日本料理の作り方の悩み相談が多い。特に外国籍の親を持つ子供たちから親の日本料理が不味いと。</li> <li>・外国籍居住者は日本人居住者をマネてゴミ出しをしているので、見本となる日本人居住者が見直さなければいけない。</li> <li>・一部の外国籍居住者しか、自治会に参加していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進み、お祭り全般をやめようとしている。</li> <li>・外国籍居住者が増えたため、道端で飲み食いする人が増えごみ問題も増加した（昔は外国籍居住者が少なかったのでそこまでの大きな問題にはならなかった）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除当番であるのに掃除をしない外国籍居住者が多いため代わりに同じ棟の日本人高齢居住者が掃除をしなくてはならない。そのため日本人高齢居住者の負担が多くなってしまっている。また、日本人でも参加しない人が増えてきた。</li> <li>・祭りの準備ができず現在は一部なくなってしまった。</li> </ul>

#### 4. 分析結果

- ・一部の日本人高齢居住者は外国籍居住者や外国の文化に関心がある。
- ・多くの外国籍居住者達は自治会に参加していない為、自治会のルールを理解していない。
- ・英語を話せる高齢者が少ないため、言語の壁を感じ交流が減る。

#### 5. 考察

- ・日本人居住者の若い力が減っているため、自治会活動が維持できてない。
- ・一部では多文化共生はできているが、団地全体には浸透していない。
- ・日本人高齢居住者と外国籍居住者が互いに共生しようとしなない為、自治会活動に参加しないなどのずれが生じる。
- ・外国人居住者にしかスポットが当たっていないため、特に日本人高齢居住者にサポートがいきわたっていない。

## いちょう団地から見る多文化共生について

発表者

多摩大学目黒高等学校

大石 朋佳 松本 鈴蘭

- ・ いちょう団地について
- ・ 多文化共生について
- ・ 活動への参加理由
- ・ フィールドワークを通して見えてきた問題点
- ・ 問題解決に向けての行政の取り組み
- ・ 実際に参加した活動について
- ・ いちょう団地の今後の取り組み
- ・ 自分たちにできること

### <いちょう団地研究についての概要>

私たちは、多摩大学の田中先生のゼミの学生と一緒に、いちょう団地についての研究を進めてきた。いちょう団地は、神奈川県大和市と横浜市にまたがる公営住宅のことである。ここでは、日本人だけでなく、ベトナム・カンボジア・ブラジルなど多国籍の人々が共に生活をしている。全国的にみても非常に規模の大きい団地だが、多文化に人々がうまく共生できている成功例として、テレビや雑誌などでも取りあげられている。

実際にいちょう団地に足を運び、住民の方々にインタビューをして、いちょう団地の現状について知った。また、大和市役所にも訪問し、多文化共生についてどのような取り組みがなされているのかについて学んできた。そのなかで気づいた問題点に対して、自分たちは何ができるのかを考えてみた。

以上、私たちは「多文化共生」という切り口で、いちょう団地について考えてみた。

# 奈良県警察と取り組む 防犯リーダーの育成

帝塚山大学法学部 3年生  
上田郁花 富永葉月



## テーマのきっかけ

安全で安心して暮らせる  
街づくりをしたいという  
思いが芽生える

大学生防犯ボランティアの  
活動を支援する体制を作りたい

かえでちゃん  
事件を知る

奈良県警察が主導する防犯  
ボランティア団体に加入



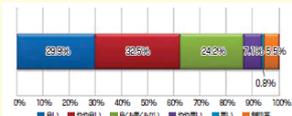
## (奈良県) 住民の不安：空き巣被害と少年犯罪

### 1 治安に対する意識

#### ●居住地の体感治安

- 「良い」…………… 29.9%
- 「やや良い」…………… 32.5%
- 「良くも悪くもない」…………… 24.2%
- 「やや悪い」…………… 7.1%
- 「悪い」…………… 0.8%

全体 (n=1177)



回答者の62.4%が「良い」「やや良い」と回答し、7.9%が「悪い」「やや悪い」と回答しています。

#### ●「良い」「やや良い」を選択した人の理由(複数選択)

- 「犯罪などの被害にあったことがない」…………… 69.8%
- 「警察官・パトカーをよく見かける」…………… 35.9%
- 「自主防犯ボランティア活動が活発」…………… 18.5%

全体 (n=735)

#### ●「悪い」「やや悪い」を選択した人の理由(複数選択)

- 「空き巣等が発生」…………… 48.9%
- 「少年による犯罪等が発生」…………… 22.8%
- 「地域住民の連帯意識の希薄化」…………… 22.8%

全体 (n=92)

「警察活動に関する県民の意識調査結果2016」

[http://www.police.pref.nara.jp/cmsfiles/contents/0000001/1420/2016\\_pamph.pdf](http://www.police.pref.nara.jp/cmsfiles/contents/0000001/1420/2016_pamph.pdf)

## 奈良県内の少年非行の概況

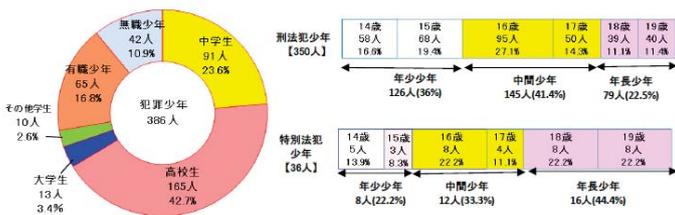
区分		年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
犯罪少年	刑法犯少年		789	713	583	365	350
	特別法犯少年		60	53	53	44	36
	小計		849	766	636	409	386
	指数		100	90	75	48	45
	人口比		9.9	9.0	7.6	4.9	4.7
触法少年	少年		214	279	194	180	167
	指数		100	130	91	84	78
少年	少年		21	4	6	11	5
総数			1,084	1,049	836	600	558
	女子の占める率		21.3	18.8	21.5	14.5	17.2

※ 人口比…14歳から19歳までの少年人口1,000人当たりの検挙人員  
※ 少年人口は奈良県総務部知事公室統計課調べ(平成28年10月1日現在)

奈良県警察公式HP

<http://www.police.pref.nara.jp/cmsfiles/contents/0000000/433/2016syounennhikou.pdf>

## 非行の中心は中・高校生



奈良県警察公式HP

<http://www.police.pref.nara.jp/cmsfiles/contents/0000000/433/2016syounennhikou.pdf>

## くらしの安全をまもるために -奈良県警察と連携した 大学生によるボランティア-

- ① あっぷりけ戦隊！奈良もりたい
- ② 少年フォローズ奈POLI
- ③ 若い世代の防犯ボランティア育成事業

## あっぷりけ戦隊！奈良まもりたい



- ・奈良県内に在住か在学している学生によって構成されている防犯ボランティア団体。
- ・定例会を開催して学生自身で活動を計画・立案。
- ・地域住民が犯罪等の被害に遭わないように各警察署で実施している広報啓発活動、防犯パトロールやボランティア交流会などにも参加。

## 少年フォローズ奈POLI(ナポリ)

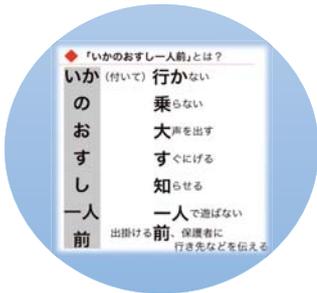
少年と心情や年齢に近い大学生の特性を活かし、奈良県警察と共に「少年の立ち直り」や「少年の健全育成」を支援する団体。

### <活動内容>

- 少年への声かけなど、少年の立ち直り支援活動や街頭啓発活動。
- 非行・被害防止教室への参加。



## 防犯標語作り



## <防犯ボランティア講座> 奈良県警察と帝塚山大学の授業の連携

- ・防犯マップの作成
- ・ハウスメーカーによる防犯対策
- ・地域防犯活動との連携



## 大学生が防犯活動に参加することの意義

- ① 若いときから防犯意識が芽生える
- ② 防犯活動がきっかけとなって自分の住む街の他の行事にも積極的に参加
- ③ さまざまな地域の防犯活動とのネットワークができる

## 今後の課題

- ・防犯ボランティアに参加することの心理的なハードルが高いこと。
- ・防犯ボランティア参加者が将来的に防犯活動を継続していくための体制づくり。

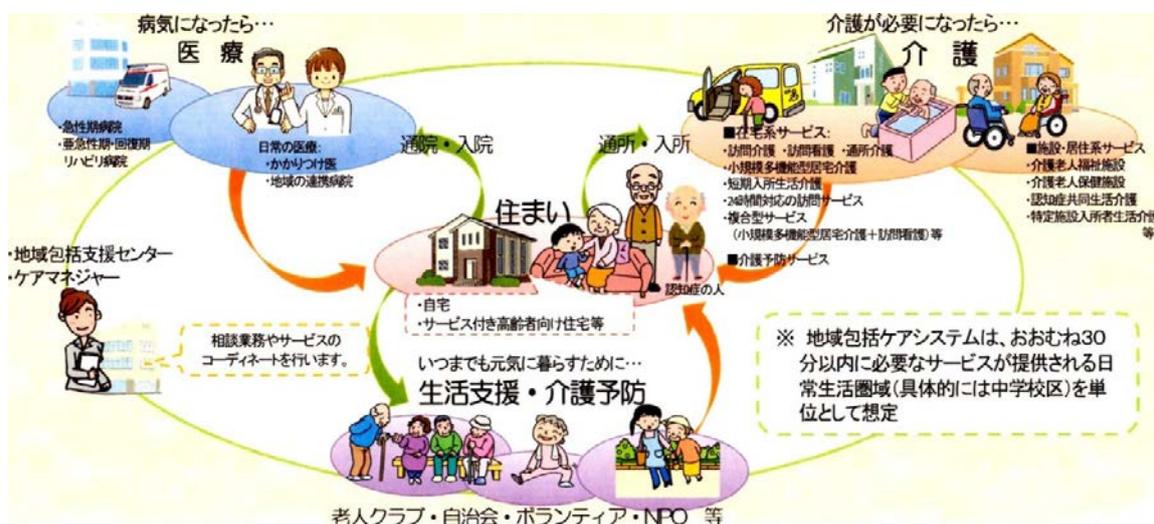
## 地域在宅高齢者の咀嚼力、味覚に応じた食事提供について

帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科

4 回生 中田晴香、濱田歩美、増田早織  
佐伯孝子、新宅賀洋

### 【概要】

厚生労働省は2025年を目途に高齢者の尊厳保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進している。「介護」「医療」「予防」という専門的なサービスと、その前提としての「生活支援・福祉サービス」「住まい」が相互に関連し、連携しながら在宅の生活を支えている(図1)。



[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-4.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-4.pdf)

図1 地域包括ケアシステムの姿

健康寿命の延伸には、栄養管理が大きく関与する。高齢者は、咀嚼力・嚥下力・消化機能の低下に加え、食べ物の味やにおいがわかりにくくなるなど五感の機能低下により、食事が低下し低栄養が進行するにつれ身体状況は悪化する。低栄養が影響することとして QOL 低下、免疫力低下、日常生活動作能力低下などが挙げられているが、配食サービスを利用することにより高齢者の栄養量の補給、健康や栄養状態の維持などが報告されている。地域在住高齢者が、住み慣れた家で自分らしく生活できるためには、高次生活機能を維持し、要介護状態や介護の重度化を予防し、健康寿命の延伸、QOL の維持・向上に向けて、摂取栄養バランスを整え、たんぱく質を十分に摂取し低栄養を予防するという食支援が欠かせない。

以上より、管理栄養士が行う地域在住高齢者の QOL 向上を旨とした食事内容の充実、食べやすい食事の提供などの食支援について、高齢者のアセスメントを行い、調理により味・硬さなどを検討した食材を、高齢者個人の状態に応じて食事提供ができないかを検討した。今回、その一部を報告する。

対象者は、地域在住の 65 歳以上（在宅訪問、通院などで個人状況が把握可能）で、主旨、倫理

的配慮などについて説明した内容に賛同し、アンケートに答えられる高齢者とする。食支援について、実施した時期、内容の概略は図2に示した。

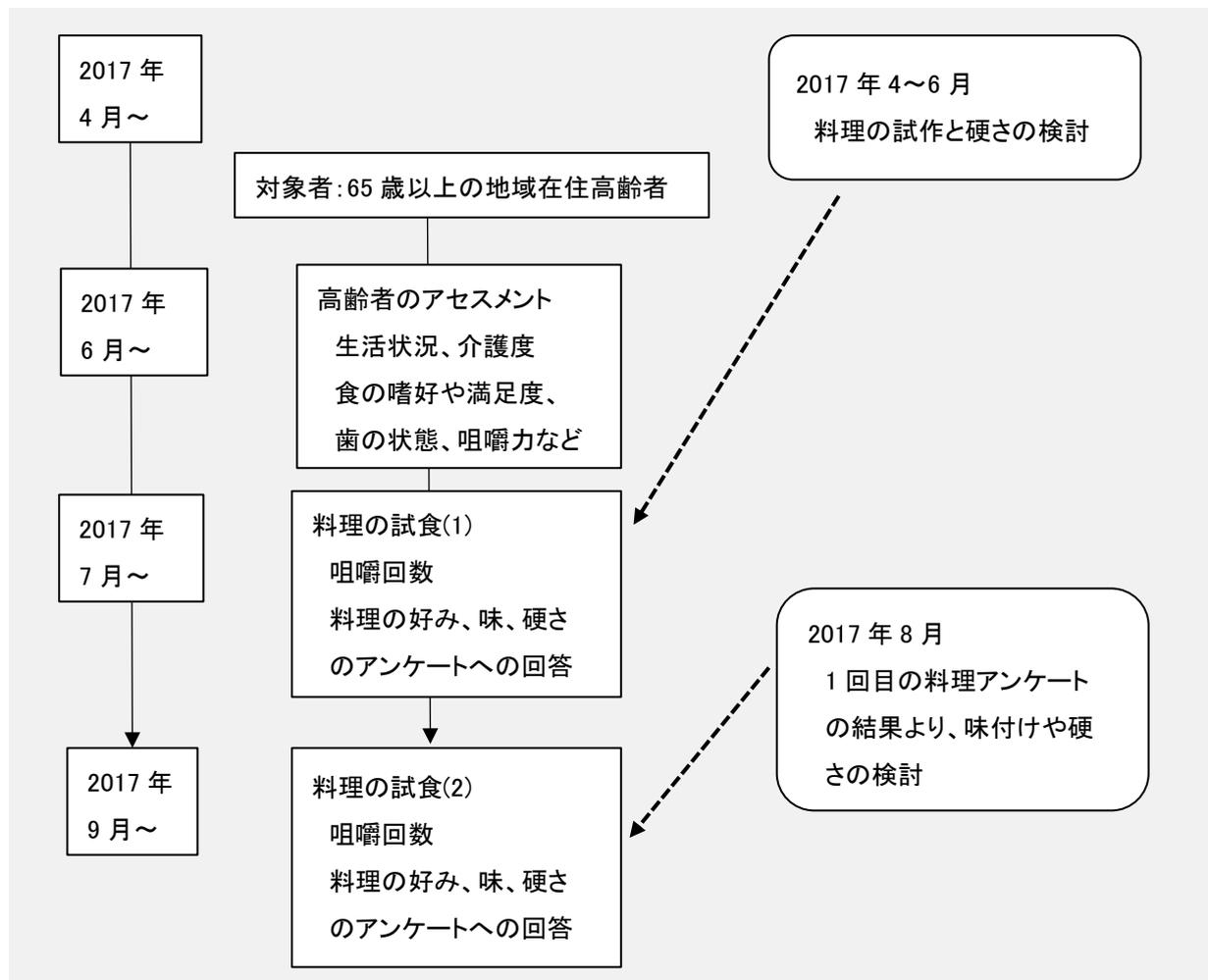


図2 高齢者に対する食支援の概略

対象となった高齢者は、通所介護事業サービスを受けている者、地域交流事業に参加している者、在宅訪問者で合計44名であった。噛めないと食べにくい肉料理の硬さや味付けを検討し、一般的な鶏肉の照り焼きを「コントロール」、調味料としてパイナップルを利用して軟らかく調理した鶏肉の照り焼きを「パインあり」として、料理の試食をしてもらいアンケートの回答を得た。

調味料の漬け込み時間が長くなると、「パインあり」は酵素のため肉が軟らかくなりすぎる、パイナップルにより味の変化が起こるため、調味料の割合を変えないといけないことがわかった。施設などの大量調理であれば漬け込む時間が長くなる可能性があるため、時間や調味料の割合を検討する必要がある。試食(2)では、「コントロール」より「パインあり」は高齢者の咀嚼回数が少なく、アンケートの回答でも「パインあり」が軟らかい、美味しいと答えた者が多い傾向であった。

今後は、福祉施設での昼食提供を実施し、高齢者の食事時の状況を確認し、この鶏肉を使用したレシピ案を考えていく予定である。

## モンゴル帝国のユーラシア興隆史

2017年度インターゼミ アジアダイナミズム班

学部生 : 王木真悟、一杉波音、馬玉鑫  
 大学院生 : 指宿ひとみ、光永和弘、田村英和  
 卒業生・修了生: 山口真実、塚原啓弘、越田辰宏、成田晋也、和泉昌宏、王星星

### 全体の問題意識から導きだすもの 『研究目的』

1. 13世紀、人類史上最大の版図をつくり上げ、ユーラシアの安定と平和をもたらした、モンゴル帝国の「ゆるやかな統治」の鍵はどこにあるか。  
 ⇒ ゼンギス・カーン、クビライ・カーンの「リーダーシップ」・「組織構想力」に学ぶもの
2. モンゴル帝国が実現したユーラシア興隆は、中国(明朝・清朝)、中央アジア(タイムール・ジュンガル)、インド(ムガル)、ロシアにまで、影響を及ぼしているが、現代の経済・政治体制にどのような影響を及ぼしているのか。

### チンギス汗以前〜クビライ治世(12〜13世紀)で最大領域に至るモンゴル勢力

### モンゴル帝国の継承国家

※カーン=皇帝(総領全体の最高位)  
 ※ハーン=各王等の君主

### ポスト・モンゴル期の大帝国

### 論文目次

はじめに

1. 13世紀前半 初代チンギス・カーンの時代〜モンゴル帝国の樹立と拡張〜  
 (1)モンゴル帝国の成立 (2)戦略と戦術 (3)滅したも(4)現代との繋がり
2. 13世紀後半 5代クビライ・カーンの時代〜モンゴル帝国の変容と安定〜  
 (1)モンゴル帝国と朝鮮(婚姻関係・政治体制)による統治  
 ①モンゴル帝国と高麗国の抗戦から講和  
 ②高麗国の属国化と姻戚関係による統治  
 ③モンゴル帝国・トルガクの派遣とケンケンへの参入の仕組みによる統治  
 ④一国であり一省の高麗国  
 (2)モンゴル帝国と日本の関係性  
 ①モンゴル帝国と日本の接点  
 ②元寇におけるモンゴル・高麗国の視点  
 ③モンゴル帝国の貿易と日本

### 論文目次

3. モンゴル帝国の国家運営  
 (1)元とカノンの成立  
 (2)拡大を支えた組織運営構造  
 ①モンゴル帝国を結びつけるモンゴル統原理  
 ②モンゴル帝国民の行動を司る「ヤサ」  
 ③共同体としての意思決定機関「ケリルタイ」  
 ④安全保障策としての「族外婚姻制度」  
 ⑤効率的組織運営「千戸制」  
 ⑥統制の運営を育む「ケンク」  
 (3)多様な民族のモンゴル帝国への貢献  
 ①ウイグル・モローツは遊牧民 ②遊牧国家をまわす手帳  
 ③多言語と外地情報に通じ、交渉力にも優れたグローバル人材  
 (4)モンゴル帝国の拡大を促進させたゴコデの政治  
 (5)クビライ・カーンのチベット仏教受容政策:問題解決力と情報

### 論文目次

4. 中華統治の正統性と共通善  
 ~漢民族ではなく中華民族であることの意味と意義~  
 (1)「西洋」に比して「東洋」の行動様式に関する問題意識  
 (2)東西世界の論理・価値観とグローバル課題  
 (3)歴代中国王朝の正統性要件の意味と東アジア世界構成員の処し方  
 (4)異狄モンゴル帝国の統治原理~契丹社会文化の影響~  
 (5)日本の歴史と東アジア世界の地域概念  
 (6)まとめ(4章)
5. おわりに ~モンゴル帝国が現代に与えたもの~  
 (1)ポストモンゴル期の帝国  
 (2)経済重視による「ゆるやかな統治」  
 (3)「イロ(中間)」になる「思想」文化「干渉」に学ぶ

### 1. 13世紀前半 初代チンギス・カーンの時代〜モンゴル帝国の樹立と拡張〜 現代との繋がり

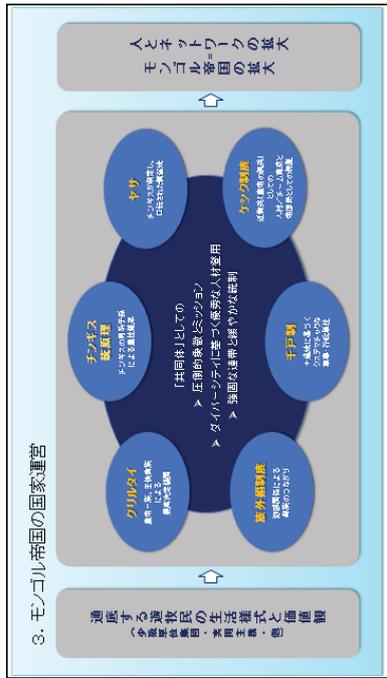
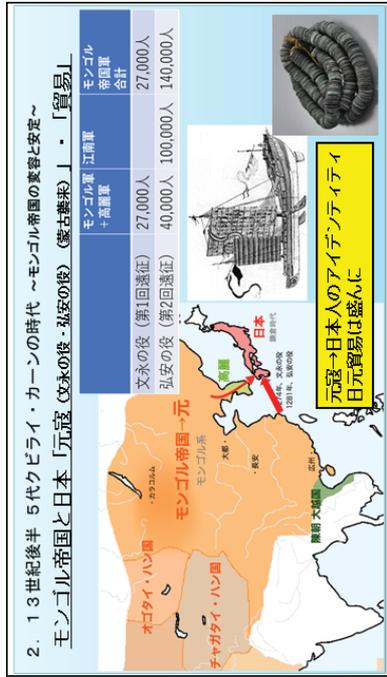
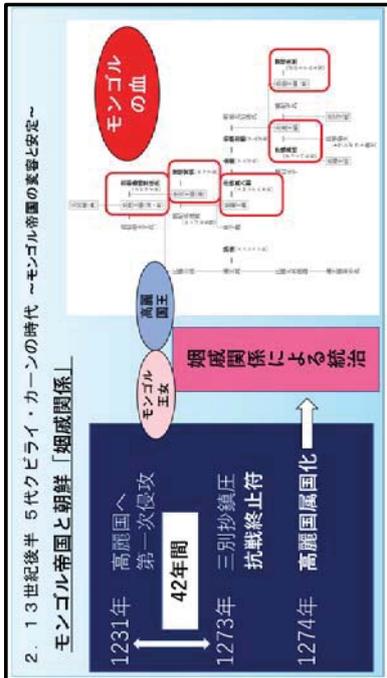
「ノマド化」  
 国境が意味を無くしモンゴル帝国の支配下内を安全に自由に行き来することのできる環境。

+

「域内貿易に似た制度」  
 当時のモンゴル帝国では関税が無く、販売時に商品価格の30分1の税をかけるだけの緩い税制。

=

ノマド化、域内貿易の2つは現代のEUと非常によく似ている



### 3. モンゴル帝国の国家運営

#### 第3節 多様な民族のモンゴル帝国への貢献

- 賽でた民族や個人の才能を活用するタレントマネジメント
  - ・「商人としてのモンゴル」
  - ・情報伝達を司るワイグル/リーダーと多様な人種
  - ・現地に精通する在地有力者
- 互恵関係でモンゴルを支援したワイグル/人資産
  - ・漢族/回教徒/ペルシア人を擁護
  - ・食糧の安定的調達が確保される。オアシス良いうる自給自足力
  - ・唐の政治を動かした高度な政治技術
  - ・東西交際拠点を獲得した語学文化、各国事情、通商、交渉力

#### 第4節 モンゴル帝国の拡大を促進したオゴジイの政治

- 帝国ネットワークの拡大を支えた、情報・人・モノの流通の迅速化
  - ・法帝「ヤサ」の成文化
  - ・徴税制度の導入
  - ・情報伝達網である驛年制「シャムチ」の整備
  - ・外征手法の愛容～若年騎士徴兵による軍事機動力向上と遠征地先への定住化～



### 4. 中華帝国統治の正統性と共通善~漢民族でなく中華民族であることの意味~

~中世	東洋文明圏	東アジア世界(冊封体制)	インド	西アジア	西洋文明圏	世界
中世	東洋文明圏	東アジア世界(冊封体制)	インド	西アジア	西洋文明圏	世界
近世	東洋文明圏	東アジア世界(冊封体制)	インド	西アジア	西洋文明圏	世界
現代	東洋文明圏	東アジア世界(冊封体制)	インド	西アジア	西洋文明圏	世界

中世 東洋文明圏 東アジア世界(冊封体制) インド 西アジア 西洋文明圏 世界

近世 東洋文明圏 東アジア世界(冊封体制) インド 西アジア 西洋文明圏 世界

現代 東洋文明圏 東アジア世界(冊封体制) インド 西アジア 西洋文明圏 世界



### ワールドワーク

1. 訪問地: 京都市
2. 日程: 2017年8月25日(金)~27日(日)泊3日
3. 調査先:
  - (1) 国際日本文化研究センター 櫻本渉氏
  - (2) 龍谷大学 村岡倫氏
  - (3) 東福寺 爾英晃 執事
  - (4) 龍谷ミュージアム 学芸員
  - (5) 関西大学東西学術研究所 藤原崇人氏
  - (6) 天龍寺

## 見山ゼミ紹介

4

2014年度  
40億人のためのビジネスアイデアコンテストで  
最優秀ビジネスアイデア賞を獲得

(2014年度多摩大学見山ゼミ)

大学(経営学部)における起業家教育

社会的課題の抽出  
×  
想像力を働かす  
(ゼロベースの発想)40億人のための  
ビジネス  
アイデア  
コンテスト40億人のためのビジネスアイデアコンテスト  
1月7日 17:20

アイデア部門：BANGLIGHT PLAN

本日は、アイデア部門のファイナリスト、多摩大学の見山ゼミのみなさまのビジネスアイデアをご紹介します！

現在、アイデア部門、ビジネス部門、H.I.S.賞の各部門で、IC Netの社内サポーターが応募者の方と一緒にビジネスプランの作成に取り組んでいます

~~~~~

【ビジネスアイデア名】

BANGLIGHT PLAN

【概要】

バングラデシュの首都、ダッカの夜は暗く、危険がいっぱい。そんな街を、明るくする。庶民の安全を守る。蓄光素材、反射素材を普及するためのビジネスアイデアを提案します。

<http://www2.icnet.co.jp/bizcon2014/>

©Ken-Ichiro Miyama

22

## 今年度のビジネスプランの作成方針

“Banglaight Plan” は、秀逸なアイデアで、ビジネスプランコンテストでも最優秀賞を取ることが出来ました。しかし、バングラデシュという異国でのビジネスプランであったことから、実際に実現することは出来ませんでした。

今年度は、以下の点を意識して、ビジネスプランを作成したいと考えています。

1. 学生が当事者として、実際に関わること (自己完結型)
2. 現地調査も実際に行える場所であること (多摩地域など)
3. 本当に実現が出来ること (実現可能性)

©Ken-Ichiro Miyama

⊗多摩大学 = 「実学」 主義

定義

今を生きる時代についての認識を深め、課題解決能力を高めること

しかし、世の中が課題を与えてくれるわけではない。

そのため 課題解決には、

1. 問題発見力の養成
2. 問題解決力の養成

が必要である。

参考：多摩大学HP

問題発見力の養成  
問題解決力の養成

“正解”は無い。

しかし、**答え**を出す必要がある。

見山ゼミの軸 ①

答えのないことに、学生の感性を以て積極的に挑戦する。

学生が一人一人、考え、答えを出す

そして、その**答え**も、相手に伝わらなければ、意味がない。

見山ゼミの軸 ②

一人一人の想いを「ストーリー」にして、相手に伝える。

# ～多摩市世代間交流プロジェクト～

産業社会特講  
実践的ビジネスプラン構想講座  
見山 謙一郎ゼミ

## 1, メンバー

経営情報学部

マネジメントデザイン学科

4年 森 康樹

経営情報学科

2年 和泉 遼

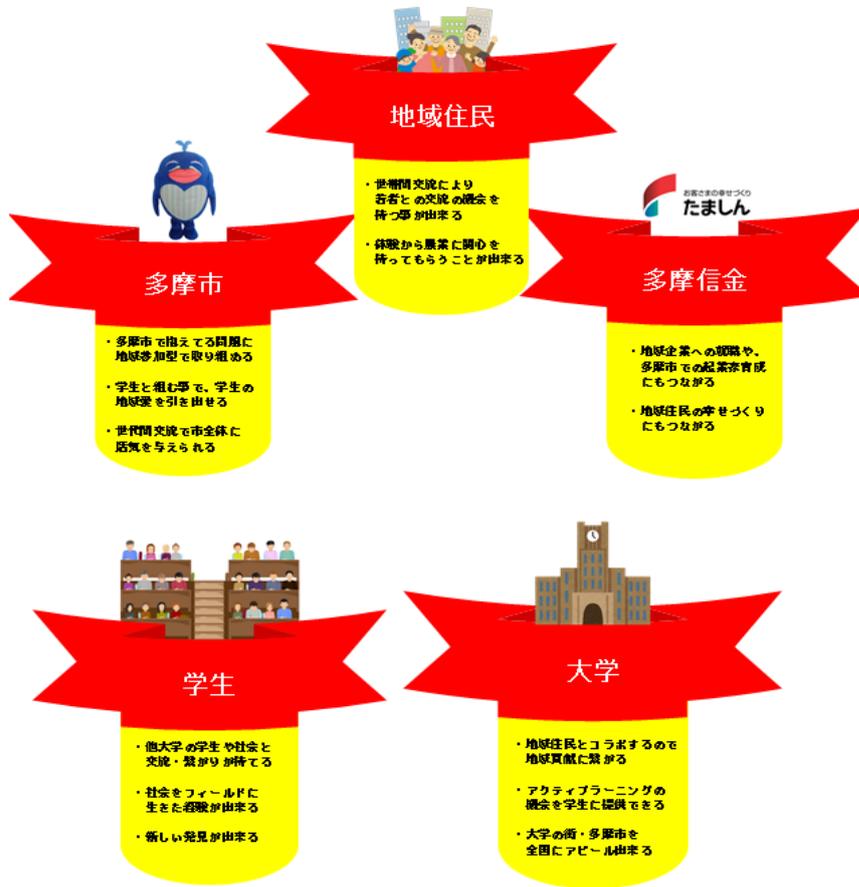
## 2, 本企画の登場組織



## 3, 多摩市の現状と私たちの提案する目的



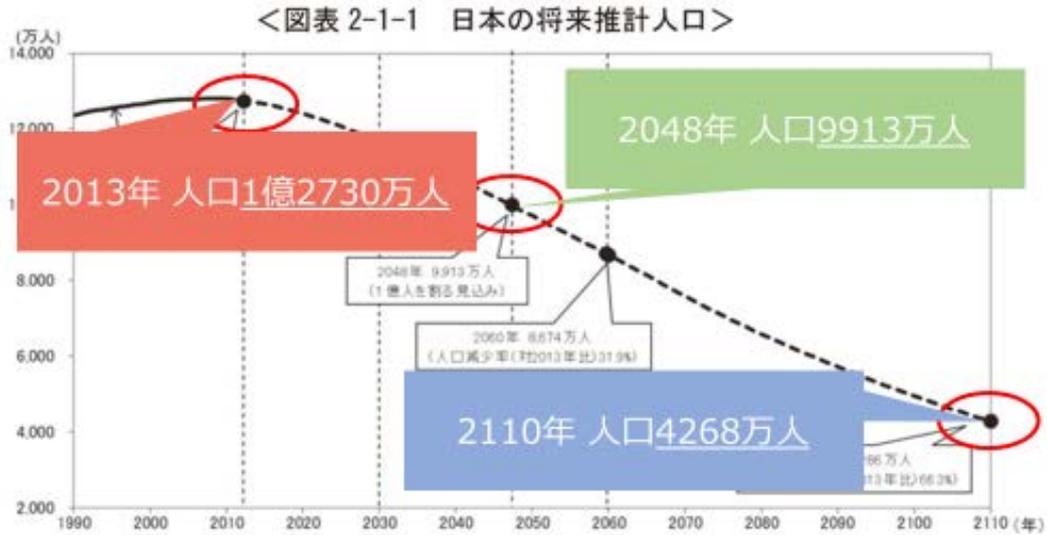
4, そこから得られる価値



# 会議特化型インターンシップ 参考資料

見山ゼミ インターンチーム

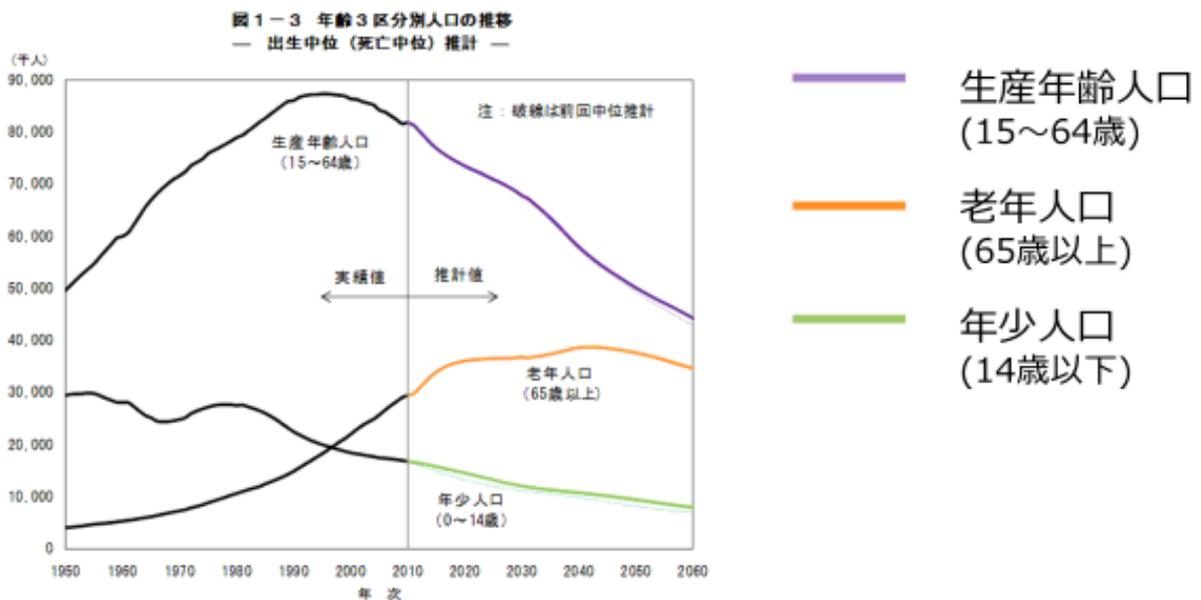
「働き改革」をもとに、私たちは「会議特化型インターンシップ」を考えました。将来日本の人口が減少していくことに対し、私たちにできることをしようしました。私たち学生にできることは就職前の準備、「就活」の意識改革です。



(備考)

- 1990年から2013年までの実績は、総務省「国勢調査報告」「人口推計年報」、厚生労働省「人口動態統計」をもとに作成。
- 社人研中位推計は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」をもとに作成。合計特殊出生率は、2014年まで概ね1.39で推移し、その後、2024年までに1.33に低下し、その後概ね1.35で推移。

引用：内閣府HP「人口・経済・地域社会の将来像」



引用：国立社会保障・人口問題研究所HP

## 短期インターンシップに対する学生の本音

- ◆接客業のインターンシップはアルバイトと同じことをやる
- ◆個人での作業が多く、社内・社員の雰囲気かわからないまま終わる
- ◆事務作業が主なため、やる意味が見いだせない

求める体験は作業ではなく仕事

インタビュー対象・参考：多摩大学4年生

## 従来のインターンシップとの比較

|      | 従来のインターン                | 会議特化型インターン               |
|------|-------------------------|--------------------------|
| 期間   | 1日から1年以上の長期参加可能         | 1日から1年以上の長期参加可能          |
| 勤務時間 | 基本は正社員と同じ始業時間から8時間勤務まで  | 数時間から正社員と同じ勤務時間から8時間勤務まで |
| 業務内容 | 短期ではグループワークや事務作業、長期では実務 | 期間にかかわらず会議を含めた実務に携わる     |

## 会議特化型インターンシップの概要(多摩市の場合)

### 登場人物

- ・学生
- ・企業
- ・教員
- ・運営  
(多摩市、多摩信金)

・学生が企業でインターンをする際、個々のプロジェクトに専属の「教員」が付き指導する。  
・教員は多摩大学の教授陣をはじめ、多摩市在住の高齢者を対象に「運営」により面接で選ばれる。

教員

・多摩市、多摩信金によりインターンシップ全体の運営が行われる。  
・学生、企業、教員は運営に登録申請をする。

運営

### 会議の内容

会議の内容はすべてのプロジェクトが企業の通常の会議希望制で多摩市、多摩信金の提供するテーマのもと会議を行うことができる

「働き方改革」から始まりましたが、私たち学生自身の経験から本当に求められているインターンシップを考えるようになりました。従来のインターンシップとは異なる学生が本当に求めているインターンシップにより学生だけでなくインターンシップに関わる企業、地域の活性化につながると考えました。

## 平成 29 (2017) 年度多摩大アクティブ・ラーニング発表祭

B-5 : 201 教室 (14:20~14:35)

## 「多摩大学・上海東海学院双方向サマープログラム」

鈴木悠哉 (21511171) ・ 玉木真悟 (21511203) ・ 福里果央 (21511266) ・  
一杉波音 (21711308) ・ 中島大地 (21711611) (以上学籍番号順)

1989年の開学にあたり、本学は「国際性」「学際性」「実索性」の三つの基本理念を打ち出した。この理念は消えること無く維持され、現在にまで生き続けている。そして今年2017年、われわれは協定校である上海東海職業技術学院（以降東海学院と表記）と交流を行ったのである。

この東海学院は上海に位置するが、上海は北京や香港を越えて人口・域内総生産ともに中国最大であり、世界経済の一つの要にあたる。その東海学院は1993年に開学した私立大学であり、現在のキャンパスは上海市閔行区にある紫竹ハイテクパークの一角（虹梅南路6001号）に位置する。在校生は5200名あまりで、学部教育機構として経営管理学院、商学院、藝術学院、機械電子（メカトロニクス）学院、航空学院、護理（看護）学院、伝媒（メディア）学院、および基礎教育学部、社会科学部（社会主義思想教育部門）、継続教育学院の十部門を有する。すでにアメリカのニューヨーク州立大学オスウィーゴ校、イギリスのハダースフィールド大学、オーストラリアのチャールズスタート大学、ドイツのアンベルクヴァイデン応用科学大学といった世界の大学と協定を結んでおり、国際交流への志向も強い。

2016年11月28日、多摩大学と東海学院は協定を締結、2017年7月3日から7日にかけてサマープログラムとして東海学院より教員2名および学生7名（男子5名、女子2名）あわせて9名が多摩大学を訪問した。うち教員は商学院講師の李慶華氏、おなじく冬梅氏となる。一行はサントリー府中工場などを見学したほか、国際経営入門をはじめとする講義を受講し、日本側・中国側の学生同士による相互発表や、日中双方による文化体験を行った。また7月6日には校長の項家祥氏、党政弁公室主任の李希萌氏、商学院院長の呉静芳氏、校長助理・招生就業处处长・学生工作部部长の郁萍氏、培訓中心副主任・伝媒学院副教授の王翔宇氏らが多摩大学を視察したのである。

この7月の東海学院側のサマープログラム訪問にこたえ、われわれも9月10日から15日にかけてサマープログラムとして東海学院を訪問したのであった。その内訳は経営情報学部教授のバトル、准教授の水盛涼一、および学生15名（男子13名、女子2名）となる。なお東海学院にとってこの規模の訪問は開学以来初めてであったといい、大きな印象を残したようである。

今後の上海でのサマープログラムの内容は大きく二種に分かれた。第一に、東海学院の各種行事では教員は東海学院の教授法を学習し、われわれは多摩大学での通常講義とは異なる新鮮な講義を受講し、多角的な視点の獲得につとめた。ここでは中国語の初歩的な講義を受け、ま

た中国の伝統文化に触れ、そして中国で進む FinTECH（革新的な金融技術の導入）の様相につき講義を受けた。また日中学生の相互発表や東海学院の学生寮訪問を行い、また学生のみでの会食を行うことにより、直接的交流による相互理解の促進を行った。第二に、課外の時間には上海市中心部に進出し中国の購買動向や電子決済の実態につき視察を行った。ここでは上海の著名な観光地である新天地、大世界、南京路步行街、豫園、陸家嘴、東方明珠塔、さらには上海ディズニーランドを参観した。こうした活動は海外の生活に慣れることにより長期留学へのハードルを下げるという目的もあったようである（実際にわれわれのうち1名が2018年2月から半年の留学を申請した）。

そこで今回われわれは、アクティブラーニング祭での発表により上海で獲得できた体験の発表を行い、また日本と中国の類似点・相違点を報告しようとするものである。おもに前半は上海の立地や東海学院の紹介を行い、また後半では昨今日本でも振興が叫ばれる FinTECH の事例として、日本と中国の自動販売機につき紹介し、現在そして今後の経済模様を推察していく。



上海ディズニーランド（ディズニーランド）訪問風景



タクシーは中国版 uber である滴滴出行を起動



地下鉄構内の電子決済専用販売機

# 多摩のいいね！を発掘しよう

## -SNSを用いた多摩地域復興企画の提案-

多摩未来奨学金プロジェクト  
教育文化グループ

### 1. 多摩未来奨学金とは

・多摩未来奨学金とは多摩地域を活性化する人材を育てる「プロジェクト参加型」奨学金の事です。具体的に言いますと、多摩の企業・団体から拠出の資金を原資として多摩地域の各大学・短大から選抜された学生に30万円を給付するプロジェクト参加型の奨学金です。選抜された学生は多摩未来奨学生として「多摩未来奨学生プロジェクト」に参加し、大学教員および専門家の指導の下、地域活動や企業訪問を通しグループワークを行い、多摩地域への提言を行います。プロジェクトを通し、多摩地域の学生が地域と地域企業に対する理解を深め、多摩地域を活性化する人材を育てます。

・この活動を行うことにより地域や企業について知ることが出来て、多くの方と出会うことが出来ます。それによって自らを成長させることが出来ます。

### 2. 多摩未来奨学金のプロジェクトの流れ

・住む・育てる・働くの3つのキーワードから学生自身が興味を持ち、各グループに分かれてテーマを絞っていきます。分かれた後、各グループに大学教員と企業から1名ずつ、コーディネーターがつきます。その方々から指導のもと、多摩地域で起きている問題についてグループワークをして解決策を考えます。

### 3. 年間行事

12月 交付式

2月 オリエンテーション（集合研修）

9月 中間報告会

11月 提言書の作成

12月 提言発表会

\*グループワークは月に1・2回集まり活動します

\*インターンシップを行えます

#### 4. 問題意識と原因

・私達、教育・文化グループの問題意識は多摩地域における人口流出です。原因は、多摩地域に住む人たちにとって①多摩の魅力が伝わっていない②多摩の企業の取り組みについて知られていない2つの原因が挙げられます。

・①多摩の魅力が伝わっていないについては中間発表に参加した学生に多摩の遊び場を考えるとという検証した結果、2・3か所しか挙げられていませんでした。このことから、多摩の魅力が伝わっていないことが分かります。

・②多摩の企業の取り組みについて知られていないについては、『中小・ベンチャー企業へのマイナスイメージ<学生調査>』en学生の就職情報、2013年 \_\_\_\_\_ で社会貢献が低くインパクトが小さいなど多摩の企業の取り組みについて知られていないことが分かります。

#### 5. 解決方法

・多摩の遊び場と企業の魅力を伝えるために、近年SNSで時事情報を収集している若者が多いのでSNSに動画を載せることによって若い世代をターゲットにいいね！を見つけてもらうという案になりました。なぜ若者がターゲットなのかについては、『住民基本台帳人口移動報告（詳細集計結果）』総務省統計局、2010年 \_\_\_\_\_ 歳が年齢各歳別都道府県間移動者数が高かったからです。

#### 6. 動画について

周りに合わせて就活をするも、自分に合った企業が見つからない大学生一みらい。Youtuberになるべく友達2人を巻き込んで、多摩モノレール沿線の若者に人気のお店を巡ることに。撮影終了後、編集作業を控えてみらいが出した決断とは…？  
実際に動画を作りました。

# 虚偽行為 の観測

嘘、... 欺こうとする意図をもって行われる虚偽の陳述

**本** 実験の目的はこの嘘に対して人間の脳波がどのような反応を示すのかについて調べることである。

**実** 験内容は極めてシンプルであり質問に対してすべて「はい」と答え、その中で虚偽の場合とそうでない場合の反応、また想定していない質問への反応の3パターンの脳波を計測しその違いを比較する。

**昨** 年度の「多摩パワースポットの魅力を脳波計測による生理学的指標の観点から分析する試み」に続き良峯ホームゼミでは今年もいくつかの脳波計を使用した実験を用意しました。今回、私たちは嘘をテーマに脳波に現れる反応を調べ脳波による虚偽の判別が可能出るか否かについて考えていきます。

実験者: 3年経営情報学部河崎 光将(良峯ホームゼミ所属)  
3年経営情報学部早坂 一哉(良峯ホームゼミ所属)

## 「そうだ、島根に行こう」プロジェクト

多摩大学 奥山ゼミ しまね班

石橋 沙也香      坂本 尚平      高野 裕太郎

高橋 美帆      田中 雄大      月岡 美笛

山崎 泰輝

## 島根県の概要

- ▶ 人口：684668人（平成29年10月現在）
- ▶ 面積：6708.24km<sup>2</sup>（19位）
- ▶ 主な観光名所：出雲大社・宍道湖・石見银山  
・隠岐の島・玉造温泉・松江城など
- ▶ 主な特産品：しじみ・出雲そば・ぜんざい餅・  
のどぐろなど

## 島根県 観光の現状と課題

### ①通貨型観光地

理由：アクセス悪い、遠い、料金高い、情報が少ない、  
周辺施設の営業時間が短い、お店自体少ない

### ②特に冬にくる観光客が少ない

### ③出雲を中心とした「縁結び」目的の若い女性が多い

➡「縁結び」を中心とした誘致を行っている

## 着目点

▶ 株式会社ポーラ（POLA）が行っている  
「美肌県グランプリ」

2012年～2015年まで 1位（4連覇）

※現在6位

**島根県**



**「縁結び」と「美肌」を掛け合わせたツール**

※この続きは発表で！！

## 目黒プロジェクトによる仙台イベント及びオータムフェスティバルについて

発表者

多摩大学目黒高等学校

千原大輝 伊藤玲実 古川優作 川岸小雪

### ①仙台イベント

私たちは、宮城県の名取市、塩竈市、多賀城市の現地の方々からのメッセージを和紙に書いて貰うという8月の2日間のフィールドワークを通して知り得た「人々の震災に負けず、前向きに歩もうとする力強い精神」を伝えたいと考えている。和紙に書かれた現地の方々の「メッセージ」を紹介し、被災地域の人々は今何を考え、何を思っているのかを主題に、どのようにしてこの気持ちを受け取ったのかをメインに発表を行う。

### ②目黒パーシモンでの「Autumn Festival」

10月1日に行った目黒パーシモンホールでのイベントは、目黒区民が参加するコンサートや、和紙キャンドルイベントで楽しく幻想的な空間を演出した。この活動は、目黒区の姉妹都市をイメージとしたキャンドルや、各地域の物産展等を行うことで幅広い年齢の人々にもっと目黒のことを知ってもらいたいとのコンセプトの元に活動した。

目黒区を中心に、少しでも多くの方々に「日本の伝統文化」を知って頂き、より身近に感じて頂く為に企画・実施したことを発表する。

## 多摩大学アジアダイナミズム 韓国 濟州平和フォーラム研修 報告書

### 1. 研修の目的

現代の産業界が最高学府である大学に望むものは、時代の課題をビジネスの現場で解決できる問題解決力をもった人材の育成と、アジア・ユーラシアダイナミズムというパラダイム転換の時代を創造する志や、「地政学的知」を身に付けた人材の育成である。また、多摩大学の基本理念の一つに「国際性」がある。これら大学に課せられた使命から多摩大アジアダイナミズム韓国濟州島研修として隣国である韓国において、世界の 69 カ国 4000 人が集った「第 12 回濟州平和フォーラム 2017」(5 月 31 日(水)～6 月 2 日(金))に参加した。

### 2. 研修詳細日程

<経営情報学部オリエンテーション① 5 月 11 日(木) 12:20～12:55>

第 4 次産業革命 事前学習(趙教授) プログラム概要説明

<経営情報学部オリエンテーション② 5 月 18 日(木) 12:20～12:55>

資本主義の危機 濟州島の歴史 事前学習(趙教授) 学生交流会について

<経営情報学部オリエンテーション③ 5 月 25 日(木) 12:30～12:55>

課題について(趙教授) 海外旅行保険について説明

<第 1 日目 5 月 31 日(水)>

07:30 成田国際空港国際線ターミナル第 1 旅客ターミナル北ウイング JTB カウンターに集合。  
09:45～12:25 参加者と教職員が日本経営者訪問団と共に KE718 便にて濟州国際空港へ  
15:00 バス移動、M ステイ ホテル濟州 チェックイン。 16:30 バス移動、濟州国際会議場到着。  
16:40～18:10 『4 次産業革命と資本主義の未来(東京倫理法人会・多摩大学 セッション)』  
原丈人 DEFTA PARTNERS グループ 会長、チョウ・ドンソン仁川大学総長(司会)、  
ジャウ・リ長江商経大学院(CKGSB) 副総長  
18:30～19:40 バス移動、会場外のレストランで食事 20:00～21:30 オープニング公演  
22:00 バス移動、M ステイ ホテル濟州に到着。

<第 2 日目 6 月 1 日(木)>

07:00 朝食ブュッフェ(ホテル 1 階レストランにて)  
08:00 集合・バス移動  
08:30～09:00 濟州国際会議場にてグループごとのミーティング  
09:00～10:00 『特別セッション I "気候変化の機会と挑戦、より良い成長は可能なのか"』  
アル・ゴア元米国副大統領ノーベル平和賞受賞者  
10:20～11:00 『開会式 基調演説』 ムン・ジェイン韓国大統領のビデオメッセージ  
11:00～12:30 『世界リーダーセッション アジアの未来ビジョン共有』  
メガワティ・スカルノプトゥリ元インドネシア大統領、アニーバル・カヴァコ・シルヴァ元ポルトガル大統領、  
ボンサルマーギーン・オチルバト元モンゴル大統領、イ・ホング韓国元国務総理  
12:30～13:00 濟州国際会議場 Tamna 耽羅 B ホールで昼食(ビュッフェ形式)  
13:00～14:30 『アジア長寿企業の新価値創造と経営者哲学』  
大高 英昭株式会社 パソナ / 副会長 | 100 年経営研究機構 副代表理事  
パク・ジンソン セムピョ食品代表取締役社長 チャン・マンギ 人間開発研究院会長  
趙佑鎮 多摩大学経営情報学部教授(司会)  
14:50～16:20 『世界平和都市間 連帯方案模索』 16:40～18:10 セッション自由参加  
18:30～20:00 バス移動、会場外のレストランで食事  
20:10～21:30 日本訪問団親睦交流会(日本経営者と多摩大生との交流)  
22:00 バス移動、M ステイ ホテル濟州に到着。

## &lt;第3日目 6月2日(金)&gt;

- 07:00 朝食ブュッフェ(ホテル1階レストランにて)
- 08:00 集合・バス移動 08:30～09:00 済州国際会議場にて全体ミーティング
- 09:00～10:00 『[特別セッション II] “デジタル時代の民主化: 素早く開放的な政府のための提案”』  
ジャンベンサンブラセ フランス国家改革大臣 10:00～10:20 学生交流会準備
- 10:20～11:50 『日韓学生交流会セッション』  
アジアの新しい秩序と協力的なリーダーシップを果たす為の日韓の若者たちの役割  
～日韓親善における文化交流を中心として～

## &lt;参加者&gt;

- ・多摩大学(学部生32人、院生2名、中高生5名、教員6人)
- ・済州ハンラ大学(学部生40人、教員4人)

## &lt;オープニングセレモニー&gt;

- ・金星勲済州ハンラ大学総長 挨拶 ・田村嘉浩理事長 挨拶 ・鄭礼実教授 挨拶

## &lt;学生発表: 日韓の相互理解を深めるために&gt;

- ・発表① 日本の就職事情について 多摩大学学生発表
- ・発表② 日本のアニメからみる若者について 多摩大学学生発表
- ・発表③ 韓国の大学生・若者事情について 済州ハンラ大学学生発表

## &lt;グループディスカッション: 日韓相互の理解とアジア・日韓関係の未来&gt;

1チーム約8～9人(日本・韓国半数ずつ)に分け、各チームに両校教員1人が司会ファシリテーターとして参加

- 11:50～13:00 『Airbnb(エアビーアンドビー)代表講演』・昼食
- 13:00～14:30 『韓中日青少年交流を通じた相互理解の架橋作り』
- 14:50～16:20 『韓中日の第4次産業革命を論ずる～先進国型地域協力インダストリー 4.0』
- 18:30～19:40 閉幕式 済州国際自由都市開発センター理事長主催 晩餐会

## &lt;第4日目 6月3日(土)&gt;

- 07:00 朝食ブュッフェ(ホテル1階レストランにて) 09:00 集合・バス移動
- 10:00～12:00 『済州平和研究院訪問』  
・済州平和研究院長兼済州フォーラム組織実行委員会委員長挨拶、質疑応答  
・展示場視察 ・済州平和研究院会議場でフォーラムを振り返っての研究討論会
- 13:00 昼食 14:00～16:00 『済州ハンラ大学訪問』  
・国際交流提携式、大学見学
- 16:00～18:00 『ロッテマート視察』 ・視察、ショッピング
- 19:00～20:00 夕食 20:30 Mステイ ホテル済州に到着。

## &lt;第5日目 6月4日(日)&gt;

- 07:00 朝食ブュッフェ(ホテル1階レストランにて) 09:00 集合・バス移動
- 10:00～11:00 『天地淵瀑布(チョンジョンポッポ)見学』(西帰浦)
- 11:00～12:00 『Trick Art Museum Korea 見学』(西帰浦)
- 12:00 昼食 13:30～14:30 『済州ガラスの城 見学』(翰京面)
- 15:00 『トッケビ(お化け)道路 見学』(新済州)
- 16:30 済州国際空港に到着、各自チェックイン
- 18:30 KE717 便にて成田国際空港へ
- 20:30 成田空港到着 解散

※教員4名、学部生7名、院生2名はチケット手配ができなかったためソウル経由で翌日羽田空港に到着

## 濟州島国際平和フォーラムを通じた多文化共生について

発表者

多摩大学目黒高等学校

音堅 咲希 小村方 月花

### ①日中韓青少年交流と相互理解

アジアでの日中間の共通理解を深めるために青少年交流事業を実施している。それは、大学生外交キャンプと子供童話交流事業である。こうした交流事業は、日中韓三国の信頼を深めるために行われ、特に互いの違いを理解することを重要としている。

良い交流になるためには、違いを間違いと認識するのではなく、共通点を見つめることであり、歴史・文化・伝統・習慣などの違いを様々な観点から知る努力が各国ともに必要である。そして固定観念を見つめ直すことで将来の展望を見据えた交流になるであろう。

### ②日中韓青少年交流を通じた相互理解の架け橋作り

東アジア地域の平和と共同繁栄を目指すために、日中韓三国協力事務局が設立されている。この事務局の目的は三国政府間の協議の運営・管理を支援することと、協力案件の実施を行い三国関係の協力を促進する事である。

また、日中韓子供童話事業では、読書の楽しさについて活動を通じ相互文化の共通性・特徴を理解することを目的としている。

国内においても上記と同様の活動を行っている場所がある。例えば、京都市では高校生による「京都市友好都市青少年会議」の実施を行っている。立命館アジア太平洋大学では留学生が地域の学校を訪問して異文化交流や英語教室を行う取組を実施している。

こうした一般市民による交流を積極的に行っていくことで日中韓三国の理解はさらに深まることであろう。

## 第四次産業革命による環境と行政の変化

発表者

多摩大学目黒高等学校

三井 若菜 マリガン ショーン

多摩大学目黒中学校

榊 星苑

### ①第四次産業革命について

第四次産業革命とはA I・ロボットによる革命である。この革命により資本主義社会における格差をなくす可能性がある。なお、A Iによるメリットは人間社会が豊かになることであり、デメリットは仕事の喪失とデジタル格差である。

この状況を改善するためには、社会に貢献できる企業としての存在を高め、会社は株主のものであるという格差をなくし、社会的責任を果たしていく必要がある。A Iと上手く向き合い、機械と人が調和できる社会形成こそ将来の展望が見えるであろう。

### ②電子政府について

現在、世界中で電子自治体・電子政府が認証基盤を通じて住民や企業により良いサービスを提案している。日本での電子政府の取り組みは、行政情報の電子的提供、行政手続きのオンライン化、業務・システム最適化の推進の三点である。

電子申請のメリットは時間・場所・煩雑さの解消であり、「e-Gov」が総合窓口としてこれらへの対応を実施している。

### ③今の環境問題について

地球温暖化とは温室効果ガスが大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が急激に上がり始める現象である。その影響には海面上昇や干ばつがあり、この状況を対処するために必要なこととして、私たちの普段の行動を改善する事が改善策へとつながっている。

大気汚染とは自動車や工場の煙などに含まれる汚染物質により空気が汚れてくることである。その影響には酸性雨や光化学スモッグがあり、この状況を打破するためには省エネや節水などが必要不可欠である点を説明する。

## いちょう団地から見る高齢化社会について

多摩大学目黒中学校

門田 健正 小林 飛雄己 佐々木 駿成

- ・活動への参加理由
- ・これまでの活動について
- ・フィールドワークを通して見えてきた問題点
- ・今後の活動を考える
- ・活動を通して気づいたこと

### <いちょう団地研究についての概要>

私たちは、多摩大学の田中先生のゼミの学生と一緒に、いちょう団地についての研究を進めてきた。いちょう団地は、神奈川県大和市と横浜市にまたがる公営住宅のことである。ここでは、日本人だけでなく、ベトナム・カンボジア・ブラジルなど多国籍の人々が共に生活をしている。全国的にみても非常に規模の大きい団地だが、多文化に人々がうまく共生できている成功例として、テレビや雑誌などでも取りあげられている。

実際にいちょう団地に足を運び、住民の方々にインタビューをして、いちょう団地の現状について知った。また、大和市役所にも訪問し、多文化共生についてどのような取り組みがなされているのかについて学んできた。そのなかで気づいた問題点に対して、自分たちは何ができるのかを考えてみた。

以上、私たちは「高齢化」に着目して、発表をいたします。

## 2017 多摩大 AL 祭発表資料

|               |                                                                                                                                                                     |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① ゼミ名         | 栢原(かしはら)ゼミ                                                                                                                                                          |
| ② ゼミのテーマ      | <b>企業・事業の成長と衰退</b>                                                                                                                                                  |
| ③ 本年のテーマ      | <b>「温泉街の再生について」</b><br><br>参考 2016 年 ローカル鉄道のビジネスモデル                                                                                                                 |
| ④ 研究の方法       | 1 文献研究<br><br>2 フィールドワーク(取材)                                                                                                                                        |
| ⑤ 問題意識        | 1 ビジネスは環境の変化に大きく影響を受ける。<br><br>2 かつて繁栄していた温泉街でも、衰退傾向にある。<br><br>3 しかし、その中にもあっても新たな活気を取り戻している温泉街もある。<br><br>4 温泉街はどのような取り組みをしているのか?<br><br>5 再生に成功している温泉街の秘訣は何だったのか? |
| ⑥ 文献研究の概要     | 1 温泉が流行っていた頃の理由<br><br>2 温泉街の最近の試み<br><br>3 ビジネスコンセプトの変化等を調べる。                                                                                                      |
| ⑦ フィールドワークの概要 | 1 群馬県宝川温泉を擁する水上温泉へ視察。<br>(2017年、10月28.29日)<br><br>2 取材 宝川温泉汪泉閣代表取締役<br>水上温泉旅館協同組合理事長 <b>小野与志雄さん</b><br>の講義を伺う。質疑応答等。                                                |

2017年度 多摩大学 石川晴子ゼミ  
多摩市立諏訪小学校 放課後子ども教室「諏訪小ふれんず」  
「英語であそぼう！」プロジェクト

参加メンバー：石川晴子ゼミ 2, 3 年生（計 25 名）

I. 諏訪小ふれんずとは

放課後の児童の安全な居場所を提供する場として、東京都多摩市がサポートする、諏訪小学校の放課後子ども教室の名称です。多摩市教育連携コーディネーターが中心となり、大学生（現在は多摩大学石川ゼミと法政大学ボランティアサークルの学生）、教員、地域住民、児童館職員が連携し、協同で運営しています。参加する大人は全員、安全管理員またはボランティアとして市に登録します。

児童の参加は、保護者の承諾を要するため、登録制となっています。対象学年は、3～6年生で、開催日は主に、火曜日（自由遊びの日）、金曜日（学習の日）の週2日です。責任者として地域住民2名の参加が必要なため、日にちによっては開催できないことがあります。

開催日の候補は、月1回の定例会議で決まり、各団体の代表者が、参加したい日にちを申請します。連絡は、代表者同士はメーリングリストを通して行い、参加者全体ではTOWNTIPというSNSを通して行います。TOWNTIPへの登録は、参加者全員行います。

諏訪児童館、諏訪小 PTA、おはなしの会、おやじの会と共催で「流しそうめん&スイカ割り」、「ハロウィンのかぼちゃランタンづくり」、「すわっこまつり」、「こどもまつり」、「どんど焼き」などのイベントも実施しています。

II. 石川ゼミ「英語であそぼう！」プロジェクトとは

上記「諏訪小ふれんず」の金曜日（学習の日）に行っている今年7年目となるプロジェクトです。具体的な内容は、英語を使ったゲームや遊び（フルーツバスケット、英語カルタ、神経衰弱、数字すごろく、など）で、学生自らが企画、準備、実施まですべて行います。

「諏訪小ふれんず」の登録児童は70名ほどですが、1回の平均参加人数は15～20名程度です。英語授業のあとに遊びの時間があり、大学生はバトミントン、ドッジビー、大縄跳び、動物将棋などを使って子どもたちと自由に遊びます。終了後は、地域の安全管理員と大学生で反省会をし、その日気づいたこと、改善点などを話し合います。

今年度はゼミのプロジェクト参加メンバーを 2,3 年生混合の 5 グループに分け、ローテーションで実施しています。春学期は中国からの交換留学生 2 名も参加しました。

#### 最近の参加実績

|      | 「英語であそぼう！」<br>実施回数 | 「英語であそぼう！」関連イ<br>ベント参加・実施回数                              | プロジェクト<br>参加学生数 |
|------|--------------------|----------------------------------------------------------|-----------------|
| 2011 | -                  | 0                                                        | 17              |
| 2012 | -                  | 1 (ハロウィンランタン作り)                                          | 15              |
| 2013 | 12 回               | 3 (多摩大学永山学園祭、流し<br>そうめんとスイカ割り、国際<br>コミュニケーションデー)         | 13              |
| 2014 | 15 回               | 2 (流しそうめんとスイカ割<br>り、すわっこまつり)                             | 17              |
| 2015 | 16 回               | 2 (流しそうめんとスイカ割<br>り、すわっこまつり)                             | 21              |
| 2016 | 11 回               | 2 (多摩祭公開講座、すわっこ<br>まつり)                                  | 26              |
| 2017 | 11 回 (11 月 30 日現在) | 4 (多摩祭公開講座、流しそう<br>めんとスイカ割り、ハロウ<br>ィンランタン作り、すわっこ<br>まつり) | 25              |

### III. 「英語であそぼう！」プロジェクトのねらい

1. 小学生に外国語を学ぶ楽しさを伝える。
2. 小学生に英語の授業をすることにより、伝えたい内容をしっかり相手に伝えること、伝え方に工夫すること、相手の気持ちを読み取ること、いろいろな出来事に適切に対処することを学び、自らの成長につなげる。
3. 仲間と協力してプロジェクトに取り組むことで、よい人間関係を築く方法を学ぶ。また、グループワークのやり方について体験的に学ぶ。
4. 地域・社会の中の自分の位置と役割、社会貢献について、理解と考えを深める。

## 八王子農業振興に向けた取り組み ーブルーベリー収穫体験（援農）より学んだことー

野坂美穂ゼミ

佐藤紀博（2年）/鈴木大河（2年）

### 1. はじめに

八王子市と八王子商工会議所連携のもと設立された「サイバーシルクロード八王子」では、産業振興の一つとして農業振興を行っており、また産学連携のマッチングを事業として行っている。今回、八王子市でブルーベリー農園を営んでいる生産者の方より、サイバーシルクロード八王子に「人手不足に困っている」との相談があった。2017年6月29日（木）に、東京造形大学、多摩大学、聖ヶ丘中高の教員で、高尾駅から車で約30分のところにある八王子市下恩方のAブルーベリー農園に視察に訪れ、各大学が夏休みを利用して、収穫体験（援農）を行うことになった。

### 2. ブルーベリー農園における課題

Aブルーベリー農園には、ブルーベリー木が200本、1本あたり4キロ～6キロ程度の実を収穫することができる。全ての木を収穫すると仮定すれば、生産量は800キロ～1トン超である。しかしながら、ブルーベリーの収穫時期は、7月末から8月にかけての約1か月と短く、人手不足という理由もあり、この短期間で全ての実を収穫することができていないのが現状である。農園視察後、生産者の方に課題を伺ったところ、主に、（1）収穫の人手不足、（2）収穫後の付加価値を高める取り組みができていないことの2点が挙げられた。

（1）の人手不足については、八王子市の農業は主に家族経営体であるため、収穫量に対する労働が不足することがある。番場農園では家族3人で収穫作業を行っており、繁忙期には、有償ボランティアとしてリタイア世代の高齢者1名に作業依頼しているが、それでも収穫量に対する人手が不足している。このため、昨年度は、全体のブルーベリーの1割のおよそ100キロしか収穫できなかったそうである。

（2）の付加価値を高める取り組みができていないという点であるが、ブルーベリーには1番花、2番花、3番花とあり、1番花は実が大きく、直売所に販売している。2番花以降になると、品質的には1番花とほとんど変わりがなくとも、場合によっては1番花の半値ほどしか価格がつかないことがあり、付加価値が高められていない。また、基本的に生産者は「ブルーベリーの里組合」に加盟しているため、これ以下の値段では販売することができないという価格の下限が設定されている。このように、価格の制約があるため、売りたいくても売ることができないのが現状である。



### 3. ブルーベリー収穫体験（援農）の概要

#### （1）収穫体験の日時

|     |                                                                                             |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時  | 2017年8月7日（月）8：30～13：00                                                                      |
| 場所  | 八王子市下恩方町（Aブルーベリー農園）                                                                         |
| 参加者 | 多摩大学（学生7名、教員：松本、野坂）、<br>聖ヶ丘中高（学生12名、校長先生、出岡先生）<br>生産者1名、サイバーシルクロード八王子1名、<br>大学コンソーシアム八王子事務局 |
| 目的  | 援農（人手不足への対応・支援）                                                                             |

#### （2）成果

今回の収穫体験（援農）では、2時間で約50キロの収穫を行うことができ、生産者に非常に喜んでいただくことができた。普段は生産者3人で、1日に10キロ程度しかとれないそうである。第二に、収穫は単調な作業であるため、自然と会話が生まれ、楽しみながら収穫することができた。さらに、どのようにすれば実を速く摘むことができるか、その「作業の効率性」を考えるようになり、自分達なりに工夫を行った。

#### （3）振り返りのワークショップ

はじめに、生産者より八王子市農業における課題の紹介があり、次に、ブルーベリー農家である松本ゼミの先輩より、実際に自身が行っている商品化の試みが紹介された。そして、大学生と高校生が混合したグループによる、今後のブルーベリーの活用方法についてディスカッションを行った。



#### （4）収穫体験（援農）を終えての感想

佐藤：八王子の野菜の栽培はよく目にしますが、果物を栽培していることに驚きました。

今後、八王子の農産物の知名度を上げるべく、学生にできることを考えていきたいです。

鈴木：前からブルーベリー畑があることは知っていましたが、実際には行ったことがなく、今回初めて行って良かったです。ブルーベリーはもっと小さいと思っていましたが、畑は意外と広くて収穫するのが大変でした。最後に好きなだけブルーベリーをもらえて良かったです。

### 4. 今後の活動の方向性

#### （1）高大接続による「農業」の取り組みの継続

来年の学園祭（多摩祭）を目標として、高大接続で企画を考え、取り組む予定である。

#### （2）大学間連携の取り組み

コンソーシアム八王子の産官学連携部会では、2018年1月末（予定）に向けて、八王子農産物を使用した商品アイデアを提案し、それを生産者や企業に評価してもらうワークショップに参加予定。

## みんなの食卓プロジェクト 2017

多摩大学経営情報学部梅澤佳子ホームゼミナール 2年

横溝侑哉

### 1. 本プロジェクトの経緯・目的

#### (1) 経緯

聖ヶ丘商店街、聖ヶ丘コミュニティセンター(通称ひじり館)、連光寺・聖ヶ丘地区における梅澤ゼミの活動は2010年度「多摩うどんぼんぼこ・聖ヶ丘商店街の課題解決プロジェクト」から始まった。2012年度からは「近隣交流七輪プロジェクト」がひじり館の主催事業である夏・秋のまつりに参加し継続して活動を行っている。

7年前、「多摩うどんぼんぼこ・聖ヶ丘商店街の課題解決プロジェクト」のメンバーが、連光寺・聖ヶ丘地区や聖ヶ丘商店街の歴史についてひじり館運営協議会会長にインタビューを実施した。その際、少子高齢化と核家族が多いこの地域では世代間交流の機会が少ないこと、ひじり館では館内を利用することも高齢者の関係がよくないという話を伺った。会長から「梅澤ゼミで何か世代間交流の企画を考えてくれないか。」と依頼を受け、「世代間交流 習字で交流を図ろう!」を実施した。この活動がひじり館運営協議会総務部長兼多摩市食育ネットワーク推進連絡協議会委員の目に止まり、「食をテーマに世代間交流が出来ないか。」との依頼を受けた。当時の4年生が「諏訪小学校菜園プロジェクト」の経験をもとに「みんなの食卓プロジェクト」を企画・提案し、ひじり館協力のもと青少年問題協議会連光寺・聖ヶ丘地区委員会、地域の有志と梅澤ゼミが活動を開始した。

#### (2) 本プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、「食」を通じて高齢者と子どもたちの交流を図ることである。高齢者の方々に楽しい時間を過ごしていただき、また開催場所であるコミュニティセンターから色々な情報を得て外とのつながりを持ってもらいたいと思っている。また、子どもたちには、核家族化が進み、少人数世帯が増える中、多世代で交流する機会を提供することで

自発的コミュニケーション能力が養われることができるのではないかと考える。何より大勢で食事をする楽しみを体験し、食を文化として感じる機会をつくりたいということが目的である。

### 2. 活動の内容

#### (1) 連携団体の位置づけ

2014年、PJは、この活動に対して「やる意味と価値がある」「やりたい」という有志が集まって始まった。その後、どの活動団体が行うものか、どの部会のものか…といった議論があったようである。そこで今年度は、聖ヶ丘コミュニティセンターの事業として位置づけられ、多摩市青少年問題協議会連光寺・聖ヶ丘地区委員会と梅澤ゼミみんなの食卓PJの3者が連携して行うという形になった。

#### (2) それぞれの役割分担

PJはそれぞれの関係者が出来ることを無理なく行うことで継続的に実施することができている。学生は、①小学校・コミュニティセンターで配布する「ご案内・申込書」の作成、配布、回収、②ポスターの作成等事前準備、と当日は③会場設営、④司会、⑤おにぎり作りの手伝い、⑥参加者との交流などを担当している。有志の方々は、①おにぎり作りに関する具材やお米等の事前準備、②当日はおにぎり作り全般について担当して下さっている。青少協の皆さんは、①参加の呼びかけ、②当日の受付、③子どもたちのグループ分け、おにぎり作りの手伝い等である。聖ヶ丘小学校の菜園活動をボランティアで指導している「畑のおじさん、相馬さん」は、毎回、お米や野菜に関してテーマを決めて話をして下さっている。話は、子どもたちには難しいが、参加する大人たちに大変好評である。本PJが子ども中心のイベントにならず、バランスが取れている要因のひとつであると考えられる。

前日は10時から必ず事前ミーティングを行い、PJ

終了後には反省会を開いて、振り返りと次回に向けての課題を話し合っている。

### 3. 今年度の活動成果報告

今年度は、第14～17回の4回の活動を実施した。今年度の開催日と参加人数は以下の通りである。

#### 【平成29(2017)年度の参加人数】

| 回    | 開催日       | こども | 大人 | 合計  |
|------|-----------|-----|----|-----|
| 第14回 | 2017年5月7日 | 13  | 23 | 36  |
| 第15回 | 7月9日      | 19  | 25 | 44  |
| 第16回 | 9月10日     | 7   | 17 | 24  |
| 第17回 | 11月12日    | 9   | 14 | 23  |
| 合計   |           | 48  | 79 | 127 |

※第17回までのべ参加者数は、640人。

第14回は5連休というゴールデンウィークの最終日だったため、こどもたちが参加してくれるか心配であったが、こども13名、ご家族も多数の参加があり安心した。第15回は、昨年度、夏休みに入ってから開催したため、参加者が少なかったことから開催日を7月初旬に設定した。改善が活かされ44名の参加となった。9月・11月は学校行事や地域行事と重なることが多く、日程調整が非常に難しいことがわかった。また、今年度は近隣小学校の学校長が変わり、学校長の方針によりこどもの参加が少なくなっている。第17回は例年同様に聖ヶ丘小学校の田んぼに集合し、相馬さんから田んぼ作りについてお話、昔の農機具を見ながら説明を伺い、その後、コミュニティセンターにて5年生による米作りの発表が行われた。今年は米の生育が遅れており、残念ながら聖ヶ丘小5年生が作った「こひじり米」を使ってのおにぎり作りはできなかった。

本PJは、参加者の顔ぶれが固定することもなく、新たな参加者とのバランスもよい。お父さんとこどもやおばあさんと孫の参加もある。今後は、近隣住民の方にもっと本PJ活動を知ってもらおう努力をして、お年寄りの方がもっと参加してくれるような工夫を検討したい。

### 4. 気づいたこと、次年度に向けての課題

近年、「こども食堂」が注目されるようになり、我々のPJが「こども食堂」の活動であると誤解されたことがあった。学生の活動ではそこまでできないし、本PJは単純に近隣のこどもたち、お年寄りの方々が集い、おにぎりを握って食べることで多世代と一緒に食事をし、話しをすることの楽しさを共有すること、多世代交流を目的としたいと考えている。

当初はこどもとお年寄りの交流を考えていたが、活動を続けていく中で、こどもたちの家族も参加し、我々学生も参加していることから多世代の交流になっていることに気づいた。こどもたちの親たちは、普段、コミュニティセンターに来ることがなかった方たちが多い。これをきっかけにコミュニティセンターを活用してもらえれば、そして活動してもらえればと思う。また、家でおにぎりを握らない、おにぎりはコンビニで買うものと思っている参加者（おとな、こどもに関係なく）の「今度は家でおにぎりを作りたい。」という言葉はこの活動の成果の一つだと思う。「自分のこどもがこんなに色々なことができると思っていなかった。」「こどもに家事を手伝ってもらおうと面倒と思っていたけれど、これからは一緒に手伝ってもらおう。」という言葉も親たちから頻繁に出る言葉である。

### 謝辞

今年度の本プロジェクトの活動を行うにあたってご協力いただきました、多摩市立聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会の皆様、多摩市青少年問題協議会連光寺・聖ヶ丘地区委員会の皆様、聖ヶ丘小学校・連光寺小学校の副校長先生、教職員、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

## 近隣交流七輪プロジェクト2017

多摩大学経営情報学部梅澤ホームゼミナール

佐々木真人(3年)

新井邦幸・栗野昌虎・酒井友梨佳・藤本響・宮麻里佳(2年)

## 1. 近隣交流七輪の目的・経緯

七輪は木炭や豆炭を利用する調理用の炉である。軽量コンパクトで持ち運びが容易あり、ガスや電気を使用する必要がない。そのため自然災害等でライフラインが使用不能となった際には、湯を沸かす・調理する・暖を取るなど活動範囲が広い。

近隣交流七輪の目的は七輪という小さな円形の炉を囲み、食材を焼きながら、近隣の世代間交流を行うことができる。

もう一つの目的は災害時に活動範囲が広い七輪をこのような特別な機会で使用することで火の扱いができるようになればよいと考えている。

## \*今年度の実績\*

\*子ども夏まつり 2017 では実行委員会から去年大人気だった迷路を今年も引き続き

お願いしますと要請を受けて今年度も子どもたちの為の迷路コーナー「ひじりダンジョン」の企画運営を行った。

\*11月の「ひじり館まつり」にて秋の食材として秋刀魚・焼きおにぎりを提供することで秋の味覚を堪能してもらうことができた。

\*食材に関しては夏も秋も季節に合わせた食材を用いることで季節を感じる事ができた。

\*継続することを目指しつつ、新しいことも取り入れることで毎年行っている。

\*子ども夏まつりの実行委員会にはプロジェクトメンバーが交代で全て出席した。実行委員会の会議から関わり学ぶことができた。

## 2. 今年度の活動

## (1) ひじり館子ども夏まつり 2017

2017年8月19日(土)、20日(日)

近隣交流七輪では夏ならではの食材であるトウモロ

コシを提供し、例年の焼き鳥ではなく季節を感じることでできる食材に変更した。

今年度のひじり館子ども夏まつりでは昨年の「GO GO! ひじりトンネル」という大人気だった迷路を継続し、「ひじりダンジョン」という名前の昨年とは別の迷路を行った。昨年に引き続きダンボールを使用した迷路は去年も来ていただいた方も多く、305名の子どもたちに参加していただくことができた。

## (2) ひじり館まつり 2017

2017年11月4日(土)、5日(日)

今年度のひじり館子どもまつりは晴れで両日とも予定通りに開催することができた。

今年も去年に引き続き、旬の食材である秋刀魚を焼き調味料としてもみじおろしなどを用意しおいしく食べてもらえるように工夫した。

## 3. 振り返り

夏まつりの会議には交代ですべて出席することができた。近隣交流七輪では旬の食材であるトウモロコシと取り入れ夏らしい食材を提供できた。去年から始まったダンボール迷路は距離を長くするなど前回の改善すべきところは改善しより良いモノとなって大成功であった。

ひじり館まつり 2017 では秋ならではの秋刀魚を提供することで楽しんでもらえるように工夫をした。

ひじり館まつりでは2年生が中心となって運営することで来年の夏まつりに向けての課題が見つかった。

## 4. 成果・課題

ひじり館子ども夏まつり 2017

## 〈成果〉

近隣交流七輪ではすべての食材を売り切ることはできなかったが受付と七輪のメンバーがコミュニケーションを取ることで受け渡しなどスムーズに行うこ

とができた。七輪の周りでも学生と近隣住民の方との会話をするのができ、盛り上がっていた。購入か持参してもらった食材をお客様自身で焼いてもらうことで周りのお客様同士の交流を図ることができた。また学生も積極的に関わることができた。

去年から始まったダンボール迷路「ひじりダンジョン」では2日間通して305人の来場者が利用した。さらにリピート率も高く何度も迷路で遊ぶ子を見ることができた。

#### 〈課題〉

ポスターなどで宣伝をすることができたが七輪を使うことで食材を持ち込むことができるというシステムを完全に分かってもらうことができなかつた。解決するためには宣伝の段階で持ち込みであることをもっと強調するべきであった。

ひじりダンジョンでは迷路として場所を提供して盛り上がっていたが、迷路の中にあつた風船を外に出して遊んでしまう子もいたため安全のためにもう少し注意すべきであった。

#### (2) ひじり館まつり 2017

##### 〈成果〉

持ち寄った食材はすべて売り切ることができた。初めて2年生だけの運営で戸惑うことなど自分たちが思っていたよりも上手くいかなかつたことなどの収穫を得ることができた。

##### 〈課題〉

七輪の準備など事前準備ができていなかった。七輪が始まった合図などがあると、もっと多くの方が七輪に足を運んでくれた。食材の秋刀魚が二日目は売り切れてしまい後からほしいという方がいたのでもっと多くし入れておくべきだった。食材を持ち込んでくれる方がいなかったのもっと七輪のシステムを理解してもらえようにするべきだった。

#### 5. 外部評価

##### (1) こども夏まつり総評

昨年度より随分長い迷路を作って頂き、2回目ともなると改善点の検討をされたのか工夫されている様子が見受けられました。子どもたちに大変喜ばれる

催し物なので、来年度もよろしくお願ひします。土曜日はお客様を七輪の周りに留めるのに苦勞されている様子が伺われましたが、日曜日は子供たちを結構呼び込んでおり、前日から即改善する発想の柔軟さに感心しました。毎年のことですが、好感の持てる接客態度で臨んでおられました。

##### (2) ひじり館秋まつり総評

近隣交流七輪には両まつりとも不向きな状況です。このため、ひじり館まつりは昨年度からサンマに切り替える等の工夫をされておりますが、当初の目的である近隣交流からは遠ざかり普通の模擬店化しているように思われます。

##### 謝辞

ご指導ご協力いただきお世話になりました  
ひじり館運営協議会の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 日の出町産業復興プロジェクト

丹下ゼミ

## 1. 日の出町について

市名は、「日の出山」があることに由来する。西多摩郡に属し、多摩地域に3つある町のひとつである。町内に中曽根康弘元総理の別荘である日の出山荘がある。あきる野市に隣接しており、同市への通勤率は14.6%となっている（平成22年国勢調査）。

近年、圏央道の日の出ICを中心とした道路交通網の整備やイオンモール日の出が開業したことにより、人口が減少傾向にある西多摩地区の町村の中でも増加傾向にある。2017年の人口は、17,429人である。人口は昨年とくらべ、若干多くなっているが、このままでは町の活力が失われてしまうのではないかと心配される。

「意外と近い東京の田舎」とあらわせられるように、都心からそう遠くはないものの、緑豊かであり、様々な自然に恵まれている。



## 2. これまでの取組

### (1) 観光マップの作製

丹下ゼミにて、2回にわたり、日の出町の視察を実施した。

そのなかで感じた日の出町の魅力をいかせる観光マップづくりを進めていく。

(2) フォトロゲイニングの運営、開催。

フォトロゲイニングとは、地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、得点を集めるスポーツである。チームごとに作戦を立て、チェックポイントでは見本と同じ写真を撮影し、チェックポイントに設定された数字がそのまま得点となり、より合計点の高いチームが上位となる。緑豊かな日の出町とよく合っている競技である。

(3) 日の出町振興プロジェクトの企画

一年を通して、日の出町を知り、日の出町がさらに活気的になるようなプロジェクトを考案する。

### 3. 今後のプロジェクトの予定

都心から 1 時間弱というアクセスのよさ、東京とはおもえない自然。これらをいかせば様々なビジネスチャンスがあるといえる。

フォトロゲイニングのような、町全体をめぐるものが適しているといえるが、サイクリングコースや、ツーリングコースといったものの開発も視野に入れて、活動を行っていく。具体的には、以下のとおりである。

(1) 日の出町観光マップ作成

来年 3 月までにゼミで観光マップ案を作成し、日の出町に提案

(2) 日の出町フォトロゲの企画運営

11/25 フォトロゲのプレ実施

3/25 フォトロゲ 2018 の実施

(3) 2019 年度日の出町振興プロジェクトの企画

来年 3 月までにゼミでプロジェクト案を作成

以 上

# 労働時間の法定規則

厚生労働省HPより

原則として…

**1日に8時間、1週間に40時間**を超えて労働させてはいけない

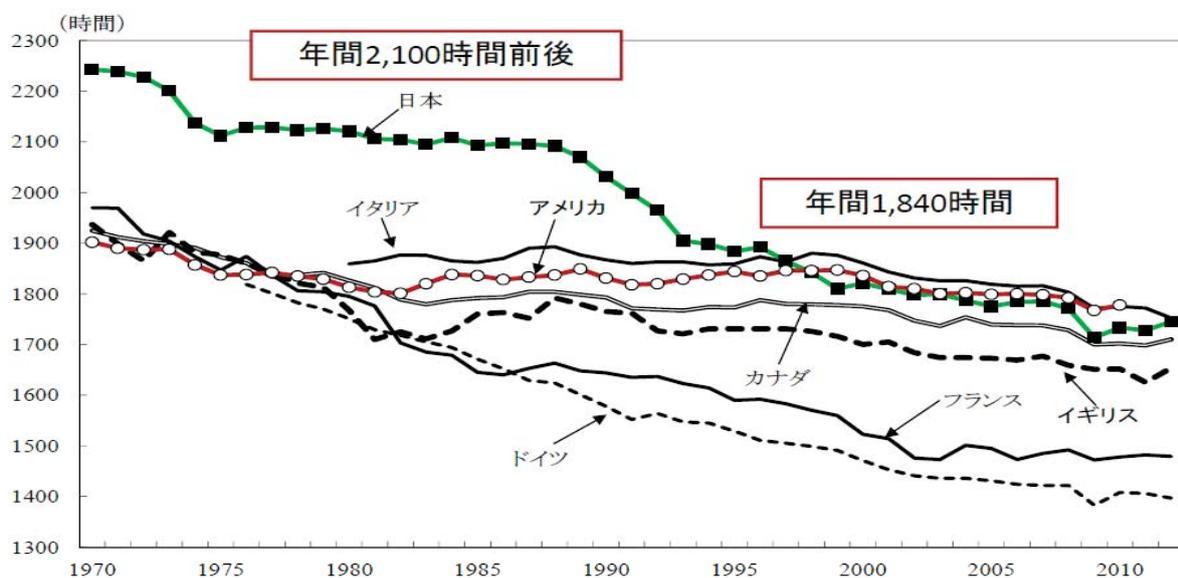
(6時間を超える場合は45分以上、8時間を超える場合は1時間以上の休憩が必要)

例外として…

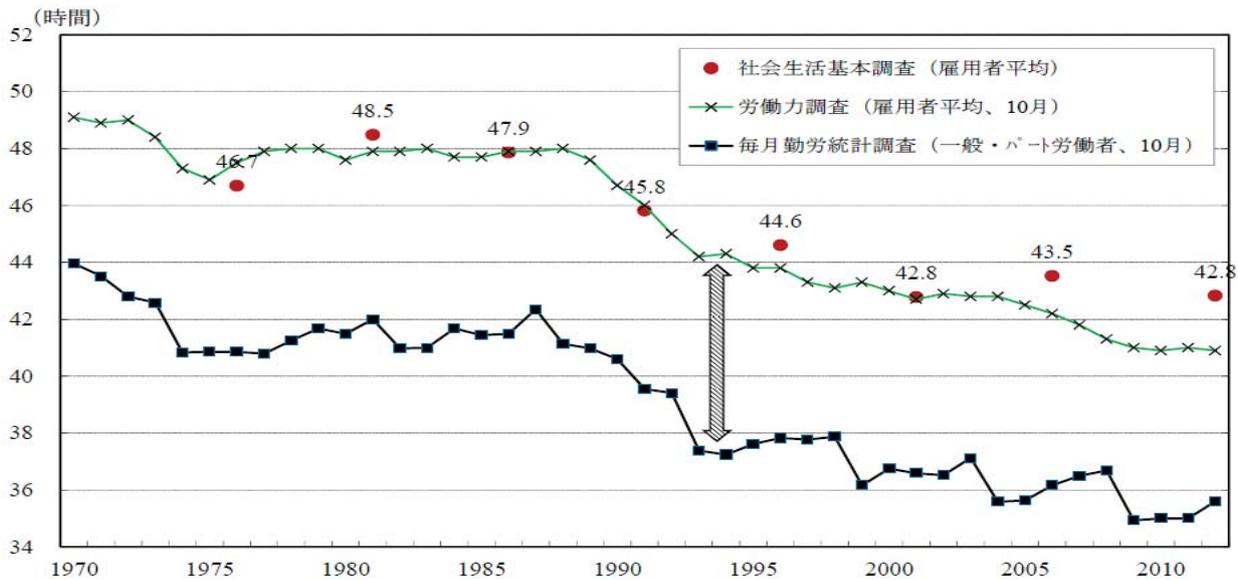
**時間外労働(36協定)**  
=**残業時間の上限**

| 期間  | 限度時間  |
|-----|-------|
| 1週間 | 15時間  |
| 1か月 | 45時間  |
| 1年間 | 360時間 |

## 1970年以降の労働時間の推移 (OECDより:雇用者一人当たり)



## 週当たり労働時間の推移(男女計、雇用者平均)



データ『毎月勤労統計調査』、『労働力調査』、『社会生活基本調査』  
出所) Kuroda(2010)をupdateしたもの。

5

## ～外国との比較～ “労働先進国”ドイツから学ぶ

| 項目                    | 日本                                    | ドイツ                                   |
|-----------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 平均労働時間<br>労働時間あたりのGDP | 1713時間<br>42.1ドル                      | 1366時間 (日本の20%短い)<br>65.5ドル (日本の1.5倍) |
| 法定労働時間                | 1日に8時間、1週間に40時間                       | 1日に8時間、1週間に40時間<br>小売業：平日～土 (6時～20時)  |
| 時間外労働時間               | 36協定 (年間450時間)<br>繁忙期 (年間720時間)       | 延長可能：1日10時間まで<br>※12か月平均48時間超えてはいけない  |
| 深夜労働規定                | 原則：22時～5時                             | 原則：22時～5時                             |
| 休息・休日                 | 少なくとも毎週1日<br>4週間を通じて4日以上              | 原則：日曜日・祭日は就労なし                        |
| 年次有給休暇                | 継続勤務6か月→10日<br>以降継続勤務数によって変動 (MAX20日) | 年間24日以上                               |



多摩未来奨学生プロジェクト

**産業・企業グループ**

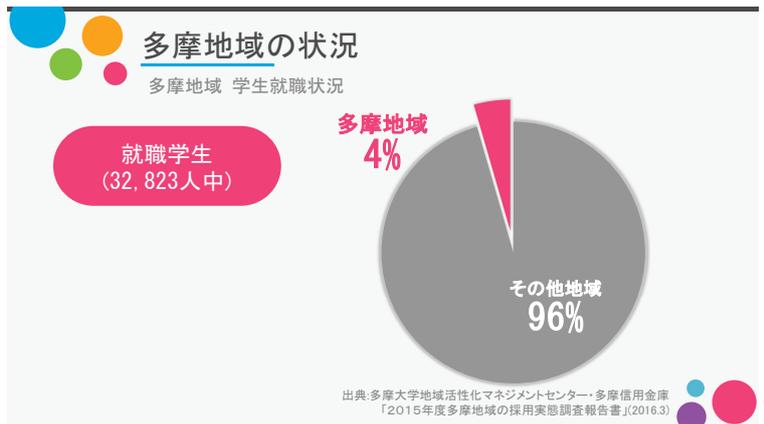
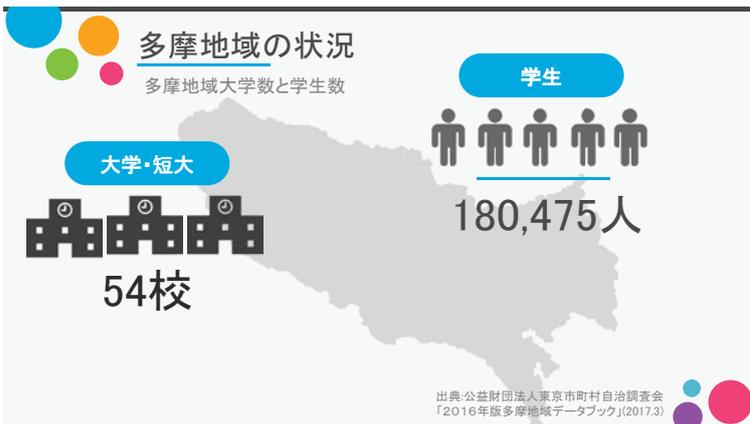
市川紗雪 大橋奈紗 木下萌 熊谷健太郎  
富永茉衣 長島美月 中村光弘 八村美璃



**課題認識**

多摩地域が抱える問題

...



多摩地域で学ぶことと働くことが  
つながっていない



2017.3.30  
サイバーシルクロード八王子  
八王子市産業政策課  
三吉氏、川村氏

# ヒアリング

## 八王子市の 主な産業政策

- 販路開拓支援**  
国内外の展示会への出展費用の一部を補助
- 産学連携による研究・開発費等補助金**  
八王子市内で操業する中小企業や大学の費用を一部負担
- 若者奨励金**  
市内で就職し、在住する若者に奨励金を交付する
- MICE**  
東京都の国際的MICE誘致、国際交流を行う

企業に就職した若者に奨励金!

**若者奨励金**など  
様々な政策で地元企業と  
学生をつなごうとしている  
「行政も活動の柱の1つとして位置付けてい  
る」

HACHIOJI WAKAMONO SUBSIDY  
はちおうじ若者奨励金

## アンケート調査

学生と企業に対してアンケート調査を行った。

### 学生アンケート

亜細亜大学、拓殖大学、多摩大学、帝京大学、中央大学、法政大学で686人に実施

住む場所から近いところで働きたい      自然豊かなところで働きたい

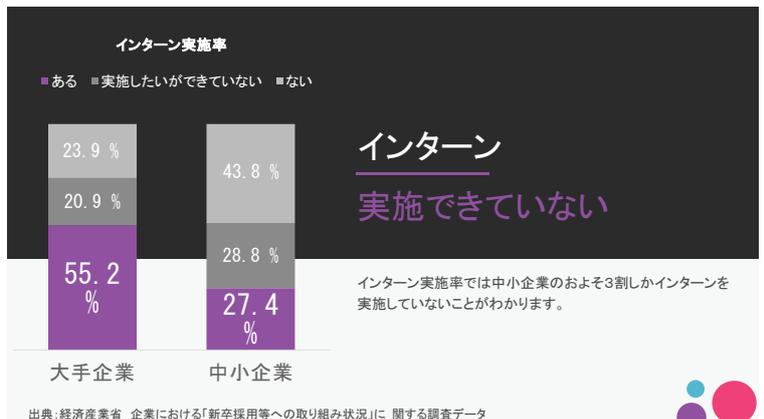
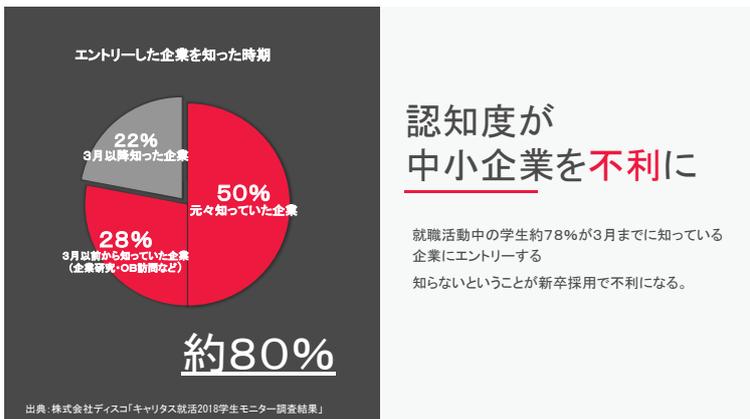
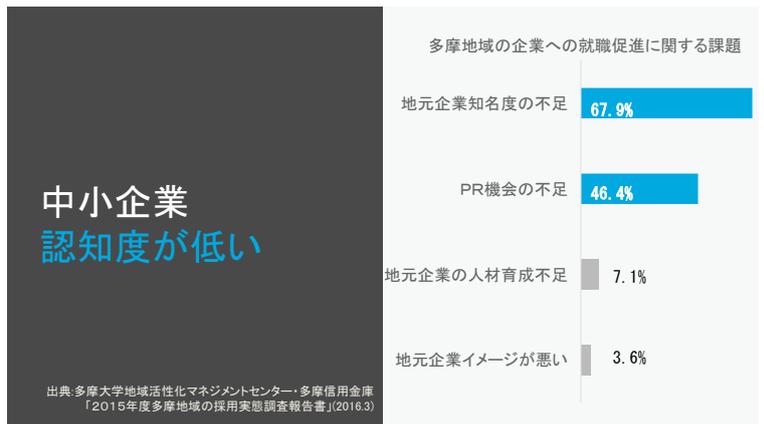
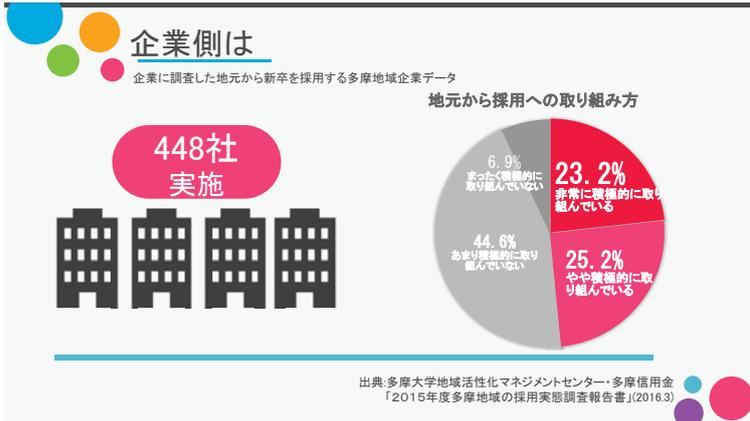
686人実施

アンケート実施期間: 2017. 11. 6 ~ 2017. 12. 1  
アンケート実施方法: 授業内プリントおよびアンケートソフトによる実施

### 学生アンケート

アンケートからわかったこと

多摩地域で暮らしながら働くことに  
潜在的な需要はある



## 多摩の中小企業も インターン 実施できていない

インターン実施率では中小企業のおよそ3割しかインターンを実施していないことがわかります。

出典: 経済産業省 企業における「新卒採用等への取り組み状況」に関する調査データ

## 新卒採用 インターン効果

出典: 多摩大学地域活性化マネジメントセンター・多摩信用金庫  
「2015年度多摩地域の採用実態調査報告書」(2016.3)

新卒採用時インターンを実施

増額なし  
34%

増額あり  
54%

インターン実施企業は新卒の充足率が

**20%UP**

大手

中小

## 選ばれない中小

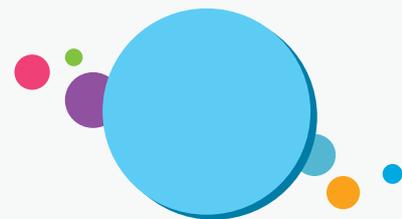
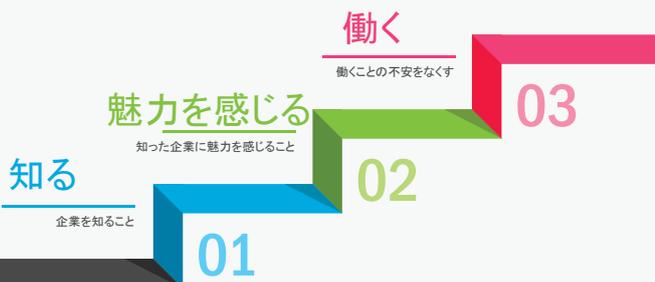
学生と企業双方が満足するまでに必要なのか

## ニーズをつなげる

企業と学生を結ぶために

...

## 就職プロセスモデル



このプロセスを満たすためには

多摩地域で働く魅力、企業の魅力をつたえる

## イベント開催

### プロセスの有効性

”知る”から”魅力を感じる”というプロセスを満たし  
なおかつ就職の足掛かりをつくる



# 生業

## なりわい【生業】

①生計を立てていくための仕事。すざわい。  
②農耕に従事すること。  
出典：三省堂 大辞林



### 新しい働き方の提案

地を耕して日々の糧を生み出し、  
それが生活と一体化している伝統的な農業。  
その農業のように地域に根ざして働き、  
そこで働くことと生きることの醍醐味が交差するような働き方。

## 生業マルシェ 私の働き方、検索

### 概要

2017年11月25(日)13:00-16:00

日野市多摩平の森産業連携センター(PlanT)

#### 参加企業

多摩ブルー・グリーン賞受賞企業を中心とする地域に根ざしたビジネスモデルを展開している多摩地域の中小企業6社

株式会社エマリコにたち 株式会社キャリア・マム 京西テクノス株式会社 株式会社グリーンフイズ 株式会社 TRUST 株式会社メルヘン

参加学生数 計22名(1,2年生が7割)

法政 拓殖 亜細亜 中央 帝京科学 帝京 東京医療保険 多摩 東京国際 その他



### 社長講演

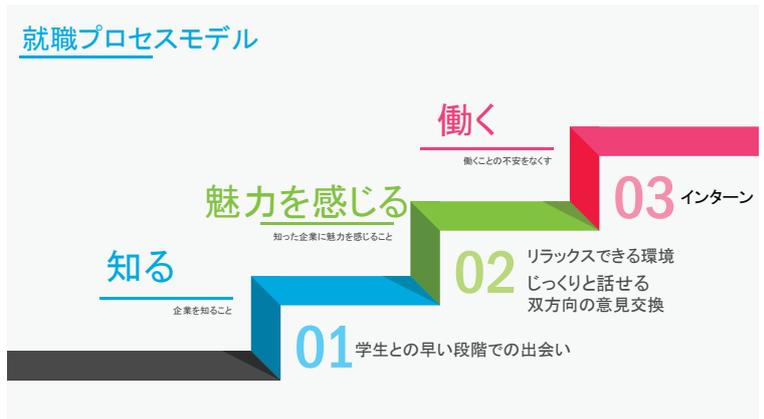
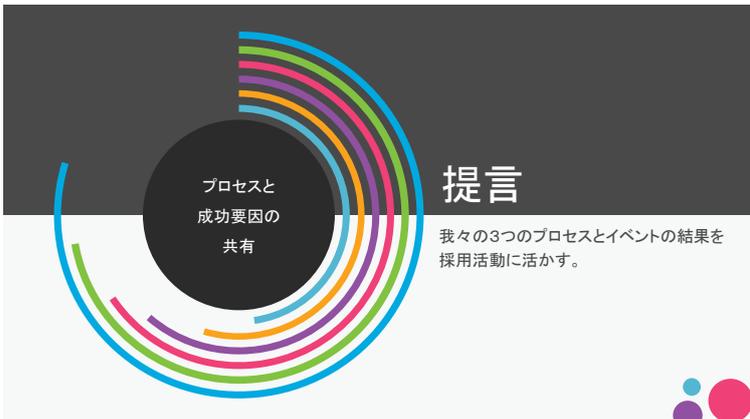
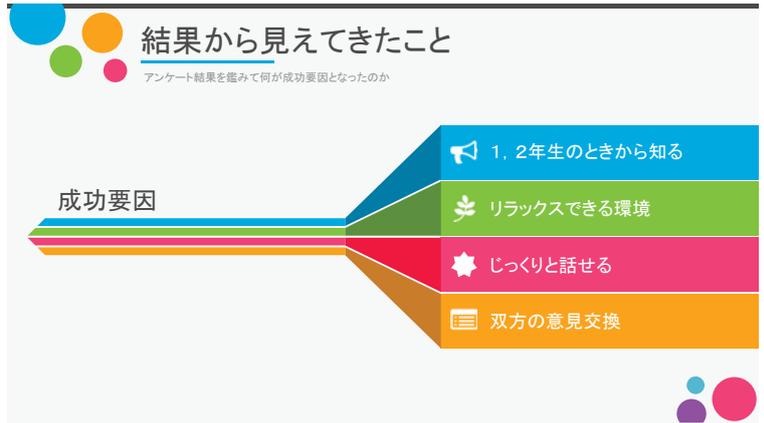
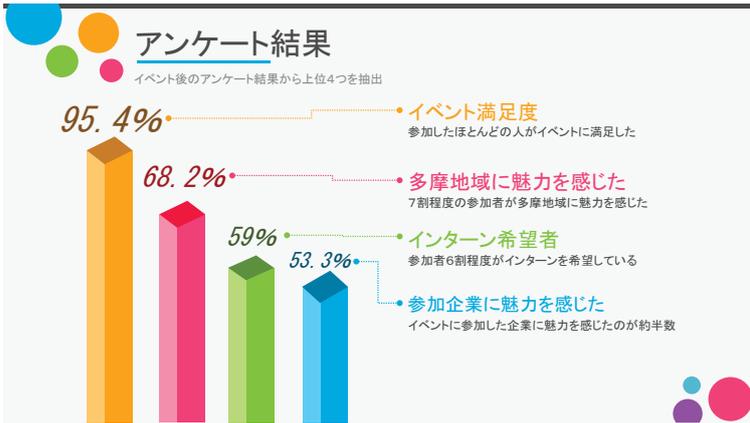


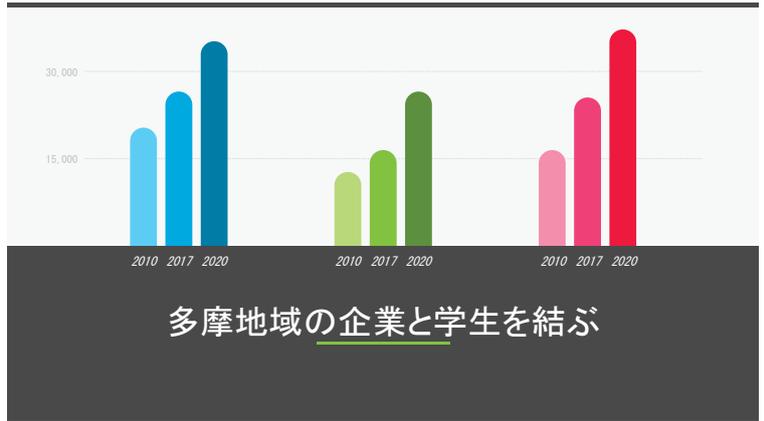
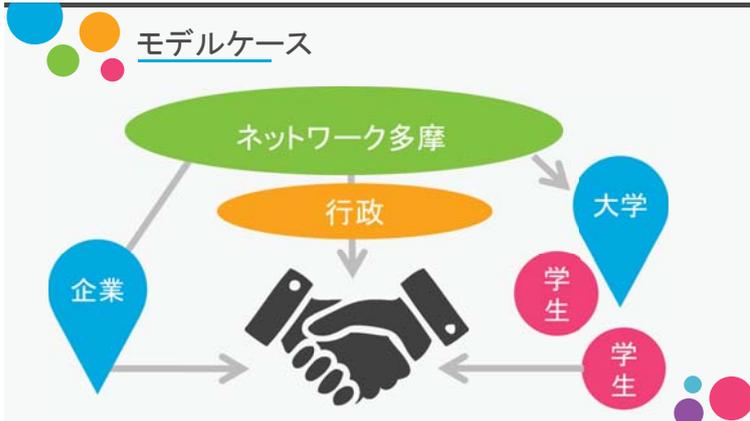


ワールドカフェ



ブース展示





## 謝辞

株式会社エマロクにたち 株式会社キャリア・ママ 京西テクノス株式会社  
株式会社グリーンワイズ 株式会社TRUST 株式会社メルヘン  
アンケートにご協力くださった多摩ブルー・グリーン賞受賞企業および各大学の学生の皆様  
活動でお世話になった出資者の皆様、ネットワーク多摩のコーディネーターお二方

そのほか、活動を支援してくださった方々  
本当にありがとうございました

...

多摩未来奨学生プロジェクト 産業・企業グループ

# 税金と幸福度～日本とデンマークの違い～

21511098 川田 浩大

税金と聞くとどんなことを思い浮かべるだろうか。学生だと一番身近な税金の消費税を思い浮かべるのではないだろうか。社会に出ると、場合によるが所得税や固定資産税、法人税、住民税など色々な税金を納めることになる。では、この税金の意義はなんだろうか。国税庁のホームページでは、「健康で豊かな生活」を実現するためと書いてある。「健康で豊かな生活」ができていれば、幸福度も高いことでしょう。しかし、現実はどうでしょうか。

今の日本は幸福だが高いとは思わない方が多いでしょう。事実、世界国別幸福度ランキングでは50位前後と先進国の中でも低い順位となっている。この原因を探ろうと思う。

そのためには、まず、幸福度の高い国を見て見なくてはならない。そこで今回、選んだのはデンマークだ。デンマークは毎年上位にランクインしており、1位になったことも複数回ある。なぜデンマークがこんなにも幸福度が高いのかを、日本と比較して検証してみたいと思う。比較項目は、「国民負担率と潜在的国民負担率」「税金負担感」「社会保障」「社会保障制度」の4つだ。まず1つ目は「国民負担率と潜在的国民負担率」だ。日本の国民負担率は44%で潜在的国民負担率は50%である。対してデンマークの国民負担率は68%で潜在的国民負担率は70%である。日本が中負担でデンマークが高負担とわかる。税金の機能から考えるとデンマークは高負担であるため幸福度が高いのは当たり前だ。しかし、2つ目の「税金負担感」を見ると大きな違いがある。日本は「税金が高い」や「無駄遣いが多いから払う意味がない」などとても負担感が高い。対してデンマークは「妥当な徴収」や「高いとは思わない」、「社会保障がしっかりしているから仕方がない」など負担感は低い。デンマークは高い負担率だが負担感が低い。しかし、日本は低い負担率だが負担感が高い。なぜこのような結果になったのか。これが3つ目の比較項目である「社会保障」の差である。住宅介護サービス・出産費・教育費・医療費を比べてみると、デンマークは全て無料（歯科医療）である。対して日本は無料になることはない。教育費（保育園など～大学まで）だけ見ても約912万円かかる。しかも、これは公立～国立と一番費用がかからない値段である。教育費だけでもここまでの差がある。その結果、4つ目の社会保障制度の差につながる。デンマークは高福祉・高負担。日本は低福祉・中負担になってしまっている。ここで疑問が出てくる。なぜ中負担なのに、低福祉になっているのか。これは税金の使い方に問題があり、社会保障まで行き届いていないからではないからだ。まず、問題点として使い方だ。この問題は3つある。1つ目は税金の「使い切る」体質だ。公的機関の予算は年度末締めでこの時に予算が余っていた場合、翌年の予算は削減されてしまう。そのため、年度末になるととりあえず使い切ってしまう傾向がある。例をあげるなら市役所が無駄なモノや資料を作ったり、水の溜まらないダムを作ってしまったりする。2つ目は国会議員、区市町村議会議員の総人件費だ。大勢いても大して仕事をしていない挙句給料も高い。これでは人件費が増えるかさむ一方

である。3つ目は政治家の私的利用である。これは説明するまでもないだろう。1年位前に舛添知事が起こした事だ。余談だがこれらの問題点などを含めて平成26年の税金無駄遣い額は1658億円にもなるそうだ。早急に対策が必要だろう。最後に、改善策と意見だ。

まず、税金に関する改善策は3つある。1つ目は税金の無駄遣いした場合への罰則強化だ。私的利用などの不祥事を起こした場合は、「私的利用した額を全額返金と退職金はなし」くらいの厳しい罰則にした方が良いだろう。2つ目は税金が何に使われているかしっかり表に出すことだ。データは出しているも隠し事をしていたりすることが多い。政治家と国民が信頼し合えるように税金の内訳を公表した方が良いだろう。3つ目は余った予算を繰り越してできるようにするだけで無駄遣いがかなり削減できるだろう。もしくは、必要な時に予算を出すなど無闇に使えないようにすることによって使い切る体質は防げるだろう。

社会保障に対する意見は2つある。1つ目は税金の負担と社会福祉のランクを一致させることだ。現在の日本なら中負担なので中福祉にするなど国民が納得するようにしてほしい。2つ目はデンマークから社会保障を学び、日本に合った社会保障制度を作ることが必要だと私は思う。

## 「若者のバイク離れについて」

報告者：21611073 笈田 海

所属ゼミ： パートルゼミ

## 1. 目的

私自身がバイク乗りなので、同世代の人がバイクに乗らない理由と現在のバイク業界が抱える課題を分析したうえで自分なりの改善策を提示したいです。

具体的には、バイクにはバイクだけの魅力があり、バイク業界の現在の課題と改善策を提示することによって「そうなれば乗りたい」と思ってくれる人が少し増えること、或いはこれをきっかけに少しでもバイクについて興味を持ってもらえればと考え、若者のバイク離れについて研究しました。

## 2. 内容

- ・バイクはどういうものなのか？
- ・若者のバイク離れが起きているというのは本当なのか？
- ・本当ならその原因は何なのか？
- ・バイク業界はどのような対策をしているのか？
- ・他に改善策はないのか？
- ・これらの疑問をネットや自分の考え、周りの声を聞き調べました。

## 3. 結論

バイクブーム全盛期だった世代が今の若者の親であり、バイクの怖さを知っているため子供に勧められないでいます。そのため若者もバイク乗りには消極的になっています。

昔のバイクの印象をそのまま今の世代に伝わってきているので、まずはバイクに対するイメージを変えることが必要不可欠であります。そのほかにも若者が利用しているものに組み込み印象を変えていくことが大切であります。周りの声を聞くとバイクにあこがれを持った人やアニメなどで興味を持った人がいるので少しずつではあるが回復に向かうものと考えられる。



# テーマ

## 日本一人口の少ない島の観光開発とその可能性

### 目的

「魅力度が低い島を魅力度のある島へ」



- 魅力的な観光資源があるのにも関わらず、有効活用できていない
- 日本一人口が少ないと言われている青ヶ島 (2017年現在)
- 島の魅力を島以外の人に伝えるため、様々な観点からアプローチ方法を見つける

### 青ヶ島

- 八丈島から68km離れた、面積5.98km<sup>2</sup>の小さな島で、伊豆諸島最南端に位置する
- 東京から358kmほど離れているが、直行便がない
- アクセス方法は連絡船、ヘリコプターの2つのみ
- 人口(2017年11月時点)166人、109世帯  
男:89 女:77
- 女人禁制の時代を持つ
- 1785年～1824年までの40年間、無人島化

### アクセス

島への直行便はない

#### 八丈島まで

- 羽田空港→八丈島 (飛行機:約50分)
- 竹芝浅橋→八丈島 (船:約11時間)

#### 青ヶ島まで

- 八丈島→青ヶ島 (ヘリ:約20分)
- 八丈島→青ヶ島 (船:約2時間30分)



### 2017年 アクセス利用者内訳

|     | 日本人 |     | 外国人 |    |
|-----|-----|-----|-----|----|
|     | 船   | ヘリ  | 船   | ヘリ |
| 1月  | 41  | 232 | 4   | 5  |
| 2月  | 17  | 208 | 0   | 2  |
| 3月  | 74  | 239 | 5   | 6  |
| 4月  | 104 | 247 | 4   | 4  |
| 5月  | 302 | 225 | 7   | 5  |
| 6月  | 85  | 175 | 4   | 5  |
| 7月  | 145 | 220 | 9   | 5  |
| 8月  | 133 | 306 | 4   | 3  |
| 9月  | 116 | 230 | 2   | 8  |
| 10月 | 57  | 211 | 0   | 6  |

## SWOT

|      | プラス要因                                                                                                                                                                                                     | マイナス要因                                                                                                                                                                                                                         |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内部環境 | <p><b>強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非日常、星の綺麗さ、景観</li> <li>・アクセスの悪さゆえの到達した時の喜び</li> <li>・冒険心をくすぐる地形、カルデラ</li> <li>・新鮮なお魚、青耐</li> <li>・火山があるため温泉がある。ひんぎやを利用したサウナも。キャンプができる。</li> </ul> | <p><b>弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圧倒的なアクセスの悪さ</li> <li>・海が荒れることが多く船の就航率が悪い(運航率50%)</li> <li>・取り扱う旅行会社が少ない(1会社)</li> <li>・全て自分で旅のプランを考える必要がある</li> <li>・島の情報の少ない</li> <li>・役場職員のやる気がない、知名度の低さ</li> </ul> |
| 外部環境 | <p><b>機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者、天体マニア、冒険家の旅行会社の注目</li> <li>・メディアへの露出</li> <li>・有名ブロガーの誘致</li> <li>・出張物産展などの開催</li> </ul>                                                     | <p><b>脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少(後継者不足)</li> <li>・価格競争には勝てない</li> <li>・青ヶ島のその先の小笠原諸島の人気</li> <li>・島へのUターンが無い</li> </ul>                                                                           |

## 観光資源① 星空



<http://www.vill.aogashima.tokyo.jp/star/colliseum/winter.html>  
【夏の船舟・青ヶ島】

- ・島の最北端は、数頭の牛が飼われた牧場があるだけで、周囲には民家もなければ電灯もない道が続いている。このエリアは街明かりがないために、星空がひととき美しく見える。その様子は「星空のコロシアム」と呼ばれるほど。
- ・周りは、物音一つしない静かな闇。風が草を撫でる音のみが聞こえ、頭上に降り注ぐ星は、まさに天然のプラネタリウム。天候のいい日であれば写真のような天の川を見ることができるともいえない。人工的な明かりのない島のなかでみる星は、ひととき明るく、日常を忘れさせるほどのもの。
- ・青ヶ島の星空は日本最高級とも言われるぐらい綺麗で、空から降ってくるような絶景が見られるため、ここが一番の売りともいえる。

## 観光資源② カルデラ



<http://www.hazardlab.jp/known/topics/detail/1/2/15655.html>  
【ハイゼーラボ】

- ・青ヶ島は世界でも珍しい二重のカルデラ火山の島。
- ・島の周囲を岩のように取り囲む外輪山のカルデラの中央には、小高い丘のような内輪山の丸山があり、その山肌は30年前に植林した樺の木が縦縞状に生えていて、不思議な風景を作り出している。
- ・中央の小さい山は、青ヶ島民たちが愛する「丸山」だ。縞模様に見える背の低いところは、植林された樺の木がある。

## 観光資源③ 宙づり船



- ・三宝港は、島唯一の港であり、島の生命線である。
- ・港は棧橋が短いため、船を係留させておくことができない。そのため、巨大なクレーンで船を釣り上げて陸の船置き場へ。
- ・船の上下が激しくて乗船が危険な時や着岸ができない場合などの緊急避難的な使い方としても使用されている。
- ・船が空に浮かぶ姿は圧巻。

## 観光資源④ 東台所神社



[http://www.jaliam.net/kankou/spt\\_13402ag2132051220/](http://www.jaliam.net/kankou/spt_13402ag2132051220/)  
【じゃらん・東台所神社】

- ・失恋の腹いせに島民7人を殺傷し、入水自殺をした朝の助の霊を鎮めるために建立された、いわば祟り神を祀る神社。
- ・今では縁結びの神様として島民の信仰を集めている。
- ・道中が整備されていないため、辿り着くのが非常に困難である。
- ・青ヶ島のミステリーの1つ。

## 青ヶ島 アプローチ

- ・来年からアクセス方法が増える(居酒屋 青ヶ島屋のスタッフで村長の娘である菊池氏)という情報が事実であれば、来年が転機年になるのではないだろうか。
- ・アクセス方法増加によって、懸念されていたアクセスの悪さが緩和されるので、青ヶ島に行くハードルが下がるため、観光客数の増加が見込めるのではないだろうか。現在、青ヶ島の旅行ツアーを取り扱っているのは1社のみ(近畿日本ツーリスト)。
- ・旅行者が増えることで心配になるのは、宿泊施設のキャパシティだが、島には営業している宿が5つあり、すべての宿を足し合わせた収容人数は104人と十分補うことができる。
- ・島民・役場職員は口を揃えて「タイミングがなかった」と言っていたが、来年のアクセス方法の増加こそがそのタイミングなのではないかと私たちは考える。

虫よけ薬の開発コンサルタント

発表者

多摩大学目黒高等学校

大木 麻綾

**【テーマ選定の背景】**

女子高生は蚊にとって格好のターゲット

蚊に刺されたくないが、刺された後のケアが非常に重要である。

**【現状把握】**

虫よけ薬の問題点を確認する。

- ①香りがいまいちである
- ②携帯性の乏しい
- ③後に残りやすい
- ④肌への影響
- ⑤塗布方法
- ⑥パッケージデザインがかわいくない

**【新商品のアイデア】**

- ①ターゲットは女子高生にする
- ②デザインはかわいく、香りはフローラルや柑橘系に
- ③肌への影響を抑えた薬であること④できれば安く

**【競合他社製品、類似品との違いと総合評価】**

デコテープ、イラスト絆創膏、ハンドクリーム、リップスティックそれぞれの評価を出すことで違いを名確認する

**【課題・開発・プロセス】**

金額面も重要だが、直接人体に触れる「薬」という側面を大切に企画する

SNSやメディアへの露出を増やして商品への認知度と購入意欲の向上を図る

**【必要コストと見込まれる収益】**

ヒト・モノ・技術・ノウハウのコストを計算し、ターゲット層の収益を明確する

**【まとめ】**

女子高生向けには宣伝が最も重要であり、商品展開を上手く行うことが収益につながると考えられる

## パワースポットの魅力を脳波計測による生理学的指標の観点から 分析する試み

市瀬大地・北川裕貴・濱田拓海・宮澤隆夫・森田豊繁・山本訓大・吉浜秀・渡部稜・  
田中亜美花（良峯ゼミ2年）

### 1. 研究活動の目的

良峯ホームゼミナール（2年生グループ）では、昨年度に引き続き、『パワースポットの魅力を脳波計測による生理学的指標の観点から分析する試み』というテーマで調査研究を行った。パワースポットにおける心の状態を脳波測定器で計測し、「集中度」「リラックス度」という2つの指標からデータ分析を行うことで、パワースポットが心に与える何がしかの作用を科学的に検証することがこの調査研究の目的である。もしパワースポットの魅力を脳波に対するそうした影響として実証的に提示することができれば、それを新たなPR材料として、多摩地域内外に点在するパワースポットの魅力と価値を世の中に広めて、地域貢献につなげることができるのではないかと考える。

今回の発表では、多摩地域内外の数か所のパワースポットに赴き、現地で行った脳波測定とパワースポット以外の場所（大学研究室内）で行った脳波測定の概要を述べるとともに、それらの脳波計測データをどのように分析したか、そして結果としてパワースポットとそれ以外の場所で測定した脳波計測結果にどのような違いが見られたかを報告、考察する。



### 2. 計測地として選んだパワースポットについて

#### (1) 払沢の滝（西多摩郡檜原村）

檜原村の払沢の滝は、東京都で唯一「日本の滝百選」に選ばれている落差62メートル、全4段からなる滝。美しい緑に囲まれ、良質な水しぶきとともにマイナスイオンが大量に空気中に放出されている。滝壺には大蛇が棲んでいるという言い伝えもあり、大自然のパワーを身近に感じられる場所である。

#### (2) 日原鍾乳洞（西多摩郡奥多摩町）

関東随一の規模をもつ鍾乳洞で、足を踏み入ると、荘厳な雰囲気のある白衣観音をはじめとする石筍、石柱が乱立し、果ての見えない「天井知らず」があったりと、幻想的な景観が繰り広げられている。かつて山岳信仰の中心地のひとつだったこともあり、現世から隔絶されたこの場所で大自然の偉大さ、不思議さを感じ取れた。



#### (3) 小河内神社（西多摩郡奥多摩町）

小河内神社は奥多摩ダムの水源として小河内貯水池が作られたときに水没した9社1祭神を勧請して創建された鎮守神であり、首都用水の守り神となっている。この神社には蔵王権現像をはじめ平安時代から鎌倉期にかけての作とみられる多くの神像が祭られており、この地域きってのパワースポットとして知られている。

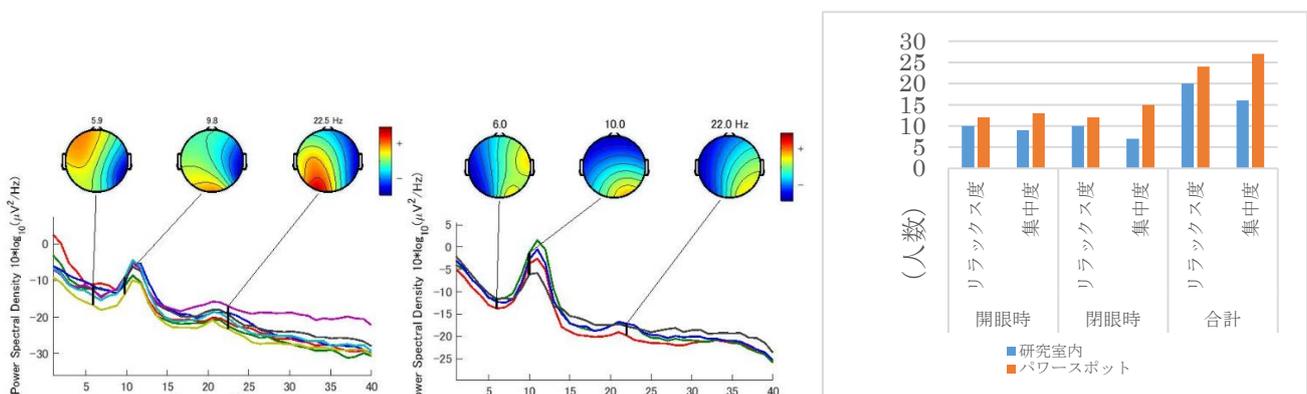


#### (4) 伊勢神宮（三重県伊勢市）

伊勢神宮は夏季合宿の際に訪れた。いうまでもなく千三百年にわたって日本古来の伝統文化、精神を継承する日本最大のパワースポットである。敷地内での脳波測定は許可されなかったため、すぐ脇に流れる五十鈴川の河原で脳波測定を試みた。しかしゼミ室に戻って、脳波データを分析しようとしたところ、ほとんどのデータがうまくとれておらず分析できない状態だった。はるばるの遠征で機器の調子が狂ったせいなのか、お伊勢様の許しが出なかったせいなのかはわからない。

### 3. 脳波の計測実験方法について

今回の計測実験では、脳波測定器として OPENBCI 社の 8 チャンネル、サンプリングレート 250Hz の脳波計および EMOTIV 社の 14 チャンネル、128Hz の EPOC+などを使用し、得られた計測データに対して「集中度」「リラックス度」の2つの観点から分析を行った。脳波は表情や体の動きなどに敏感に影響を受け、ノイズ（アーティファクト）が混入しやすい。そのため被験者に静かにリラックスした状態で座ってもらい、閉眼・開眼それぞれ3分間の計6分間で脳波計測を行った。これによって得られた脳波データに対し、MATLAB という信号処理用システムと EEGLAB という脳波分析用プログラムを使用して、フィルタリングによるノイズの除去や周波数解析などを行った。



※左図が研究室内での脳波周波数分析例、中図がパワースポットでの脳波周波数分析例、右図は両者の比較である。

昨年度の実験結果では、統計的に有意とはいえなかったが、開眼時、閉眼時ともに、若干、パワースポットの方が集中力を高める効果があることが示唆された。なんと今年度のデータ分析でも、パワースポットでは「リラックス度」「集中度」の指数が研究室内より高いという結果が出ている。最終的な結論は、T検定による統計処理を行ったのち、発表する予定である。

### 4. 今後の取り組み

昨年に比べ、パワースポットでの計測件数は増えたが、脳波計測に不慣れだったためか、いざデータを分析する段になって、きちんとした脳波データが記録されていなかったり、ノイズが過剰に混ざっていたなど、あらためて脳波の測定には入念な準備と慣れが必要であることを痛感した。今後、この研究テーマを継続して行っていくにあたって、安定した実験環境の確保とより精密な脳波データの測定・分析方法の開発が重要になってくると思われる。

「パワースポット」には、たんに「自然に恵まれ心地よい場所」というだけでなく、「文化的、精神的な伝統が引き継がれた特別な場所」という意味合いもあるように思える。今後の実験を通じて、パワースポットの性格の違いを含め、脳波測定によって検証できれば興味深いと思う。

## リップクリームの開発

### 発表者

多摩大学目黒高等学校

柳澤優羽 長谷川香乃 鳥畑さくら

今欲しいコスメは何かを女子高生にアンケート

→リップクリームが最も多い→成分は何かが良いかを考える

→バージンココナッツオイルがとても良いとの結論

生産拠点はフィリピンを意識

→フィリピンのGDPは日本の約6%であり、国民の約40%以上が貧困層

→チャリティーの側面も必要と感がる

★CHARITYとLIPを合わせたCHALIPを開発する。

- ・CHALIPは売り上げの10%をユニセフを通じて募金ができるようにする
- ・販売方法はインターネット販売をメインに一部店舗販売やイベント販売を意識
- ・ホームページや広告も工夫しようと考えている

コスメを買うときに重要なこと

★パッケージと価格が重要

→コスメ開発を行う企業へ訪問し、相談してきました

- ・価格は買いやすく500円～1000円までを
- ・収支計画は余裕を持って行うこと

詳細は発表にてご確認ください。

八王子市の食観光発掘プロジェクト  
地産発掘・八王子産パッションフルーツ

中庭ゼミ八王子B班  
天羽、大水、梶井、草野、多々良、山梨

一般的に八王子と言えば高尾山や滝山城跡、八王子ラーメン……  
しかし、**その他のものがこれとってないのが現状。**

⇒「八王子を象徴するお土産がない。」

特産品になるものとは何かと色々考えていく……

⇒JA八王子さんが**パッションフルーツ**を推していることを知る。

パッションフルーツとは、  
アメリカの亜熱帯地域原産の果物で、大きさは成人男性の拳ほどの大きさ。  
**大量の種と程よい甘酸っぱさ**が特徴、スプーンで中身を掻き出して食べるのが  
一般的な食べ方。

その後、調べていった結果、浜中農園さんに行き当たる。

浜中農園とは、  
現代表、浜中俊夫さんが実家の農業を継いだ八王子に位置する農園で、  
**今まで栽培したことのない自分に合った新たな作物を模索**していたことから  
パッションフルーツの栽培を開始。  
初めて食べた果実の印象は、独特の甘みと酸味、  
南国らしいフルーティーさも 相まってとても感動。  
その後、本格的に栽培を始め、すでに有志で集まっていた農業後継者の  
メンバーで発足したパッションフルーツ協会へ仲間入り。  
その後、クラウドファンディングを実施して見事成功  
⇒世間からの注目度の高さが窺える

ちなみに、現在はジュースやジャムを商品展開している。

そんな浜中さんから「ゼリーなんてどう？」とアドバイスを頂く。

## ⇒パッションフルーツゼリーのレシピを考案する！

そこでアンケートを取ってみると…

- 触感が緩い
- 酸っぱすぎる
- ターゲットを外国人や若者、高齢層など幅を広げるのであればもっと甘みを含めるべき
- 特徴が薄い
- とにかく普通

などの結果に…それらの意見を踏まえて改善点を制作。

- ①素材の味を生かす
- ②低コスト、高付加価値
- ③見た目（インスタ映え）
- ④味
- ⑤商品化を目指す
- ⑥さまざまな世代の方にも受け入れられるもの  
⇒PR動画をご覧ください。

そんな浜中さんの感想は…

- 「香りがいい、美味しい」「ゼリーとチーズの相性がいい」
- 「少し甘めかも・・・？」
- 「冷凍保存しているパッションフルーツを使えば年中販売できるのではないか？」

### 【改善点】

形を作る（季節に合った型取り等）  
それが売るときに付加価値に繋がってくる

# 中庭ゼミ 八王子 A 班発表資料

## 「八王子観光人資源発掘プロジェクト」

渡邊健史 早川大我  
相田雅貴 押見龍哉  
今井達也 中村祐太  
張聯閣

私たち八王子 A 班は八王子を盛り上げるため地域の「おもしろい事業者」のもとをたずねてインタビューをし、共通点を見つけ情報発信することが目的です。

## プレゼンの目次

1. 八王子市の問題 課題
2. 私たちの活動 目的
3. インタビュー アーバンファーム
4. インタビュー 高尾599ミュージアム
5. インタビュー ボードゲームカフェ
6. インタビュー となりわ
7. 比較
8. 結論

# インタビュー資料

## インタビュー アーバンファーム



Q. 毎日どのような仕事をしているのか  
 A. 朝6時から12時くらいまで収穫出荷調整、この時期はナス、オクラ、小松菜などを栽培しています。  
 Q. 販売先を教えてください  
 A. 野菜を扱う会社やスーパー、レストラン、給食専門の会社も、多い時には同時に6~7社と取引しています。  
 Q. 八王子産という野菜は需要がありますか  
 A. 八王子産という野菜をつくっているわけではないのでなんとも言えない。しかし地元の野菜だから買ってくれる方々もいる。  
 Q. 新しく雇ってほしいという方はいいますか  
 A. それっぽい人は2~3人いたけどきっぱりと断った。社員を雇うつもりはない。  
 Q. 今後の事業展開、拡大は考えていらっしゃいますか？  
 A. 農地は倍くらいに増やしたい。が遠くなると目が届かなくなるので考え途中。あと農地+αで何かしたいと思っている。福祉系を考えている。



## インタビュー 高尾599ミュージアム



Q. どこが運営しているのですか？  
 A. 八王子市です。10年前は東京の博物館でした。  
 Q. 客層はどんな人ですか  
 A. 新規客、リピーター半々くらいです。うちに来て高尾山のことを知ってもらいたい山に、この施設を訪れてもらうこともねらいです。  
 Q. リピーターを増やす工夫はしていますか。  
 A. 定期的に展示物を入れ替えています。スペースは限られていますし展示物に専門性は持たせていないので広い客層に興味を持ってもらうのは難しいですが、お客様にアンケートをとったりイベントを開いたり工夫しています。  
 Q. 今後の事業展開、拡大は考えていらっしゃいますか？  
 A. 現状維持です。ですがより多くのお客様に来館していただくためにイベントを毎月行ったり展示物を入れ替えたりしています。



## インタビュー ボードゲームクラブ



Q. なぜ八王子にお店を開いたのですか？  
 A. たまたま八王子です。特に理由はないです。しいて言うなら八王子に住んでいたからです。  
 Q. 客層は新規客とリピーターどちらが多いですか？  
 A. 最近は新規客が多いです。若者の間でボードゲームはブチブチになっていて結構来ます。でも常連客も確かにいてこのお店を支えています。  
 Q. 他店舗と比べて破格の値段設定ですが高くはないんですか？  
 A. シェアハウス時代は500円だったのでこの値段です。ギリギリですが支えてくれたみんなに恩返しを含めています。  
 Q. 今後の事業展開、拡大は考えていらっしゃいますか？  
 A. 野心ではないが、多摩地区の中心となるボードゲームカフェになりたい。



## インタビュー となりわ



Q. なぜ八王子で仕事をしているのですか？  
 A. もともと町作り系の会社で仕事をしていました。八王子でイベントをしているうちに商店街に空き家があることを知り開店を決断しました  
 Q. ターゲットはどのような層か  
 A. 昼間は子連れが多く、夜はお店が貸し切りになるので宴会の会社員が多いという。  
 Q. 今後の事業展開、拡大は考えていらっしゃいますか？  
 A. 開店してから1年半だが完成度とすれば70%である。5年後には100%にしていきたい。  
 八王子には古民家が多い分イベントをやり、運営の安定維持を目指している。



|             | なぜ八王子で仕事をしているのか。                                       | 今後の事業展開、展望。                                     |
|-------------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| アーバンファーム    | 東京というブランドにあこがれ、交通の便のいい八王子で農業をはじめた                      | 農地は倍くらいに増やしたい。福祉系の市議地も増やそうと思っている。               |
| 高尾599ミュージアム | 仕事は市から依頼されたものだが、施設の狙いとして高尾山をもう一度訪れてもらうことを目的にしている。      | より多くのお客様に来館していただくためにイベントを毎月行ったり展示物を入れ替えたりしています。 |
| ボードゲームクラブ   | たまたま八王子です。特に理由はない。しいて言うなら八王子に住んでいたから。                  | 多摩地区の中心となるボードゲームカフェになりたい。新規客を多く取り込みコミュニティを広げたい。 |
| となりわ        | 町作り系の会社で仕事をしていて八王子でイベントをしているうちに商店街に空き家があることを知り開店を決断した。 | 開店してから1年半だが完成度とすれば70%である。5年後には100%にしていきたい。      |

## D-8 多摩祭野外イベントプロジェクト

松本祐一ゼミ

### 1. プロジェクトの背景

- ・ 近年、多摩祭の来場者数は増えているが、まだまだ地域の方々の参加は少ない。
- ・ 松本ゼミで関わっている奥多摩町の認知は低く、特産の治助芋や地ビールをPRして、奥多摩を知ってもらい。

### 2. プロジェクトの目的

- ・ 地域の方々と交流する機会をつくり、地域住民も、学生も楽しくなって、来年も行きたいと思えるような多摩祭になることに貢献する。
- ・ アルコール・食事を提供するので、アルコール中毒、食中毒にならないように注意を払い、お客様に安全かつ美味しいものを提供すること。
- ・ 初めてお店を運営する2年生が中心なので、経営の難しさを体験し、「経営とはこういうもの」だと実感すること。
- ・ シンプルストラテジーの「戦略の構図」を活用して、企画を考える。

### 3. プロジェクトの概要

#### ①ターゲット：

家族連れ、学生、地域住民

#### ②競争力：

他のゼミがやっていない「アルコール提供」と地域との連携力

※松本ゼミの強さ、弱さ

強み：団結力が高く、前向きであること。

弱み：他ゼミとのつながりが無い。



#### ③顧客価値：

- ・ 奥多摩について知ることができ、また治助芋などの特産品を味わえて、良い気分になる。

“ここでしか食べられないアツアツの治助芋、キンキンに冷えたアルコールを提供し、地域住民と学生が楽しく語る。そして奥多摩のことを知ってもらう。”

#### ④顧客との関係：

- ・ 「どこから来たのですか？」などお客様に声をかけ、コミュニケーションをとる。
- ・ チェキを活用して交流を促す。

### ⑤コンセプト：

～奥多摩を知ってもらい、奥多摩の味でいい気分～

### ⑥取り組み内容

- ・ 調理班、受付班に分かれる。
- ・ アルコール、治助芋がメインなので品切れにならないようにグループ LINE を利用して各班の状況を確認する。
- ・ この取り組みを知ってもらうために、Twitter、インスタグラムに宣伝をした。地域に関しては、チラシを作成して情報を発信した。
- ・ 実際にお店を開いているスタッフさんのお力添えにより、接客、アルコールの割合などを本格的に教えてもらいました。
- ・ 未成年の飲酒、過度の飲酒をしないように、学祭全体の対策だけでなく、ゼミ独自の対策も行った。
- ・ 来店されたお客様にアンケートをとり、何が良かったか、何が売れたのかなど今後につながる情報を収集した。

## ④プロジェクトの成果と課題

### ■成果

- ・ なんとか黒字を達成（売上 169,400 円 利益 6,857 円）
- ・ アルコール関連のトラブルがなかった。
- ・ プロジェクトを通じて、2年生（3期生）の絆が深まった。

### ■課題

- ・ 商品の需要に対して、適切なオペレーションの仕組みをつくることができなかった。
- ・ 様々な天候条件を考えて準備をする必要がある。



当日の店舗の風景

## 世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2017

(2017 年度大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」対象事業)

多摩大学経営情報学部梅澤佳子ホームゼミナール

前田将太郎 安池 輝 (3年) 内田莉暉 大澤達也 小野澤 瞳 北島美希 (2年)

## 1. プロジェクトの目的

本プロジェクト(以下、PJと省略する)は、八王子市地域包括支援センター旭町(以下、センターと省略する)、八王子社会福祉協議会第4地区民生委員と大学生が連携して「駅前という特徴を活かした高齢者のためのサロン」の運営を行うものである。

八王子駅前はビルが乱立する商業地域であるが、ビルオーナーとして独居する高齢者は意外に多く、さらに近年は駅周辺再開発により高層マンションの新築が続き、新たに移住された高齢者も増えている。本事業はこのような現状を踏まえ、高齢者の公的な交流の場の仕組みづくりを目的としている。

目標の第一は、高齢者の方々が自然体でゆったりと過ごすことができ、多世代で交流し合える「みんなのゆったりサロン」である。第二は、高齢者の活動の活性化を推進していくことで健康長寿の一助となることである。第三は、地域団体と連携して「駅前」という利便性と特色を活かした継続性のある事業を目指すことである。

## 2. 活動の経緯

本PJは、平成28(2016)年に始め、2年目となる事業である。本ゼミは、これまで多摩市を中心に継続的な問題解決型地域PJを行ってきたが、去年の春、八王子市側から「ゼミ活動を八王子市にも広げてみないか。」と声をかけていただき、八王子市地域包括支援センター旭町、八王子市社会福祉協議会第4地区民生委員との連携活動が始まった。

## 3. 活動内容

## (1) 開催場所・日時

開催場所はJR八王子駅前からお年寄りの足で徒歩5分の雑居ビル3階にある八王子市地域包括支援センター旭町の一室を利用。開催日時は毎月第3木

曜日午後2時から3時30分の90分である。今年度は4月から2019年3月までの計10回(8・2月は休み)のサロンを予定しており、11月までに8回実施した。

## (2) 駅前サロンの運営方法

サロンの企画運営は、八王子市第4地区民生委員の方々と梅澤ゼミPJメンバーで分担している。民生委員の皆さんは、担当地区の高齢者にサロン参加の呼びかけや当日の茶菓子の準備・提供、歌の時間の選曲と演奏、おもてなし、交流等々を、地域包括支援センター職員の方は、受付、サロン終了間際にお帰りの準備として体操プログラムを担当して下さっている。

## (3) 学生の役割・活動内容

学生の役割は主に2つに分けられる。1つはサロンの司会、クイズ等の話題提供、参加者の方との交流、次回のサロンを紹介するチラシやサロンを知ってもらうためのパンフレット作成等である。その他には地域高齢者の生活実態やニーズの調査とそれに基づくサロンの改善案を提案していくことである。

## 4. 2017年度の活動報告

昨年度は、初めての取り組みであったため、サロンの仕組みづくりを行うことが最大の目的であった。何をどのように行ったらよいか、連携団体の皆様と共に活動する中で自分たちの役割を模索しながら試行錯誤であった。

## (1) サロンの運営

今年度は2年目ということもあり、センター職員、民生委員の皆さんからは「話題の工夫」、「積極的なコミュニケーション」等、学生側への要望を頂いた。昨年、若い世代の興味関心も知ってもらいたいと思い、共通の話題「野球」をテーマに人気の若

い選手大やリーグの話題を準備したが評判が悪かった。そこで今年度は、開催時期にあった話題（季節の豆知識）、脳トレクイズなどに話題を切り替えることにした。新年度新たにPJメンバーになった2年生の自己紹介、独り暮らしでも簡単に料理できる季節にあったレシピ、〇×クイズなど高齢者の方々に楽しんでもらえて、尚且つ我々と共通の話題を用意し楽しんで頂けるように工夫した。PJメンバーの「本日の話題」提供後、続けて「ご歓談」につながるので、「本日の話題」選びはそのあとに続く歓談の材料として重要なのである。

#### (2) チラシの作成

チラシには、次回のサロンの日時を大きく見やすく記載し、あわせて次回のサロンまでに開催される八王子周辺のイベント情報で高齢者に興味を持ってもらえそうな内容を民生委員の方から情報提供いただき2~3つ紹介している。その目的はサロン以外高齢者の方々が少しでも外出し、外との交流を持って刺激を受けてもらうことである。サイズは、小さなバックに収まりやすく、家では冷蔵庫や玄関に張りやすい「A5サイズ」とした。

#### (3) パンフレットの作成（新規の取組み）

サロン運営にあたり、まだまだ大勢の方々に駅前サロンの存在を知っていただくためにパンフレットの作成を行った。パンフレットにはサロン開催中の写真と共に「世代間交流」という本サロンの特徴、今年度分の日程、八王子市地域包括支援センター旭町の場所をわかりやすく記載した地図（提供：センター）を記載した。パンフレットは、民生委員の方々を通じて個人や公共機関等に配布している。

#### (4) 民生委員の方々との会議

通常、サロン終了後にミーティングを行っているが、7月に多摩大で下半期の活動に向けて民生委員の方々と打合せを行った。目的は、2年目の上半期を終えて形が固まってきた時期ということで、現在の活動の課題、今後に向けての改善点などについて意見交換を行った。連携団体の皆様からは、学生側の積極的な姿勢やコミュニケーションに、活動に入

る際の気構えを見直してほしいという要望が出され、先を見据えた活動の方向性（3年生から2年への引継ぎなど）についてPJメンバー、民生委員、の方々、梅澤先生の間で話し合った。

## 5. 成果と課題

### (1) サロンの運営

サロンは、昨年度6月に第1回が開催されてから、11月現在までで15回行っている。今年度は7回開催し、平均参加者数は16名である。今年度の最大人数は第15回の23名であるが、利用施設の規模から、運営側を含め30名が限界である。新規参加者、常連の参加者のバランスが取れているセンター、民生委員の方々のお声掛け等ご協力のおかげでだと思う。ご夫婦での参加、「無料パスがあるのでサロンに来た。」という方など参加者の幅も広がってきた。参加者からは「知り合いが増えてうれしい」、「色々な人と楽しくしゃべれる場があり、1カ月に1度の楽しみ。」「学生としゃべるのは楽しい。」などのお言葉を多くいただくことができた。

### (2) 学生企画補助金採択

2016年度から2年連続で大学コンソーシアム八王子「学生企画補助金」対象事業となった。プレゼンテーションと、中間報告会を通じて担当の方々から意見をいただいた。10月には視察にも来ていただき、駅前サロンの雰囲気なども見ていただいた。

### (3) 気づきと課題

耳が遠い高齢者の方々に対するPPTの工夫である。聞こえなくても内容が理解できるアニメーションの方法を工夫すること。また、内容は日常生活で役立つ物、有益な情報提供が大切であること。活動は、参加者の反応を見て修正をしていくこと。そして、学生側が明るく元気に積極的に動くこと、傾聴することである。共通していることは、コミュニケーション能力！ひと言だが大変難しいということがわかった。テーマ設定の重要性と我々の柔軟性が求められている。

最後になりましたが、連携して下さっている関係団体・関係者の皆様から心から御礼申し上げます。

## 富士吉田市吉田地区の観光資源発掘プロジェクト

### 富士吉田市における空き家問題と地域活性化

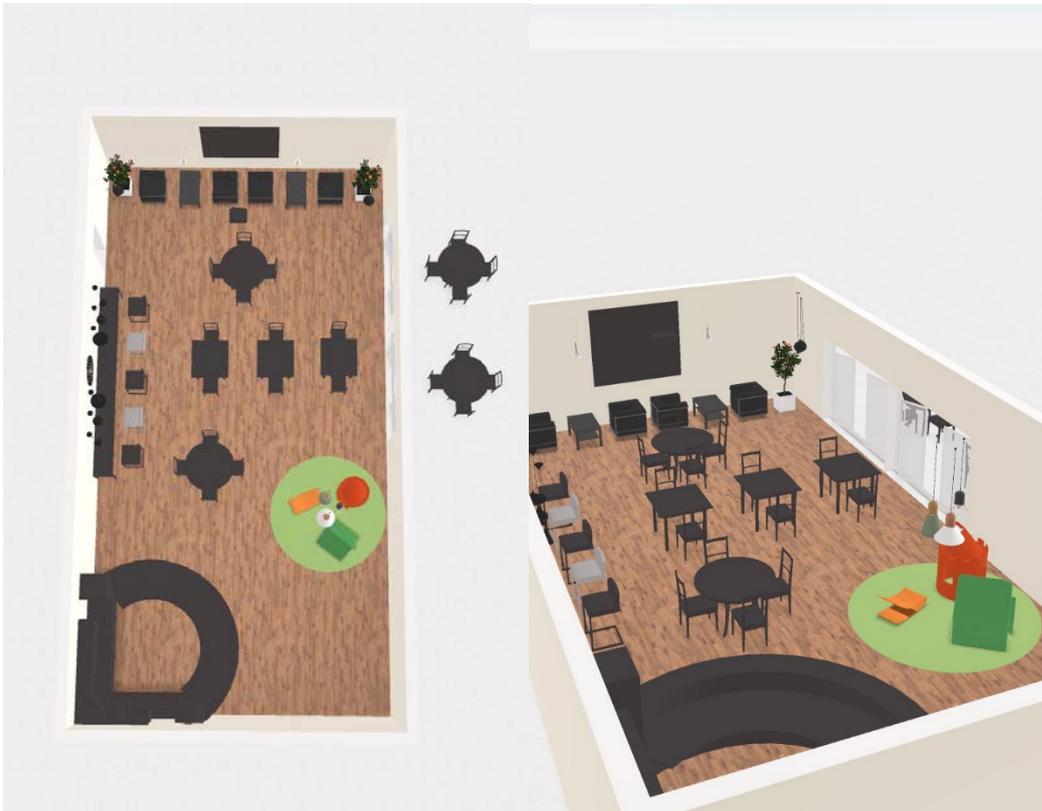
中庭ゼミ富士吉田班

#### 目次

1. 基本情報
2. 観光資源
3. 富士吉田市の現状と問題点
4. アンケート結果
5. 他の地域の事例
6. 空き家を利用したムービー&カフェ
7. まとめ

#### 補足

##### 空き家を利用したムービー&カフェ



#### ムービー&カフェから得られる効果

1. 富士吉田で空き家になっているものを、一つの利用価値として認識してもらい、地域活性化に繋げる。
2. 学生が考えた空き家利用のリノベーションを見てもらうことで、地元の学生など若い世代に空き家について考えてもらうきっかけにする。
3. 市内のコミュニケーションの場を作ることで、富士吉田を盛り上げたいという意識を出してもらう。
4. 観光客との交流の場として、富士吉田が居心地のいい場所として認識してもらうことで、観光客に対し「また来たい」と思わせることで、地域活性化に繋げる。

#### ▶サード・プレイス

Ray Oldenburg（レイ・オルデンバーグ）が提唱したコミュニティにおいて、ファーストプレイス（自宅）、セカンドプレイス（職場、学校）ではない心地のいい第3の居場所を指す。

#### Ray Oldenburg が提唱するサード・プレイスの特徴

1. 中立領域
2. 平等主義
3. 会話が主たる活動
4. アクセスしやすさと設備
5. 常連・会員
6. 控えめな態度・姿勢
7. 機嫌が良くなる
8. 第2の家

## D-1 1 奥多摩活性化事業開発プロジェクト

松本祐一ゼミ

### 1. 奥多摩プロジェクトの背景、奥多摩町の環境

奥多摩町は東京都の最北西端に位置する。観光地としては奥多摩湖、日原鍾乳洞、雲取山などが有名であり、自然が町の資源となっている。

奥多摩町では、図1のように人口減少、高齢化が進行している。対策として、条件付きでの土地付き住宅の無償譲与、子どもの保険料・医療費全額助成など、移住支援や子育て援助の施策を行っている。

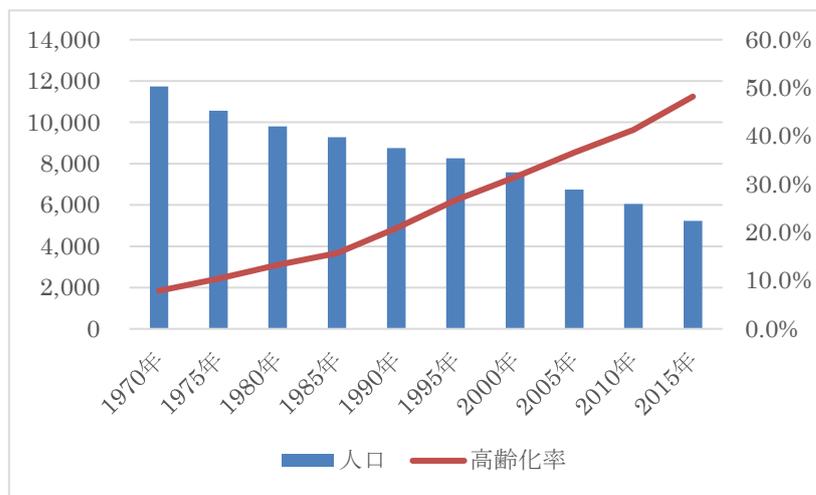


図1 奥多摩町、人口および高齢化率の推移 (出典：平成27年国勢調査)

### 2. 目的

上記の背景に対し、奥多摩に若者（20代を中心に40代くらいまで）の移住者を呼び込むことで活性化を図る。

### 3. プロジェクトの概要

移住を実現するためのキーワードとして「意職住」（※NPO法人奥多摩カヌーセンター宮村さんより）を定めた。その中でも、特に若者に魅力を伝え、「意」を生むきっかけ作りを重視して活動した。

- 意：その場所に住む、住みたいという意思
- 職：その場所に雇用、職があるか
- 住：その場所に住めるか、住環境が整っているか

## 提案したプロジェクト内容

### (ア) ゲストハウスパオ

体験移住（宿泊）により、宿泊しなければ見ることのできない町の姿を見ることで奥多摩に興味を持ってもらうことを目指す。

アウトドア好きの若者（学生～20代）をターゲットに、やや長期滞在型のゲストハウスをゲルという価値で提供する。ゲストハウスをコミュニティの拠点とし、若者の観光客と町の人々の交流を生むことで、活性化を図る。



### (イ) サテライトキャンパス構想

本構想では、奥多摩に共有キャンパスを設置し、多摩大学を始めとした多摩地域の大学、教育関係機関が訪れる教育、特にアクティブラーニングの拠点にすることを旨とする。

学生のうちに奥多摩を訪れることで、移住の意思を生むきっかけをつくる。また、実践的な学びの中で企業との産学連携を実現し、企業や学生にとってリクルートの場としても活用させる。最終的には、異なる大学の学生同士が企画、複数の企業が協賛することで、奥多摩でビジネス、「職」が創造されることを理想とする。

初動としては、株式会社 JELLYFISH との連携を図る。

（※株式会社 JELLYFISH：ベトナム、フィリピンなどで日本語教育を始めとした教育事業、日本での外国人人材紹介事業、日本への留学生誘致や寮運営などを展開。奥多摩町「旧古里中学校校舎等活用事業」に選抜され、2017年10月から外国人留学生が日本のIT系起業への就労を目指す奥多摩日本語学校を開設）

## 4. 発表の反応

上記2つの提案を7月9日、奥多摩ゆかりの参加者約20名（地元メディア、小学校教諭、飲食店経営者など）の前で行った。「小学校でも連携したい」、「ゲストハウスの設置場所としてキャンプ場を紹介できる」など、概ね協力的なコメントを受けた。

この提案をきっかけに JELLYFISH とのコネクションを得ることができた。

## 5. プロトタイプ企画

### 2つの企画からプロトタイプを提案。

実現すべき顧客価値を①多摩大生に実りがある（留学性との交流、奥多摩の魅力を発見）、②留学生に実りがある（多摩大生の交流、奥多摩の魅力を発見）、③奥多摩に実りがある（若者が訪れ、魅力を感じてくれる）の3つに定めて企画。

サテライトキャンパス構想のきっかけとして、JELLYFISH と多摩大学（松本ゼミ中心）の交流を行う。ゲストハウスパオからは多摩大生に魅力を発見させるため、宿泊型を取り入れる。

現在 JELLYFISH 側と交渉中（11月30日時点）

以上

## 画像の認識による脳波の変化～データから好き嫌いを判断する～

前川瑞稀・奥原れいな（良峯ホームゼミ3年）

### 1. 研究目的

脳波は対象への好き嫌いで右脳と左脳に若干異なる反応が出ることを知り、脳波を測定することで、人の感性を客観的に評価することに興味を持ちました。今回の実験では、対象をさまざまな画像データとし、さまざまな画像による視覚刺激で生じた脳波から、画像に対する好き嫌いを判断することができるかどうかを調査、研究することにしました。

### 2. 実験手順

実験参加者に見せるさまざまな写真画像を用意します。画像に対する好き嫌いを調査するので、誰でも好みそうな画像（Ex.パンダ 赤ちゃん...ext）、誰でも嫌がりそうな画像（Ex.虫 グロテスク...ext）、好きでも嫌いでもなさそうな画像（Ex, 自然 家具...ext）の3種類で計20枚用意しました。

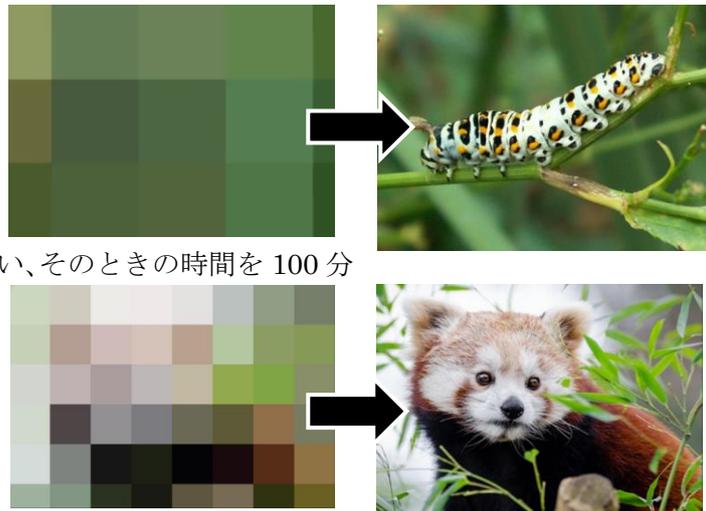
見た対象が好みかどうかという反応は、ごくわずかの時間で生じるため、画像を特定の対象として認識した瞬間をとらえる必要があります。そのため、あらかじめ各画像に細かなモザイクをかけておき、徐々にモザイクが外れていって、最終的にははっきりとした画像として見えるようなアニメーションを用意しておきます。そのようなアニメーション10個を連続的に流すことでひとつのセッションとし、画像を変えてセッションを2個作成しました。

画像は最初モザイクがかかっていて、何の画像かよくわかりませんが、徐々にその姿が明らかになっていきます。被験者にはその画像に何が写っているのかが分かった時点でボタンを押してもらい、そのときの時間を100分の1秒単位で記録します。

脳波計のデータは1秒間に400～500個の脳波データを記録していますので、ボタンを押してもらった瞬間の前後1秒間の脳波データをそれぞれ切り出して分析します。

すべての画像を見終わった後に、それぞれの画像について被験者の好き嫌いを4択のアンケート用紙で記入してもらいます。

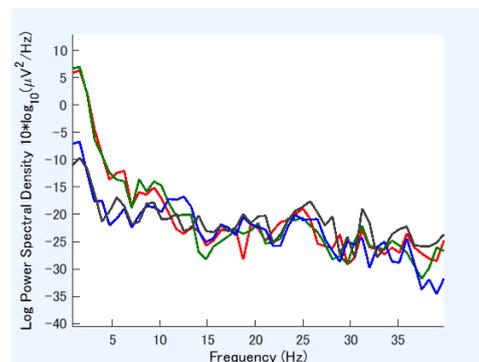
脳波の測定はとても微妙で、ちょっとした動きでも脳波に影響が出てしまうおそれがある



るため、「なるべくまばたきや歯のかみしめ、体を大きく動かさないようにしてください」などの注意を与えて、実験を行いました。

### 3. 分析方法

OpenBCI 社の **Ganglion** という脳波計を使用し、頭皮上の4か所で脳波を継続的に測定しました。記録されたデータを **MATLAB** および **EEGLAB** という波形解析ソフトに読み込みます。このソフトを使って、計測した脳波データにフィルタをかけて分析に必要な1～40Hzの周波数の脳波に限定します。さらに瞬き・筋電などのノイズ（アーチファクト）を含む脳波データを除去し、残った脳波データに対して周波数解析を行いました。周波数解析を行うことで、脳波を周波数ごとの出力に分解して表示することができ、アルファ波、ベータ波、シータ波、デルタ波のように、それぞれ特性のある波に分解して特徴を抽出することができるようになります。今回の実験では、画像を認識した1秒前から2秒後までの脳波データのみを抽出して分析対象としました。



### 4. 今後の取り組み

今回の調査では、周波数解析によって得られた脳波データの特徴と4択のアンケート結果との関連性について調べましたが、データ件数がまだ足りていないため、確実な結果が出ていません。そのため信頼性の高い結果を出すために、引き続きデータ集めや分析をしていきます。

参考文献：『色彩と脳波特性に関する基礎的研究』 三島 孔明、藤井 英二郎

# 高山市久々野地域における グローバルビジネスの共同研究結果と提案

AL プログラム 「地域観光研究

in 飛騨高山」参加者

## 1. 問題意識

岐阜県高山市は、年間450万人余りの観光入込み客数を有する国際観光都市として全国的な知名度を有しているとともに、飛騨牛を初めとした農畜産物や地酒などの加工品、飛騨家具を筆頭とする木工製品などの飛騨高山ブランドに対するファンも多くなっている。

しかし、人口減少・少子高齢化の進行は著しく、特に久々野町を含む支所地域（合併前の9町村を現在は支所地域と称しており、支所地域は9地域に分かれる）においては、その傾向が顕著となっており、地域活動やコミュニティの衰退が懸念されている。

そのため、支所地域においては、地域が保有する資源や魅力を活用したグローバルビジネスの育成などを通じた「交流人口の増加（高山市中心部に訪れる人々の誘致）、定住人口の増加（UIJ ターンの確保）」による地域活性化が急務となっている。

このような状況の中、高山市中心部の南側に隣接する久々野地域においては、久々野地域のまちづくり活動の主軸となる「久々野まちづくり運営委員会」が全町民（町内会）と協働で地域の資源・魅力の再発見とその活用方法の構築に取り組んでいる。

そこで、一般財団法人飛騨高山連携センターおよび久々野まちづくり運営委員会と連携して、地域の資源や魅力を活用したグローバルビジネスの実践研究を実施した。

## 2. これまでの取組

### (1) 事前学修

平成29年11月11日（土）

- ・一般社団法人飛騨高山大学連携センター 六角センター長による講義
- ・グループによる地域資源調査とディスカッション

### (2) フィールド調査

平成29年11月19日（日）～21日（火）

\* 参加者＝指導教授＋学生（約30名）

活動場所：高山市中心部（高山市の状況把握）  
高山市久々野町地内（フィールド調査）

### 3. 今後の予定

フィールド調査を踏まえて、現在、高山市久々野町への提案を作成中である。発表祭当日は、現在検討している提案について、4チームより発表を行う予定である。

なお、最終的な研究成果については、高山市の招待により、平成30年2月19日（月）～20日（火）にかけて、指導教授＋学生・院生代表（6名程度）により、現地で開催予定である。

以 上

# 日野市観光プロジェクト～豊田ビール～

中庭ゼミ日野班 3年：中村竜也 佐々木隆明

2年：一ノ瀬将人 稲垣幹太 井上篤志 加藤詩織

## 1. 日野市とは

日野市の中心地である日野駅は都心である新宿まで一時間以内で行くことができる。都心から近いということもあり年々人口が増加してきている。

日野市には高幡不動、多摩動物公園などの観光地があり、また新選組のふるさとと呼ばれていて新選組が有名で新選組関連の祭りが行われている。新選組をいかしたイベントには外国人観光客も訪れ人気が出できている。

日野市は用水路や田んぼが多く、用水路は新井用水、上田用水、黒川陽水、豊田陽水があり、用水路を活かした町づくりも行われている。

## 2. 豊田ビールとは

明治19年に豊田の山口平太夫によってビールが造られた。

平成25年度に行われた発掘調査と蔵の調査でビールのラベル、ビール貯蔵所の写真などが発見された。そして発掘調査を機に多摩地域最古のビールとして豊田ビールができた。豊田ビールの味は苦みが少なくビールが苦手な人でも飲みやすいといえる。日野市内のコンビニエンスストアや百貨店などが取り扱っており飲食店でも飲めるところがある。

私たちは豊田ビールをつかって、日野市の活性化を考えました。豊田ビールのアンケートをとったところ日野市民の3人に1人しか知られておらず、もっと認知度をあげていくことが重要であると感じた。

規格 ラガービール(生ビール)

値段 463円(税抜)

税造 石川酒造(株)

## E - 5 銚子市活性化事業開発プロジェクト【夏合宿】

松本祐一ゼミ

### 1. プロジェクト概要

松本ゼミは2泊3日の夏合宿で千葉県銚子市に訪れた。銚子市は日本有数の水揚げ量を誇る銚子漁港や2つの醤油工場などが有名な地域だが、幾つかの問題を抱えている。そこで松本ゼミは問題を解決する企画を立てるため、A班 B班 C班の三班に分かれて、事前学習を行い、夏合宿最初の2日間フィールドワークを実施、次の日の朝までにフィールドワークを経て知った事を活用し、問題解決プランを立て、3日目の午前中に銚子市の方々に向けプレゼンを行った。



銚子市の現状

強み：観光資源が豊富（食べ物・自然・職人が多い）

弱み：少子高齢化、宿泊観光が少ない、情報発信力が弱いなど

銚子市の求めているもの

若者の力、新たな価値、宿泊型観光客の増加、資源の新たな使い道

### 2. 提案の概要

#### A班「GUESTHOUSE SKY BEE」

銚子市問題点に、少子高齢化、宿泊客を増加させたいというものがある。プランで解決できることは、「アクティブな若者」と「宿泊型観光客の増加」、「資源の新たな使い道」である。ゲストハウスとドローンを組み合わせることによって若者を銚子市に呼び込むというものだ。第一段階として若者に銚子市に興味を持って訪れてもらう必要がある。そこで、まずゲストハウスだ。ゲストハウスの特長は宿泊費が安く、交流ができることの二つである。このような点が若者に受けやすい。宿泊費が安く泊まりやすい施設ができれば宿泊をする若者も増えるだろう。次に、若者に興味を持ってもらうことだ。この問題はドローンを使って解決しようと考えた。ドローンを使うことによって空から銚子の自然を撮ることができる。空からの写真を撮る機会はほとんどないだろう。つまり、若者に流行っているインスタグラム受けする写真を撮ることができる。現在では若者を呼ぶ魅力として SNS 要素は不可欠なものである。オリジナリティのある綺麗な写真を撮ることができる。このように非日常が味

わかるゲストハウスという魅力が若者層に受けると考えた。

### B 班「職人体験プロジェクト」

このプランで解決できるのは「宿泊型観光客の増加」「発展」「資源の新たな使い道」である。プランの概要としては成田空港から来る外国人観光客を呼び込むというものである。

銚子市は別地域の人が入ってきて発展した歴史がある。さらに職人文化が多数あり豊富な資源もある。このことから「既存の技術や資源」＋「別の価値観を持つ人」を使い新たな価値の創造ができると考えた。今の銚子市の現状に当てはめるとグローバル化も考慮し「別の価値観を持つ人」は外国人観光客だと考えた。

日本の職人技に興味のある外国人観光客を銚子市に呼び職人技を持つ人のところに行き職人の技を体験してもらう企画だ。これは、職人・指導側にもメリットがある。外国人観光客とふれあうことで、直に価値観やニーズを掴むという機会を得ることができる。PR 方法として「銚子ファースト」というキャンペーンを考えた。これは日本旅行の初日を銚子市で過ごしてもらおうというものだ。銚子市を発展させつつ、来てくれた人にも利益があることがこのプランの真髄である。

### C 班「ツノマタバスソルト」

このプランで解決できることは「新たな価値」「資源の新たな使い道」である。このプランはツノマタを使った美容品を作り、女性観光客を呼び込むというものだ。ツノマタとは銚子市特産品の海藻でミネラルやナトリウム、亜鉛などが豊富。肌に優しく高い保湿効果と持続性に加え免疫力を高める効果もあり風邪予防にもなる。

そこで、この海藻を使ったバスソルトを開発し、カフェなどに足湯設備を設置し手軽に体感してもらう。ホテルの一角にてエステやマッサージの付帯サービスで使用してもらう。ホテル宿泊者にアメニティとして配布などをして知名度を上げていく。CA（キャビンアテンダント）の方にパイオニアになってもらい、女性への関心を高めてもらう。CA にパイオニアになってもらう理由として「成田空港が近い」「交流の幅が広い」「立ち仕事の足腰への負担が多い」の3つである。女性に選ばれる街になれば、今後も「美容」という強みも得ることができ、観光資源の温泉なども相乗効果で集客が上がることも見込める。

## 3. 提案結果と今後の展開

夏合宿最終日の発表会で、3つのプランを合わせると銚子市の問題点を解決する糸口となるだろうという評価をいただいた。今回の合宿でコーディネートをお願いし、様々なご支援をいただいた「NPO法人ちょうしがよくなるくらぶ」では、このプランを実際に実現するために動き始めている。



以上

## イースポーツとは

- ・ electronic-sportsの略、直訳すると「電子のスポーツ」である。つまりビデオゲームで競い合うスポーツである。
- ・ 20世紀までのスポーツは、身体を使い行う競技が多かった。が、近年ではゲームが競技として行われている。
- ・ 身体の不利益も少なく、未経験の人でも簡単にプレイできるようになっている。

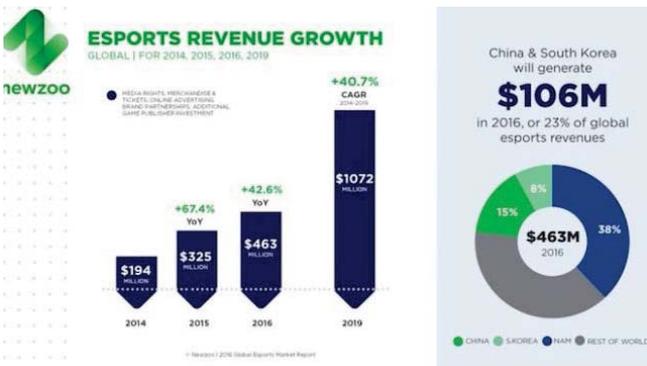
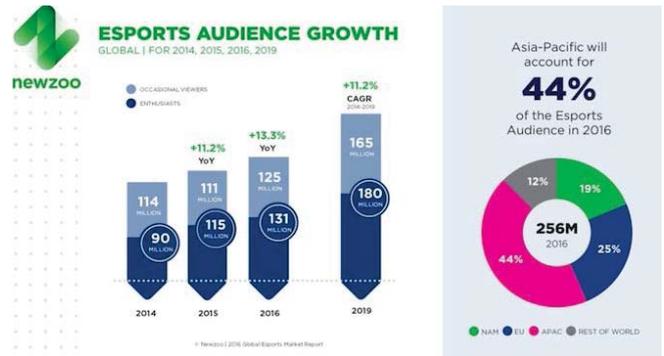
## eスポーツの競技種目

主にファーストパーソン・シューティングゲーム、リアルタイムストラテジー、格闘ゲーム、スポーツゲーム、レースゲームを使用して競い合う。以前はFPSやRTSなどのジャンルが主流であったが、この数年ではコンシューマーなどのタイトルも取り入れられるようになり、そのジャンルもさまざまである。

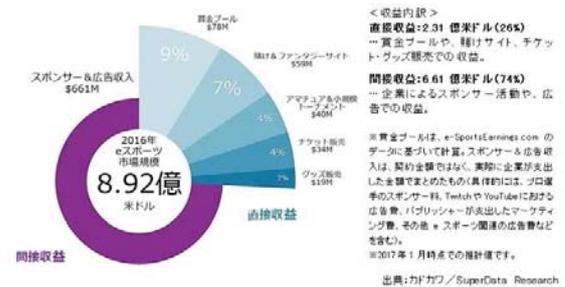
日本で有名なのは、ストリートファイター、鉄拳、レインボーシックスシージ、等

## なぜ私たちがE-Sportsを取り上げたのか

- ・ 世間一般的である身体スポーツとは違く、生まれながらの才能に左右されにくく頭脳での勝負であるため今までは違うスポーツの在り方であるため。
- ・ 日本ではまだ発展途中であるためこれからの大きな市場獲得を考えられるため、大きなビジネスにつながると思われるため。



## 収入の内訳について



## 海外のE-Sports状況

- ・2022年のアジア競技大会のメダル種目に採用された。早ければ2024年にe-Sportsがオリンピックの正式種目として採用される。
- ・海外の取り組みとしては、米国のユタ大学が「League of Legend（ゲーム名）」に参加する学生には授業料を免除する制度。
- ・27億円前後にもおよぶ賞金の大会がある。

## 日本では？

- ・日本のe-Sports市場は世界の15分の1程度、プレイヤー人口も世界の20分の1程度
- ・熱心なプレイヤーやファンがいるわりに世間の認知度が低い
- ・最大500万円程度の大会賞金（賞金法による制限）

## もちろん悪いことだけではない

- ・賞金に関しては景表法などの法律により制限されていたが、現在緩和を向けた動きが始まっている
- ・日本にあるe-Sports団体がまとまって日本オリンピック委員会（JOC）に加盟し、オリンピックに選手を送ろうという動きがある。
- ・E-Sportsをテーマにしたプロゲーマー専門学校（東京アニメ・声優専門学校）が作られた

## 日本国内でのE-Sportsが抱える問題点

1. チームの資金
2. コーチの不足
3. 選手の不足
4. 大会の不足

## 日本のE-Sportsプレイヤーが世界を目標に向けた場合の問題点

1. 言語の問題
2. 世界ランクになる選手の不足
3. 日本人に向けたゲームタイトルの出現（日本で流行ってるから世界でも流行ってるわけではない。また世界で流行っているから日本でも流行っているわけではない。）
4. コンシューマ機の発展

## E-Sportsを視聴する面での問題点

1. メディアの少なさ
2. トップクラスのプレイヤーが集まるためコア化してしまう

## 日本で流行らせるには？

- ・スタープレイヤーの活躍をできる場を増やす
- ・スポンサー企業の増やす
- ・メディアで取り上げる
- ・従来のスポーツのように教育の中に取り入れる
- ・日本ではコンシューマゲームが流行っているのであえてコンシューマゲームで拡大をする

## 「日本アニメ産業の現状と課題」

報告書： 21611182 酒井嵐麻

21611080 大嶋涼太

所属ゼミ：バートルゼミナール

## 目次

1. 日本アニメ産業の現状
2. 日本アニメ産業の課題
3. インバウンドによる効果
4. まとめ

## 目的：

サブカルチャーとしてのアニメ文化をインバウンドと関連づけた試みはアニメ産業が抱える課題解決に寄与できるか、その可能性を探る。

## 内容

1980年代、日本アニメは飛躍的に発展し、その後も成長を続けて世界に誇るヒット作品をたくさん生み出してきた。2005年～2010年までアニメ作品DVDの売上高が急降下し、一時的に低迷したものの、2013年からは再び右肩上がりとなっている。現在、日本のアニメは第四次ブームを迎えたと言われているが、アニメ産業全体を牽引する強力な作品はまだ登場しておらず日本のアニメ業界は「市場規模は拡大しているものの将来の見通し立たず」というのが現状である。とりわけ、日本のアニメーターの労働時間は一か月で260時間以上に対して年収はわずか300万円と全国平均より約81万円も安く、市場規模の拡大に比例していない。また、日本のアニメ産業は人材不足や経営基盤の軟弱化が課題であると考えられる。人材不足と経営基盤の軟弱化は、互いに相関関係にあり一種の悪循環な状況下にある。経営基盤がしっかりしていないと、アニメに携わっている労働者の低賃金につながり、結果的にアニメーター志望者の減少という結果を生み出している。

このため、今後アニメ産業全体の健全な発展を視野に入れた際に、アニメの聖地巡礼によるインバウンド効果が期待できると考えられる。例えば、映画「君の名は」は日本だけでなく世界中で大ヒットし、100万人を超える海外からの観光客の聖地巡礼でにぎわった飛騨地方は地域経済の活性化に留まらず日本のアニメ産業にとっても相乗効果が大きい。

## まとめ

アニメは日本が世界に誇るサブカルチャーであるため、アニメ業界にかかわりのない人達も日本アニメ産業の課題を深く考える必要がある。サブカルチャーとしてのアニメ文化をインバウンドと関連づけた試みはアニメ産業が抱える課題解決に寄与できるほか、地方活性化にも貢献できると考えられる。

2017.12.9

2017年度AL祭

# Fリーグ観客動員数増加についての研究

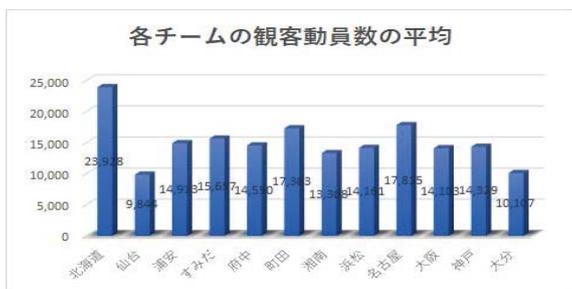
杉田ゼミ

21511150 三條裕貴  
21511346 若林勇希  
21511030 福見 渚

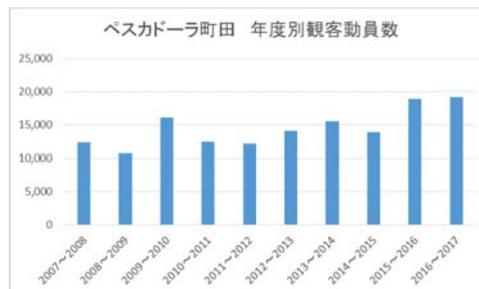
## Fリーグの歴史

- ・日本フットサルリーグは、日本フットサル連盟によって2007年に新設されたフットサルの全国リーグである。
- ・愛称は「F.LEAGUE(Fリーグ)」。
- 2017-2018シーズンより、リーグ戦の大会タイトルを「DUARIG Fリーグ」としている。
- ・日本では以前からトーナメントなどの公式戦は多数行われていたが、本格的な全国リーグの創設は初めてである。2007年9月開幕で、全国各地に出来た12チームが総当たりのリーグ戦を行い、順位を争う。
- ・2017-2018シーズンからは参加12チームを6チームずつに分けた「6チーム共同開催節」

## 各チームの直近三年間の観客動員数の平均



## ベスカドーラ町田 年度別観客動員数



## ベスカドーラ町田のスポンサー

- ・株式会社イーグル建創 (リフォーム事業、省エネ・太陽光発電事業、環境事業)
- ・GALLERY+2 (株式会社 横浜黒川スポーツ) スポーツショップ
- ・PERS JAPAN CO.LTD.(レンタル事業、医療経営コンサルティング事業、診療機外部事業)
- ・Futsal Stage (イベント開催事業、スポーツスタジオ運営)
- ・セントラルウェルネスクラブ成瀬 (スクール事業、フィットネス、レジャー、法人、介護予防)
- ・ATHLETA (スポーツウェア・シューズ)
- ・株式会社 創建 (不動産)
- ・FROM THIRTY (薬局)
- ・SUNTORY (自動販売機事業、ウォーターサービス事業、ファウンテン事業、小売店事業) 梱包配送、設置組立、引越し、車両手配)
- ・DSC 物流機動隊 (物流コンサル、緊急配送、冷蔵冷蔵配送、倉庫保管、専用貸し切り) 1.SUNTORY (自動販売機事業、ウォーターサービス事業、ファウンテン事業、小売店事業) 梱包配送、設置組立、引越し、車両手配)
- ・M&Y (軽貨物運送事業、物流コンサル、貨物利用運送)
- ・株式会社 愛知金物建材 (コンクリート、設備)

## スポンサー 2

- ・株式会社 タマパーク (駐車場事業)
- ・Golfpia (ゴルフ打ちっ放し)
- ・有限会社サトー住建 (不動産賃貸仲介業、不動産管理業、不動産売買仲介事業)
- ・freestyle inc. (コンサート・イベント企画、テレビ・ラジオ放送番組、書籍・雑誌、映画・ビデオ・CM広告看板、広告代理、旅行代理店)
- ・日本一しょうゆ (醤油醸造業 食品卸販売業 貸ビル業 飲食業)
- ・有限会社 藤巻ホーム (リフォーム・増改築、リノベーション、アフターメンテナンス、不動産売買・仲介)
- ・109MEN'S (アパレル)
- ・SWAN BAKERY & CAFE (パンの製造及び販売、コーヒーショップの運営、酒類販売業)
- ・町田東急ツインズ (アパレル、食品)
- ・青葉台東急スクエア (アパレル、食品)

## スポンサー 3

- 株式会社 キープ・ウィルダイニング (飲食店経営、コンサルティング、プロデュース)
- Menicon Miru (コンタクト)
- 有限会社 河西工業 (給排水衛生設備工事、空調換気設備工事、住宅設備リフォーム工事)
- 株式会社 ニチバン (医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び試薬接着テープ、接着シート)
- hair salon dot.tokyo (ヘアサロン)
- 医療社団 快晴会 (病院)
- 株式会社 テコセンター (ヘルスケア施設・柔道整復師施術所の運営・管理)
- 株式会社リラックス (リラクゼーションサロンの経営、整体院の経営)
- 北里大学病院整形外科 (病院)
- 株式会社オンザウェイ (無線機の販売・リース・レンタル、無線機のアクセサリの企画開発、オフィス用品・介護用品の通販)
- 株式会社 タビックスジャパン (国内外の旅行商品企画、各種団体の社員旅行)
- 南町田ファミリー歯科 (歯科)

## Fリーグ全体のスポンサー

- DUARIG ドゥアリグ (スポーツウェア)
- SUPER SPORTS XEBIO (スポーツショップ)
- Victoria (スポーツショップ)
- Abema TV (インターネットテレビ番組)
- SPORTS COURT (スポーツコート(床材)の輸入・販売業務 スポーツコート(床材)のレンタル業務 スポーツ施設の企画、開発、調査、設計及びそれに関するコンサルティング業務)
- 株式会社チエリオコーポレーション (清涼飲料水の製造及び販売)
- SFIDA (スポーツウェア)
- 三井住友カード株式会社 (クレジットカード業務、デビットカード・プリペイドカード・その他決済業務、ローン業務、保証業務、ギフトカード業務、その他付随業務)
- 読売新聞オンライン (オンライン新聞)

## ペスカドーラ町田が行ってきたイベント

- 「つるっこ・バラスポーツ体験 ミニフェスタ」  
パラリンピック柔道選手、パラリンピック自転車競技選手など
- 「総合健康づくりフェア」  
体幹トレーニング体験会ブースを出店
- 「試合中にチームのOB選手の生解説が聴ける無線機を500円で貸し出し」  
大地悟選手など
- 「No.10中井選手とスカルベツクが共同開発した中井農園甘酒」  
チームの現役と会社がコラボして、その選手の実家で獲れたお米を使用した甘酒を販売。
- 「現役選手によるフットサル教室やクリニック」  
現役トップチーム選手全員参加や2人などさまざま
- 「ペスカドーラ町田×町田東急ツインズ フットサルチャレンジゲーム&Fioreダンスパフォーマンス」
- トップチームのストリートフットサル対決

## 町田ゼルビアとの比較

- ゼルビアは小学校にスタッフが出向き「ゼルビア朝礼」というものを積極的に行っている。
- 「ゼルビア朝礼」は、町田ゼルビアの紹介、町田市のスポーツチームの紹介、町田市の未来についての話
- <http://www.zelvia.co.jp/news/news-112341/>
- また、町田モディのハロウィンイベントに参加するなど、ペスカドーラ町田ように地域に根ざしたチーム作りを目指している。
- ペスカドーラ町田との大きな違いとしては、ゼルビア×キッチンというものをやっている。
- これは、現役リーガーが食べている栄養バランスの取れた食事を低価格で提供している。

## 私たちが思う

### ペスカドーラ町田の集客課題

- 試合当日にも関わらず、スタジアム以外の盛り上がりがない。  
最寄り駅のJR成瀬駅も静かで試合がある日とは思えなかった。
- スタジアムについても出店などが少なく盛り上がり欠ける。
- 町田ゼルビアと試合開催日が重なると観客が少なくなってしまう。
- 試合中の選手の応援歌などの歌詞が分からないので応援しづらい。
- 観に行きつけがない。

## 改善点

- 試合当日は駅前でピラ配りを行い、試合があるということを知ってもらうことが大切。
- スタジアム前の出店を増やし、スタジアムグルメを作っていく、女性などの観客を増やしていく。
- 試合中の応援歌の歌詞カードを配り、試合中に応援していただくように促す。
- 試合後には選手のサイン会などの選手と触れ合うことのできる場を作っていく。

## 「セーリングと 2020 年東京オリンピック」

報告者：21611378 山下和也  
21611177 齊藤駿介  
21611209 zhu xiaowei

所属ゼミ：バートルゼミ

## 1、目的

2020年の東京オリンピックのセーリング競技が湘南藤沢で開催される予定であるが、これをきっかけに日本国内におけるスポーツ競技の振興はさることながら欧米をはじめ急成長するアジアのセーリング関係者（選手・愛好者などを含む）を巻き込んだスポーツツーリズムの可能性を探り、学生ならではの提案を行いたい。

## 2. 内容

「ヨット」という名称で知られるセーリングは、1896年の第1回近代オリンピックの種目であったが海のコンディションが悪く中止となり、第2回のパリオリンピックで初めて競技が行われた。初期から艇の種類が何度も変更になったが、1960年の第17回ローマオリンピックあたりから1つの種目になり、出場国も増加。1984年の第23回ロサンゼルスオリンピックからウインドサーフィンも加わった。当時の日本では、スポーツとしてあまり知られていなかったが、1964年の東京オリンピックをきっかけに高校、大学、社会人のクラブ活動も盛んになった歴史がある。

本報告では、まず、競技を知ってもらう、競技に興味を持ってもらうということからスタートし、以下の3点を踏まえたうえで、最後に学生ならではの提案を行う。

- ・セーリング競技の説明、人口、歴史
- ・アジアの(香港や中国など)などの、セーリング競技への取り組み状況
- ・日本国内におけるセーリング競技の現状（競技人口1万人）と課題

## 3、結論

本研究での調査分析の結果、セーリングの競技人口が年々増加しており、特に経済成長が著しい香港や中国などアジア圏では同競技は盛んに行われているほか、セーリング会場や施設が多数整備されていることが明らかになった。

近年、観光を中心としたインバウンドが注目されているが、本研究ではアジアのセーリング関係者（選手・愛好者などを含む、いわゆる富裕層）を巻き込んだスポーツツーリズムを推進できる可能性は十分あり、開催地の湘南・藤沢市や同市観光協会・企業などとの連携がより効果的と考えられる。

## 多摩グリーンライブプロジェクト 2017

多摩大学経営情報学部梅澤佳子ホームゼミナール 荒井浩樹・小林竜太・山田幸樹(3年)

## はじめに

我々は、2010年より多摩市立グリーンライブセンター、多摩グリーンボランティア連絡協議会、一本杉公園みどりの会と連携させていただき活動を継続してきた。8年目となる今年はガーデンシティ多摩センター「子どもまつり」(5月)と講座「どんぐり工作」(9月)の2つのイベントを実施した。

## 1. ガーデンシティ多摩センター「子どもまつり」

「子どもまつり」では、一本杉公園みどりの会と連携し、こどものための竹細工作りを実施した。今年度の企画内容は、一本杉公園みどりの会の方々と我々学生、参加する幼児・児童の多世代交流による竹馬・竹ぼっくり・竹笛の制作体験、ちゃかぼこ(竹で作ったけん玉)、竹水鉄砲の体験コーナーである。

活動の目的は、竹細工の制作体験を家族で楽しんでもらうこと、みどりの大切さへの気づきの場の提供すること、地域の方やこどもたちにグリーンライブセンターを知っていただき、日常的に利用してもらうこと、そして多世代交流である。

## (1) 活動内容

## ①事前準備と打ち合わせ

6回の活動を通じて、以下の通り事前準備を行った。

| 日時   | 項目           | 内容                                            |
|------|--------------|-----------------------------------------------|
| 3/24 | 打合わせ         | 昨年度からの変更・改善点の確認                               |
| 4/8  | 竹細工(竹笛)の事前準備 | 一本杉公園にて、篠竹を使用して竹笛等の下準備を行う。                    |
| 4/22 | 竹の切り出し事前準備   | 竹馬、たけぼっくり等の竹の切り出し、やすり掛け、バリ取り。<br>@グリーンライブセンター |
| 4/22 | 打合わせ         | 当日配布資料、折り紙などの確認                               |
| 4/27 | 子どもまつりチラシ配布  | 教育委員会了承後、近隣小学校公共施設へチラシの配布を依頼。                 |
| 4/28 | 最終打合わせ       | 竹の説明資料、折り紙など、最終確認作業を行う。                       |

また、今回は竹細工に使用する竹についての説明や、活動団体の紹介などをパンフレットにし、当日配布することができた。

## ②こどもまつり当日の活動

開催日は、5/3～5日の3日間、場所は多摩グリーンライブセンターで、梅澤ゼミは4～2年生がのべ30名活動を行った。竹細工、ちゃかぼこ、竹水鉄砲体験等こどもたちに十分に楽しんでもらうことができた。マニュアルを丁寧に作っていたため、全員が連携して動くことが出来た。昨年度の課題であった連携団体会員の方との連携活動も、団体側で趣旨を共有して下さり、準備段階から交流することが出来たため、スムーズに活動することが出来た。また、販売等のルールも守られこどもたちへフェアに対応することが出来たと思う。2日目は風が強く、物が倒れることが何回か起きたが、軽いものには重石を載せるなどして対処し事故が起きないように対応した。3日目は主に2年を中心として活動を行った。初めてにも関わらず、うまく対応することができた。

## (2) 活動実績

3日間の参加者数は 262人 (市内94人、市外168人。男子122人、女子140人)であった。今年度は、大型連休の中日3日ということで、例年と比較して参加者は少なかった。今回、多くの方にご来場いただけるよう多摩市内の小学校や公共施設でチラシを1,030枚配布した。グリーンライブセンターの活動を広く知ってもらうことは出来たと思うが、参加者の住居エリアを調べると来場にはつながらなかった。

## (3) 感想

今回はこどもたちにより楽しんでもらおうと、竹水鉄砲体験に力を入れた。事前準備は大変忙しかったが、水鉄砲を楽しんでいるこどもたちの姿に心を打たれるものがあった。また、運営のトップが何もしていないのは悪いように思っていたが、連携団体から「統括責任者が当日動いてはいけない。」ということを教

えてもらった。メンバーにしっかり任せ、常に全体をみることは難しいと感じた。

#### (4) 連携団体からの外部評価

準備段階から GLPJ の主要メンバーとともに、梅澤ゼミの多くの学生さんが係って、活動していただきました。こどもまつりの竹細工は一本杉公園みどりの会との協働事業という形になって、多摩大学梅澤ゼミは無くてはならない存在となり、高齢化の目立つ一本杉公園みどりの会の竹細工の活動を支援していただきました。2年生、3年生、4年生がそれぞれの立場で活動されていて、3年生、4年生になるにしたがって、リーダーとして先輩としての役割を果たしているとともに、学年が上がるにしたがって、成長している様子が見られました。

## 2. 「ドングリ工作」講座

ドングリ工作の講座は、一本杉公園みどりの会の佐藤氏を講師とし、会の協力を得ながら継続して行っている。身近な雑木林の恵みを利用してドングリ工作を行くことと、材料の集め方やドングリについても学ぶことを目的としている。

前年度は「ドングリチルドレン」と「リース」の2種類プログラムであったが、今年度は佐藤氏が提案した松ぼっくりを使用した「フクロウ」を追加し、計3種類の制作を実施した。

#### (2) 事前準備

昨年秋に講座に必要な材料集めから始めたが、我々学生が拾って保管していたどんぐりは、管理が悪く腐ってしまったり、腐らないように干していたら家族に捨てられるなど、結局役立たず、佐藤氏が準備したものを使用することになった。本格的な打合せは、6/18(日)、7/9(日)、8/27(日)の計3回、グリーンライブセンターで行った。6/18(日)にドングリチルドレンの準備、7/27(日)に松ぼっくりを使用したリースの準備、8/27(日)に最終確認を行った。

本講座は、事前準備でドングリチルドレンの台木と枝繋げ、松ぼっくりと針金を使いリース状にし、講座当日にドングリや葉などで好きなように装飾してもらうというものである。

#### (3) 「どんぐり工作」講座当日の活動

講座は、9/3(日)10~12時、多摩グリーンライブセンターで開催した。プロジェクトメンバーの3人が参加し、一本杉公園みどりの会佐藤氏、藤岡氏、梅澤ゼミPJメンバー3名の5名にお手伝いで参加して下さった会員の方で活動を行った。今回は講座参加希望する連絡が多数あり、あっという間に募集が締め切られた。講座参加者は13名としていたため、4グループに分かれて丁寧に説明しながら制作を行うことができた。

#### (4) 活動の成果、反省点

こどもまつりからの実績もあり、こどもたち、ご家族の方々、ご年配の方々との自然の工作を通してコミュニケーションを取ることができ、スムーズに動くことができた。怪我や事故が無く、参加者が満足して作品を持ち帰っていく様子に達成感を感じた。

打合せ等では、メモを取っているにもかかわらず、学生側に内容の理解不足や誤りがあるなど至らぬ点が多々あり、連携団体の方々にはご迷惑をおかけしたと反省している。先走るより、先ず正しく理解することが大切だと思った。

#### (5) 「どんぐり工作」連携団体外部評価

講師の一本杉公園みどりの会の佐藤堅太郎さんと協働して、6月の準備段階から始まり、9月の講座までをやり遂げました。講座をサポートするスタッフの立場ではなく、講師の役割を一部担当するところまでを担いました。これは、長年のGLPJでドングリ工作を一緒に行ってきたことと、先輩からの引き継ぎ、2年生から活動に参加していたことなどによる成果です。講座当日のGLPJの皆様は大きな問題も無く、参加者の皆様にも十分に楽しんでもらえたと思います。佐藤堅太郎さんからのドングリ工作技術の伝承も一つの目的と考えられますが、1回の講座担当ではなかなか難しいところです。この講座を担当した経験と知識を10年、20年、30年後の地域、市民としての活動に活かしてもらうことを期待します。【謝辞】8年間大変お世話になりました連携団体の皆様に心より感謝申し上げます。

## 「海運業とスロートレードについて」

報告者：21611303 馬場 新

所属ゼミ：バートルゼミ

## 1. 目次

- (1) 海運とは
- (2) 海運業の仕組み
- (3) 海運業とスロートレード

## 2. 目的

世界全体のスロートレードの海運業への影響を明らかにし海運業の今後を展望します。

## 3. 内容

私たちの身の回りにあるもの、スーパーマーケットに並ぶ食べ物や衣服、毎日読む新聞の原料である木材、電気や燃料となる石油、石炭、天然ガスは、ほとんどが船によって運ばれています。海運は、世界のライフラインです。

国土交通省海事局が発表した「海事レポート」(2015年)によると、2014年の世界の海上荷動き量は10,529メトリックトンとなっており、10年前の2004年(6,493メトリックトン)比で62.1%増加しているのに対し、日本の外航商船隊の2014年の海上荷動き量は959百万トンと2004年(942百万トン)とほぼ横ばいとなっている。その背景には、日本を含め世界貿易の伸び率が経済成長率を下回る状態、すなわちスロートレードの状況があると考えられる。

本報告では、まず海運業と海運業の仕組みについて解説したうえで、ここ数年続いた世界貿易の伸び率が経済成長率を下回る状態の背景や要因を分析します。

## 4. 結論

- ・世界の実質 GDP 成長率の鈍化によって各国の消費や設備投資が抑制され、それに伴って輸出入など貿易の伸びが鈍化しています。
- ・貿易荷動き量が、鈍化することによって、海運会社、船舶保持者は、荷主と契約することが難しくなっています。
- ・貿易荷動き量の鈍化によって、新造船の船が作りにくくなり、コンテナ船の会社などは、合併などを行うことになると考えられる。
- ・米国による TPP 脱退、英国の EU 離脱に見られるように世界で反グローバリズムが広がってきており、自由貿易協定の見直しの動きにより各国が内向き思考になっているため、自由で開放されたグローバリズムの推進が必要不可欠と考えられる。





## <多摩大学へのアクセス>

### 【電車利用案内】

- ◎ 京王線新宿駅～聖蹟桜ヶ丘駅の所要時間→特急23分
- ◎ 京王線新宿駅～京王永山駅の所要時間→特急・急行乗り継ぎ23分
- ◎ 小田急線新宿駅～小田急永山駅の所要時間→代々木上原乗り換え多摩急行利用 33分

### 【路線バス利用案内】

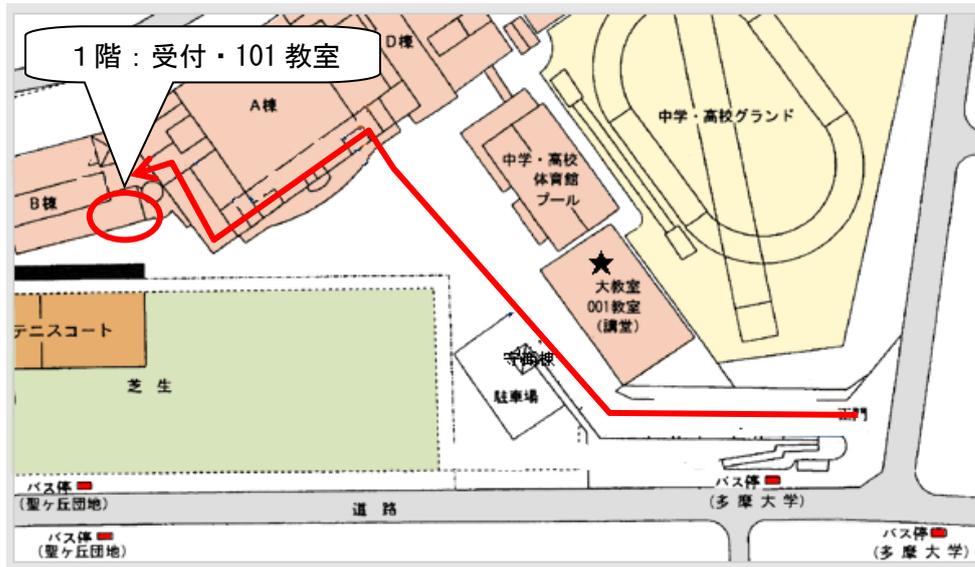
- ◎ 小田急線・京王線永山駅バス乗り場2番「系統永34聖ヶ丘団地行」  
「系統桜06 聖蹟桜ヶ丘駅行」(12分)、「多摩大学」下車
- ◎ 京王線聖蹟桜ヶ丘駅バス乗り場12番「系統桜06 永山駅行」(18分)「多摩大学」下車  
《永山駅→多摩大学》  
《聖蹟桜ヶ丘駅→多摩大学》

|    |                    |
|----|--------------------|
| 8  | 05, 15, 29, 49     |
| 9  | 09, 29, 49         |
| 10 | 09, 29, 49         |
| 11 | 09, 29, 45         |
| 12 | 00, 15, 30, 45     |
| 13 | 00, 15, 30, 45     |
| 14 | 00, 15, 30, 45     |
| 15 | 00, 15, 30, 45     |
| 16 | 00, 12, 24, 36, 48 |
| 17 | 00, 12, 24, 36, 48 |

|    |                    |
|----|--------------------|
| 8  | 02, 14, 26, 40, 52 |
| 9  | 12, 32, 52         |
| 10 | 12, 32, 52         |
| 11 | 12, 32, 52         |
| 12 | 10, 25, 40, 55     |
| 13 | 10, 25, 40, 55     |
| 14 | 10, 25, 40, 55     |
| 15 | 12, 27, 42, 57     |
| 16 | 12, 27, 42, 54     |
| 17 | 06, 18, 30, 42, 54 |

## <多摩キャンパス構内のご案内>

受付：正門から坂をのぼり、正面の建物のガラス扉から校舎にお入りください。アリーナ横を回った左手に受付がございます。



## <お帰りの路線バス時刻表>

### 《多摩大学→永山駅》

|    |                    |
|----|--------------------|
| 12 | 07, 25, 40, 55     |
| 13 | 10, 26, 41, 56     |
| 14 | 11, 26, 41, 56     |
| 15 | 11, 28, 43, 58     |
| 16 | 13, 28, 43, 58     |
| 17 | 10, 22, 34, 46, 59 |
| 18 | 11, 23, 35, 45, 57 |
| 19 | 09, 21, 33, 45, 57 |
| 20 | 09, 21, 33, 45, 57 |
| 21 | 09, 20, 30, 40, 50 |

### 《多摩大学→聖蹟桜ヶ丘駅》

|    |                    |
|----|--------------------|
| 12 | 11, 26, 41, 56     |
| 13 | 11, 26, 41, 56     |
| 14 | 11, 26, 41, 56     |
| 15 | 11, 26, 41, 56     |
| 16 | 11, 23, 35, 47, 59 |
| 17 | 11, 23, 35, 47, 59 |
| 18 | 11, 23, 35, 47, 59 |
| 19 | 11, 23, 35, 47, 59 |
| 20 | 11, 23, 35, 47, 59 |
| 21 | 09, 29, 52         |

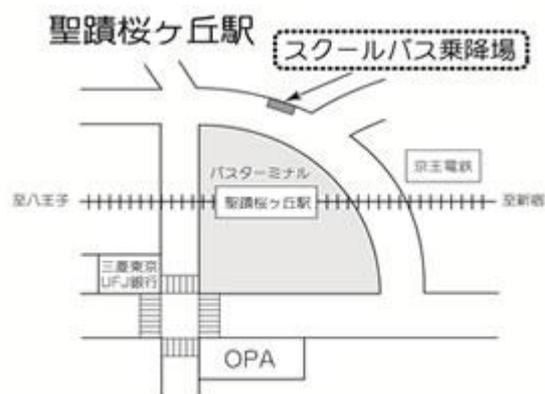
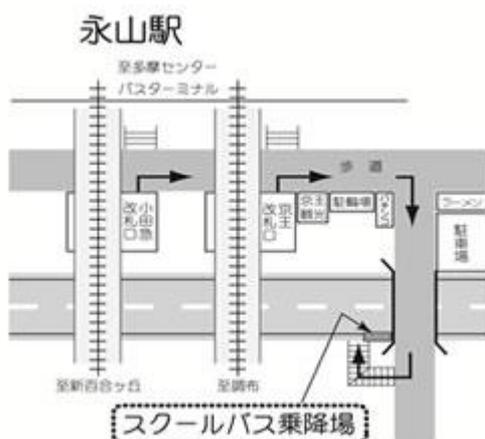
## <スクールバスのご案内>

発表祭当日はスクールバスもご利用いただけます。

| 聖蹟桜ヶ丘駅 発   |    | 永山駅 発 |    |    |    | 中学・高校、大学 発 |    |          |    |    |    |     |     |     |     |
|------------|----|-------|----|----|----|------------|----|----------|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 中学・高校、大学 行 |    |       |    |    |    | 永山駅 行      |    | 聖蹟桜ヶ丘駅 行 |    |    |    |     |     |     |     |
| 25         | 35 | 5     | 20 | 30 | 45 | 50         | 55 | 7        |    |    |    |     |     |     |     |
| 35         |    | 35    |    |    |    |            |    | 8        |    |    |    |     |     |     |     |
|            |    | 50    |    |    |    |            |    | 9        | 45 |    |    |     |     |     |     |
| 15         |    | 0     | 25 |    |    |            |    | 10       | 45 | 45 |    |     |     |     |     |
| 5          |    | 0     | 45 |    |    |            |    | 11       | 30 | 45 | 50 | 50  |     |     |     |
| 5          | 40 | 5     | 25 | 35 |    |            |    | 12       | 10 | 20 | 50 | 20  |     |     |     |
| 20         | 35 | 5     | 15 | 30 | 35 | 40         |    | 13       | 0  |    |    | 0   | 5*  | 45  |     |
| 5          | 20 | 20    | 35 | 55 |    |            |    | 14       | 40 |    |    | 40  | 50* |     |     |
| 0          |    |       |    |    |    |            |    | 15       |    |    |    | 30* | 55* |     |     |
|            |    |       |    |    |    |            |    | 16       |    |    |    | 0*  | 35* | 45* | 50* |
|            |    |       |    |    |    |            |    | 17       | 45 |    |    | 15* | 45  |     |     |
|            |    |       |    |    |    |            |    | 18       |    |    |    | 15* | 40* |     |     |

\*印のついた便は永山駅経由聖蹟桜ヶ丘駅行です。

- ・スクールバスは定員になり次第、発車します(定刻前に発車する場合があります)。
- ・道路事情、運行状況等により上記時刻は変更になる場合があります。
- ・所要時間は、学校⇄永山駅 片道約10分、学校⇄聖蹟桜ヶ丘駅 片道約15分の予定です。  
ただし永山駅経由は片道約30分となります。



ご来学いただきありがとうございました。



多摩大学 教務課

〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1

TEL:042-337-7113

FAX:042-337-7100